

設置の趣旨等を記した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部・学科等の特色	12
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	14
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	14
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	29
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	33
7. 取得可能な資格	34
8. 入学者選抜の概要	35
9. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	40
10. 研究の実施についての考え方、体制、取組	42
11. 施設、設備等の整備計画	43
12. 管理運営	46
13. 自己点検・評価	47
14. 情報の公表	48
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	50
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	51

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の社会的背景に関連する本学の沿革

VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) の時代と言われるように、コロナ禍、ウクライナでの戦争など予見されない大きな歴史的ショックに次々と見舞われる先行き不透明な世界にあって、既定の理論に縛られず実際のデータに基づいて判断を下す必要性が高まっている。他方で、情報通信技術の高度化・発達・普及により大量・高頻度のビッグデータが収集されるようになってきた。こうした変化が、データを分析できるスキルを持った人材を育成する重要性を高めている。データサイエンスに関する教育の必要性については、Society5.0 の到来等の変化に伴うデジタル人材の不足を受けて、国だけでなく産業界からも強く要請されている。生活のあらゆる局面でデータが遍く収集され分析・活用されるようになる社会の到来に伴い、データサイエンス関連の職種については、その社会的ニーズの強さと高い成長性から「21世紀で最も魅力的な仕事」と指摘されて以来（「*Harvard Business Review*」, 2012 年 10 月）、世界的に注目されている。このため、社会で強く求められているデジタル人材の供給増加に貢献すべく、データサイエンス教育体制の拡充が必要となっている。

本学は 1908 年（明治 41 年）学祖大妻コタカが千代田の地に裁縫・手芸の私塾を創設し、以来 115 年の刻を経る中で、「女性の自立のための女子一貫教育」を理念とし、家政学部、文学部、社会情報学部、人間関係学部、比較文化学部の 5 学部、および短期大学部、大学院人間文化研究科からなる大学、千代田、多摩、中野、嵐山の 4 つの中高を擁する女子総合教育機関として発展し卒業生数約 15 万人を擁している。大妻学院の個性・特色の一つに、実技実学重視の学風がある。実技実学重視は大妻コタカの次の言葉によっても表されている。「学問に向かっては、ただ一点の高下を争う点取り虫式の勉強を排し、学校に学んだ人として人格的にもっと磨かれ、学校で学び得た知識がすべての生活に活用し得る人になっていただきたいと思っております。」

（「白ゆり（大妻報國團學藝部、昭和 3 年 7 月）」）データサイエンスはデジタル社会の読み・書き・そろばんと言われ、全ての国民が育むものとされており（「第 43 回総合科学技術・イノベーション会議資料（平成 31 年 4 月）」）、まさに実技実学重視の本学が教育を進めるにふさわしい領域である。

また、人口の急激な減少、女性就業構造の変化、諸外国に比べて強いジェンダーギャップの存在などから、理工系を専攻する女性の増加が強く求められており、女子教育機関としては我が国最大規模の当法人が設置している大妻女子大学においてデータサイエンス学部を設置する意義は大きい。

なお、本学は、既設の学部として社会情報学部（平成 4 年度設置）を擁しており、設置後 30 年に及ぶその蓄積や、関連設備を活かせる状況にある。併せて、令和 5 年度からは全学共通科目にデータサイエンス科目「データサイエンス・AI 概論」を設置し、社会におけるデータ・AI の活用方法を全学の学生が学ぶことができる環境を整備している。この全学教育については、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の令和 6 年度認定を目指して準備を進めている。更に、このデータサイエンス学部新設構想については、平成 31 年 3 月に創立 110 周年に際し策定した現行中期計画にも位置付けて準備を重ねてきたとこ

ろで、独立行政法人大学支援・学位授与機構の「大学・高専成長分野転換支援基金助成金」によるデジタル等成長分野の学部再編等を支援する事業に令和5年に採択されている。

(2) 設置の社会的必要性

①国によるデータサイエンス関係の教育等の推進

- ・「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)(中央教育審議会、平成30年11月)」において、2040年に必要とされる人材として、「数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力」が示されている。
- ・内閣府、文部科学省、経済産業省により、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度が、学生のデータサイエンス等の基礎的な能力を育成するリテラシーレベルに続き、データサイエンス等を活用して課題を解決するための実践的な能力を育成する応用基礎レベルもスタートするなど、国としてデータサイエンスに係る教育を推進している。
- ・「科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)」において、「具体的な取組」として、「デジタル社会を担う人材が輩出・採用され、社会で活躍できるよう、知識・能力を教育する体制を更に充実させるため、2021年度より、大学と政府や産業界等との対話を加速し、…(中略)…数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の普及方策や、インターンシップ、PBL等も活用した学習成果を重視する教育の推進を通じて、雇用・採用の在り方と高等教育が提供する学びのマッチングについて、共通認識を醸成する。」とされている。
- ・デジタル人材の社会的必要性については、コロナ禍を経て、更に高まったところである。感染状況の把握、医療サービスや経済的支援の提供など多くの局面で、携帯電話の位置情報などによる個々人の状況の正確・迅速なデータ収集・集約・分析が重要で、我が国の体制には問題が多いと認識された。また、一連のコロナ関連経済対策の効果をEBPM(Evidence-based policy making)の一環として検証し政策評価するためにも、データが必要となる。こうした大量のデータを的確に処理・分析できる人材への社会的ニーズは今後も強く、IT業種にとどまらず官民にわたり広範な分野でデジタル人材の供給増加が課題となっている。
- ・令和4年度補正予算において約3,000億円に及ぶ「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金」が認められ、独立行政法人大学支援・学位授与機構の「大学・高専成長分野転換支援基金助成金」として、デジタル等の成長分野をけん引する人材を育成する学部再編等の取組支援が始まり、本学のデータサイエンス学部新設構想も採択され支援を受けている。

②産業界からの要請

- ・「大学等が実施するリカレント教育に関するアンケート調査」結果報告(日本経済団体連合会(以下、経団連)、令和3年3月16日)では、「IT関連および情報・数理・データサイエンス・統計を学ぶことが強く期待されている」とされている。
- ・同じく、経団連の「高等教育に関するアンケート結果(経団連、平成20年4月17日)」に

よると、今後、従業員を送り出したい専攻分野で一番多いものとして「経済学・経営学」、次に「情報・数理・データサイエンス」、3番目が「IT 関連」とされており、本学部の主要分野と重なっている。

- ・データサイエンスに関する産業界のニーズとしては、エンジニア的な色彩の強い情報系の人材よりもビジネス系の人材がより強く求められている。企業が採用・育成したいデータ関連人材像として、「データによるビジネス課題解決を得意とする人材」が、戦略的に考えられる人材、サービスを開発する人材、理論に詳しい人材、データ分析のプロフェッショナル、エンジニア、クリエイターを抑えトップ（回答企業の 43%）となっており、今後増員したい人材のタイプとしても、情報系、エンジニアを抑え、「ビジネス課題を抽出し、データを分析・活用して課題を解決できる人材」が首位にある（どちらも「データサイエンティストの採用に関するアンケート（一般社団法人データサイエンティスト協会、令和 4 年 3 月 31 日）」）。
- ・企業側のニーズだけでなく、働く者にとってもデータ関連業務は高い将来性が見込まれている。例えば、データサイエンティストの場合は現在の自分の業務に将来性を感じている者の割合が一般に比べ格段に高く（84%>24%）、就労者全体の中でもデータサイエンティストという職種に将来性を感じるとする者は多い（「一般ビジネスパーソン調査＜データサイエンティストについて＞（一般社団法人データサイエンティスト協会、令和 4 年 10 月 18 日）」）。こうした結果は、データ関連業務が、仕事に関する将来への明るい希望を通じ、働く者のやりがい、モチベーション、自己肯定感、満足感につながる可能性を示唆しているものと見る事ができよう。

③地域特性との関係

- ・本学部を設置する千代田キャンパス（千代田区三番町）は、行政等国の中枢機能をはじめ、日本を代表する企業や大学・研究機関、またそれらに付随する情報・データが集積している都心にあり、それらの機関や企業との連携による情報やデータの活用が行いやすい。
- ・本学のデータサイエンス学部においては、データサイエンスとビジネスの両面を理解した人材を、企業等の協力も得た PBL（Project-based Learning）などの手法も活用して育てることとしているが、こうした学外との教育面の連携を図ることも地理的に容易である。

④女性のデジタル人材不足

- ・「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（教育未来創造会議第一次提言、令和 4 年 5 月 10 日）」において、デジタル人材の不足に加え、特に女性において諸外国に比べて理工系の入学者が少ないという課題が指摘されており、目指したい人材育成の一つとして「現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加」が掲げられており、女子大学である本学がデータサイエンス学部を設置する意義は大きい。
- ・当法人は 4 校の併設中学・高校を持っており、これら併設校との高大連携が容易である。データサイエンスについては社会的な認知が進んでいると思われるが、データサイエンス学部新設に向け本学の併設校向けに令和 4 年に実施した調査の結果によれば、高校 2 年生（調査

時点)には未だ理解が進んでいない様子も垣間見える。そこで、各種の高大連携活動により、まずは総数約 4,500 名に及ぶ併設中高の生徒にデータサイエンスへの理解を深めてもらい、データ駆動社会に対応できる女性の育成を進めていく。

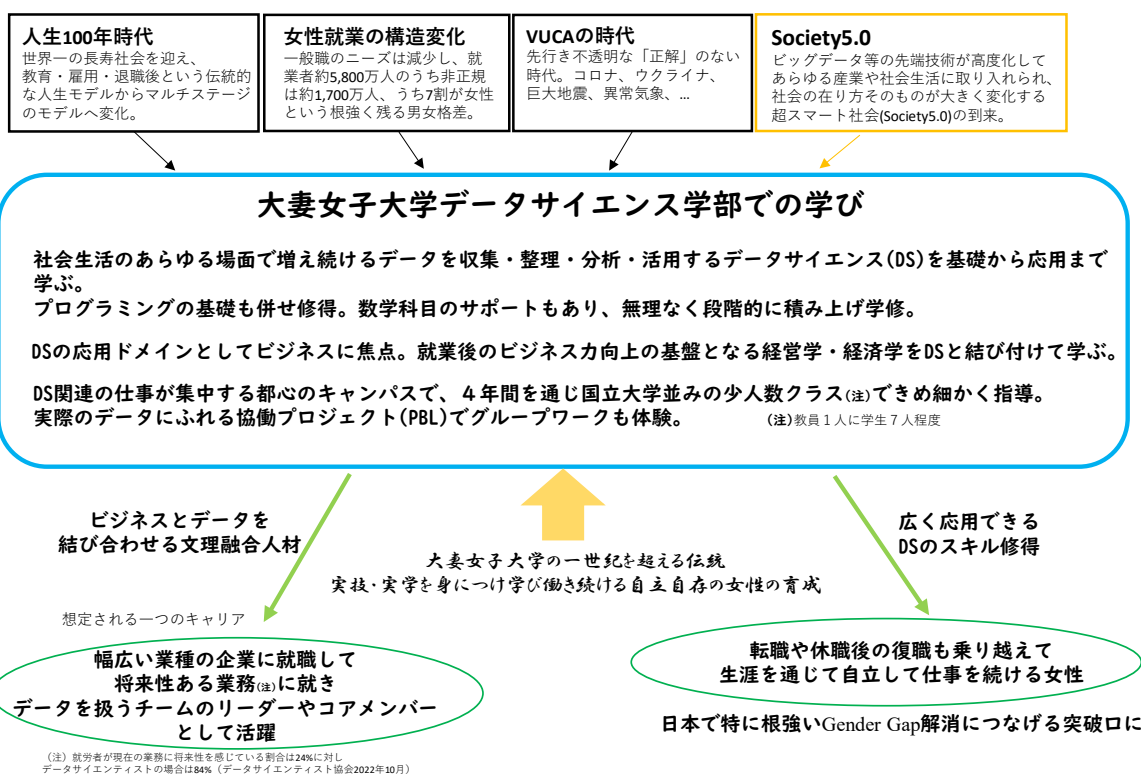
- ・このようにデジタル人材の供給不足解消が社会で強く求められている一方で、女子学生の多くが伝統的に就職してきた事務系職種への需要は減退してきている(厚生労働省の労働力調査によれば、女性就業者総数に占める事務従事者の割合が平成 11 年の 3 割をピークに 27% を切るまでに低下し(コロナ禍を除く直近令和元年)、販売従事者、サービス職業従事者も減少する一方で、専門的技術的職業従事者は 19%に上昇)。オックスフォード大学の研究により注目を集めた AI・ロボットによる雇用の減少については、特に事務職種への影響が大きい(「未来人材ビジョン(経済産業省、令和 4 年 5 月)」)。こうした女子就業の構造変化を受けて、成長分野であるデジタル関連職種へ女子学生が専門スキルを身に付けて就業できるよう女子学生への専門教育を関連分野で充実することが求められている。
- ・理工系への女子入学者の拡大に向けては、一部の共学大学で女子向け特別枠を設ける動きも見られるが、女子大学としての取り組みも重要である。この点で、学校での学びに実社会におけるジェンダー規範が反映されて、女子学生がリーダー役を経験する機会が共学では限られていたとの指摘もある。経済においても、女性は株式投資などリスクをとる行動に慎重な傾向が多く多くの国々で見られるが、高校生のデータを用いた経済分析によれば、男子生徒は共学校か男子校かで有意な差が見られないが、女子については、女子校に通う生徒よりも共学校に通う生徒の方がリスク回避的な傾向が見られることを見出した研究があり(Booth, A., and Nolen, P. 2011 “Gender differences in risk behaviour: Does nurture matters?” *The Economic Journal* 122, F56-F78)、共学により女子生徒が社会に根付くジェンダー規範に合わせて行動するようになっていく可能性が示唆される。即ち、女子大学ではこうした制約から自由に学ぶことができる効果が期待できる。米国においてすらデジタルの中心地シリコンバレーは男性偏重が著しいとの批判があるほどで、理工系のようにこれまで長期にわたり女子比率が低かった分野では、共学環境がもたらす影響に配慮が特に必要であろう。このため、世界的に見て未だにジェンダーギャップがとりわけ深刻な我が国では、女子大学の役割は依然として大きい。特に、女子大学として長い伝統を誇り多くの学生数を擁する本学がデータサイエンス学部新設に取り組む意義は高い。

⑤高大接続

- ・高等学校の学習指導要領が令和 4 年度から改訂され、データについても扱う「情報 I」や、より良く課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指した「総合的な学習の時間(探究)」が必修科目化された。本学部を設置する令和 7 年度は、この「情報 I」や探究を履修した生徒が初めて入学してくる年でもあり、高大接続の観点からは開設時期として適している。

本学としては、併設中学・高校と密に連携するだけでなく、出張授業を積極的に行うなどして地域の高校ともデータサイエンスに関する教育上の連携を強めていく。

大妻女子大学データサイエンス学部新設構想の概要



(3) 設置の趣旨

以上のような社会的要請に応えるため、大妻女子大学はデータサイエンス学部を新設することとした。データサイエンスを学んだ人材に対する社会のニーズは単一ではない。世界最先端のデータサイエンス研究を行う高度専門人材だけでなく、社会の様々な場面でデータサイエンスの手法を活用して課題の解決に当たる人材が求められている。こうしたデータサイエンス人材の多様性や、既に国内他大学で類似の学部が設置し始められていることなどをふまえて、本学部で養成する人材を特徴付けて説明することとする。設置の趣旨は、以下の三点に要約できる。

第一に、社会生活のあらゆる場面で増え続けるデータを収集・整理・分析・活用して、ビジネスの場面で社会の課題を発見し解決できる人材の育成を目指すことにある。Society5.0の特徴は、ユビキタス、即ち、生活のあらゆる場面でデータが収集され活用される社会であることだが、そのためには、データを分析するためのスキルが求められる。ビッグデータとともに注目された比較的新しい学問分野であるデータサイエンスは、正にそのための学問であり、本学部では、データサイエンスを入門・基礎から応用・発展まで体系的に学ぶ。

その際、分析の手法や理論だけでなく、分析の後段階である活用についても重要であると考え、データ分析の前段階としての収集・整理も遂行できる人材の養成を重視する。データを分析するに当たっては、直ちにデータサイエンスの分析手法をデータに適用できることはむしろ稀

で、その前にデータの整理が重要な前段階となる。また、出口での活用のイメージがなくては必要なデータを有効に収集することも難しい。データサイエンティストの仕事において、データのクリーニングなどデータの準備に多くの時間が費やされている（J. Kelleher and B. Tierney 2018 *Data Science*, p.65, MIT Press によれば 79%が data preparation）。こうした作業の多くは手間がかかるものであるが、決して単純作業とはいえず、データの分析手法と対象データの特質に関するドメイン知識の双方に通じた人材でないと円滑に進めることが困難である。どれだけ高度なデータサイエンスの分析技法を知っていても“garbage in, garbage out”と言われるように、分析に用いるデータの質が結論に強く影響する。こうした点をふまえ、本学部では、学生が少人数のグループで双方向の議論を交えつつ実際のデータにふれ試行錯誤の分析作業を進める演習を重視した教育を行う。こうした教育により、自らデータを分析するだけでなく、世界最先端の高度な専門性を有するデータサイエンティストともチームのコアメンバーとして協働し、データの収集・整理から、分析を経て、活用に至る幅広いデータ関連業務に貢献できる人材を育成することを目指す。

第二に、ビジネスとデータを結び合わせることができる人材の育成を目指すことである。本学の卒業生の大半がこれまで企業に就職してきており、今後もその大勢に激変は見込まれないことから、データサイエンスの応用場面としては、本学部ではビジネスを念頭に置くこととする。データサイエンス、あるいは統計学は、およそデータに関わる限りあらゆる場面に応用可能であるが、それだけに、応用・適用されるドメインの理解がなければ、正しい分析ツールの選択もおぼつかなくなる。ビジネス・スクールなど修士段階での高度専門教育が普及した米国で統計学部が定着しているのとは異なり、社会人大学院進学者に限られる我が国で、従来、統計学が、経済学、心理学、農学、公衆衛生、工学など応用対象の特定分野と併せて教育されてきたのも、この点への配慮が重視されてきたと考えられる。

こうした状況をふまえ、本学部では、ビジネスへのデータサイエンスの応用を念頭に、応用ドメインとしてのビジネスへの理解を深める教育を行う。具体的には、企業戦略やマーケティングなどの経営学のみならず、企業行動やそれを取り巻く市場環境などの経済メカニズムを理解するための経済学の体系的な学びを目指す。こうした教育により、ビジネスからデータを的確に収集・整理し、データサイエンスを用いて分析し、経済学・経営学の専門的知見を活かしてデータを活用する、つまりビジネスとデータをつなぐ人材が育つと期待される。こうした人材の活躍により、ビジネスからデータへ（日常のビジネスで死蔵されていた、または意識的に集められていなかったデータを収集・整理）、データからビジネスへ（データサイエンスによる分析結果を活用したデータ駆動型ビジネス・モデルの創出）という好循環が形成された社会の構築につながることも展望できる。

一般社団法人データサイエンティスト協会では、データサイエンティストに求められるスキルとして、「データサイエンス力」と「データエンジニアリング力」に加え「ビジネス力」をあげている。学部レベルでの経営学教育により直ちに実践的なビジネス力が体得されるとまでは期待すべきでないが、企業が従業員に学ばせたい分野として経済学・経営学があげられていること（「高等教育に関するアンケート結果（経団連、平成 20 年 4 月 17 日）」）、経済学のように積み上げ型体系性が強い学問を働きながら隙間時間で短時間に学ぶことは困難であること、GAFA など米国

の IT 大手企業が経済学博士号取得者を多数採用し経済学の専門知識を求めていることなどをふまえると、社会人になる前に学部で経済学・経営学を体系的に修得しておくことは、社会人になってからビジネスの実体験を積む前の専門教育として有効であると考えられる。また、これまでデータサイエンスに関連した分野は、理工系と経済経営系で別れて教育が行われることが多かったことから、本学部が育てる人材は、今日の社会で求められる文理融合型と分類できる。

第三に、データの収集・整理・分析・活用に当たって、多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら課題の設定や解決ができる人材の育成を目指すことである。データサイエンスは、一人の天才が単独で遂行するというよりも、チームでの取り組みが重要な分野である。こうした特徴は、ビッグデータの出現とともに顕著になっており、またデータの分析だけでなく、その前段階の収集・整理作業や、後段階のビジネスでの活用を視野に入れた場合に特に重要になる。

そこで、本学部では、座学による一方的な講義にとどまらず、少人数クラスによる双方向参加型の教育を重視する。具体的には、入学から卒業まで、いわゆるゼミ形式の授業を切れ目なく提供する。こうした教育は、学生：教員比率に恵まれた本学部の体制により可能となる。また、企業など学外の方々も、実務家の講師派遣、データ提供、PBL 科目などを通じて、本学部の教育に多角的に関与していただく。特に、産学協働のプロジェクトへの参加を通じて、学生はビジネスへのデータサイエンスの具体的な応用を体験することができる。こうした教育を経て、IT 業種にとどまらずデータを活用しようとする幅広い業種の企業に就職して、将来性あるデータ関連業務に就き、データを扱うチームのリーダーやコアメンバーとして活躍できる人材に育っていくと期待できる。

以上のような特徴は、本学の伝統を今日的に継承・発展させるものでもある。本学中期計画の「大妻学院の使命」の第一には、「学び働き続ける自立自存の女性の育成」が掲げられているが、本学部において統計・情報と経済・経営を学ぶことにより、多様なライフイベントを経験することが多い女性が、転職や休職等を乗り越えて生涯を通じて自立して学び働き続けることができるよう支援するものである【資料1：大妻学院中期計画】。本学部の広報用キャッチフレーズ「データ力でもっと自由なわたしに」も、「データ力」（データが秘めているポテンシャルを意味する造語）をデータサイエンスにより解き放つことによって、女性が人生の様々な局面でより広い選択肢を持てるよう教育したいという本学部としての願いを表したものである。データサイエンスのように、特定の業種に限定されずおよそデータに関わるあらゆる仕事にユビキタスに及ぶ汎用性の高いスキルは、産業構造の転換を乗り越え「人生百年時代」に仕事を続ける女性にとって特に重要である。

なお、本学は、IT 化の流れにいち早く対応して、平成4年度に社会情報学部を設置しており、今般のデータサイエンス学部新設も大学としてのこの蓄積をふまえたものであるが、新設学部と社会情報学部とは多くの面で異なっていることも付言しておく。まず、データサイエンス学部では、データサイエンスという比較的新しい学問の根幹を成す統計学について、入門、基礎から発展レベルまで体系的に学べるようにしている点である。また、データサイエンスのビジネスへの応用を重視して、経済学・経営学についても、同じく入門、基礎から発展レベルに至る科目を配置してい

る。社会情報学部では、統計学、経済学ともに、基礎を学んでから応用発展系の科目に進むという積み上げ式カリキュラムを採用していない。社会情報学部は、情報システムと情報デザインを学ぶ情報デザイン専攻、自然環境と共生した暮らしについて学ぶ環境情報学専攻、情報社会に対応すべく経済学、経営学だけでなく社会学、メディア学も含め社会系の分野を幅広く横断的に学ぶ社会生活情報学専攻から成り、データサイエンス学部との棲み分けは明確である。さらに必修科目の考え方も異なる。社会情報学部のうちデータサイエンス学部と比較的近接する学問分野を持つ2つの専攻（社会生活情報学専攻、情報デザイン専攻）に共通する必修科目は、情報系科目以外は基礎社会学であるが、データサイエンス学部では情報系科目以外に統計学、経済学、経営学のそれぞれの入門科目を全員必修とする【資料14：必修科目比較表】。加えて、データサイエンス学部は、主体性を持って新たな課題を見だし問題を解決していく能力を育成するためPBL型授業を配置することとしており、その点も社会情報学部と異なる点である。

こうした教育面での違いに加え、入口・出口の面でも両学部の違いは大きい。一般選抜の個別学力試験で、データサイエンス学部は、数学を2月1日実施の入試で必須とし、2月2日でも選択科目に含めているが、社会情報学部では、数学は両日とも必須ではない。就職先を見ても、データサイエンス学部では、情報通信業への就職はもとよりビジネスでデータを扱う製造業や卸売・小売業等の幅広い産業にアナリスト、データサイエンティスト、または現場でデータを扱うビジネスパーソンとして様々な企業・産業へ就職していくことを想定しているのに対し、社会情報学部の情報デザイン専攻ではSE職種を含め過半の学生が、社会生活情報学専攻でもおよそ1/3の学生が情報通信業に就職しており【資料15：進路統計2023 2023.3卒（一部抜粋）】、この面での違いも顕著である。

（4） データサイエンス学部において養成する人材像及び教育上の主たる3つのポリシー

以上の設置の趣旨を具現化するため、データサイエンス学部データサイエンス学科の養成する人材像、教育研究上の目的、及び教育上の主たる3つのポリシー（卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー、以下DP）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー、以下AP））を次のように定める。

養成する人材像

- 社会生活のあらゆる場面で増え続けるデータを収集・整理・分析・活用して、ビジネスや社会の課題を発見し解決できる人材を育成する
- ビジネスとデータを結び合わせることができる文理融合人材を育成する
- 本学の伝統である実技・実学を重視する教育により、学び働き続ける自立自存の女性を育成する
- 多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら課題の設定や解決ができる人材を育成する

教育研究上の目的

データサイエンスの知識やスキルを修得し、ビジネスや社会の課題の設定や解決ができる文理融合人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（DP）

データサイエンス学部データサイエンス学科では、以下の要件や能力を身に付け、学則に定める所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

DP1：社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得して、社会が抱える課題を見いだす能力を備えている。

DP2：数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を備えている。

DP3：ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を有し、データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得している。

DP4：ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて、データを収集・整理・分析・活用するプロジェクトに貢献できる能力を備えている。また、多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）

データサイエンス学部データサイエンス学科では、卒業の認定に関する方針（DP）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行う。

CP1：データサイエンスの知識を社会や人間と関連付けて理解するため、幅広い知識と教養を修得できる全学共通科目を設置する。また、汎用的なコミュニケーション・スキルを向上させるため、英語科目を設置する。1年次には、少人数クラスの「入門演習」により、調査・考察のあり方、資料の扱い方、論文・レポートの書き方、口頭発表の手法など、大学の学びの基礎を身に付ける。また、情報化が進む中で求められる倫理やデータリテラシーに関する理解を深める科目や、データを収集・整理し批判的かつ適切に読み取る力を養う科目を設置する。

CP2：データサイエンスを学ぶために必要とされる基礎的素養を身に付けるために、「数学」や「統計」「情報」の入門・基礎科目を設置する。「数学」や「統計学」、「情報学」の入門科目、基礎科目や、高校までの学習に応じてリメディアル科目も用意し、データサイエンスに対する興味、関心を育てていく。データサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を修得するため、プログラミングの基礎や、ビジネス分野での応用を念頭に置いた統計学の専門科目を設置する。

CP3：ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を修得するためビジネス系科目群

に入門・基礎科目を設置する。また、実データを理解し活用するための学びとしてデータ分析に関する科目も設置し実社会が抱える課題を発見・解決する力を養う。

さらに、入門・基礎科目で培った知識や手法等を活用し、実社会においてデータを活用して課題の解決を図る能力を身に付ける学びとして、ビジネス系科目群に発展科目を設置する。

CP4：主体性を持って新たな課題を見いだし、データを収集・整理・分析・活用して問題を解決していく能力を育成するため、1年次から4年次まで切れ目なく少人数クラスでグループワーク形式により実践的に学ぶ演習科目を設置し、4年次には4年間の学びの集大成である「卒業研究」を必修科目として設置する。

また、実務家を招くなどして現場においてデータサイエンスがどのように活用されているかを知る科目を設置する。

CP5：学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価の方法（筆記試験、レポート、小テスト等）を用いて評価する。さらに、GPAによる成績分析や授業改善のためのアンケート、学修成果に関するアンケート、各種入学者選抜の評価、卒業時アンケート、進路統計等の結果を用いて、学修成果や教育課程の評価を継続的に行う。

入学者の受入れに関する方針（AP）

データサイエンス学部データサイエンス学科では、卒業の認定に関する方針(DP)及び教育課程の編成及び実施に関する方針(CP)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた人を求める。

<知識および技能>

AP1-1：高等学校における学習を通じて、「英語」、「数学」、「情報」、「国語」を含む幅広い科目の基礎的学力をバランスよく身に付けている人。

AP1-2：データサイエンスを学ぶ上で必要な「数学」などの科目の基礎的な知識を有する人。

<思考力・判断力・表現力等>

AP2：データサイエンスと経済・経営に関する知識に基づいて、物事を論理的かつ多面的に考え、データを分析して課題の解決策を提案する力を身に付けたい人。

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

AP3：社会の抱える課題に関心を持ち、他者と協働し、データを活用してビジネスに積極的に貢献したいという意欲を持つ人。

本学部として「養成する人材像」とDPは緊密に対応をとって設定している。前述のCP、APと合わせて、ポリシー相互の関係性を図示すると【資料2：ポリシーの相互関係】のように整理できる。図に矢印で関連性を示したように、入学者の選抜から学士課程教育を経て学位授与に至る一連のプロセスを通じて、本学部として目指す人材が養成されるよう設計されている。

この中で、DPは4項目から、CPは5つの項目から構成されているが、各項目が独立にそれぞれの項目に対応するものではない。CP1, CP2, CP3はそれぞれ主としてDP1, DP2, DP3に対応するものであるが、DP1の「社会が抱える課題を見いだす能力」は、CP1に対応する教養科目等の履修だけでなく、CP4に対応する演習科目等への参画を通じて学生間や学生と教員、更には企業等とのディスカッションやコミュニケーションの中で養成する必要がある。また、DP4の「プロジェクトに貢献できる能力」や「課題を発見し解決していく能力」は、本学部においては「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて」実行するものと想定しており、CP1,CP4に対応する科目だけでなくCP2,CP3に対応する統計・情報、経済・経営の両分野における専門科目の学修を前提とするものである。DP3の「経済学・経営学の基礎的な専門知識」も、CP3に直結した経済学・経営学の専門科目の履修だけでなく、DP3で「データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得している」とあるように、CP2に対応した統計・情報系科目の学修を前提としたものである。APについても同様に、AP1-1の高校段階における幅広い学力は、CP1に直結するだけでなくCP2,CP3,CP4の前提ともなるものである。養成する人材像も、人材のある側面がDPの特定の項目に対応するというよりも、複数のDP項目を満たすことで目指す人材が養成されることになる。実社会での応用を重視する特徴を持つデータサイエンスを専門とする本学部では、カリキュラム設計、学位認定等に際し、こうした各ポリシーにおける項目間の多面的・重層的な相互関係が重要であると認識している。【資料2：ポリシーの相互関係】ではポリシーの項目間の関係を線で示したが、次節ではカリキュラム・マップとともに、3つのポリシーと授業科目との関係を改めて説明することとする。

なお、こうしたポリシーに基づいて教育を行う本学部が研究対象とする中心的な学問分野については、学部の名称にも記すように基本的にデータサイエンスであるが、データサイエンスが比較的新しく発展し応用を重視する学問分野であること、また本学部がデータサイエンスのビジネスへの応用に焦点を当てることから、標準的な学問分類との対応で整理すると、統計学、情報学、経済学、経営学となる。

2. 学部・学科等の特色

近年、DXの推進やAIの活用が本格化しておりデジタル人材への需要が社会で急増している。特にスマートフォンなどに蓄積されるビッグデータは、活用を通じて新しいライフスタイルを切り開く可能性を秘めている。しかし、理工系分野における女性比率は依然として低い状態が続いている。本学では、実技実学重視のもと教育・研究を追求してきた歴史がある。こうした中で、本学は、データサイエンスとビジネス（経済・経営）の学びや企業等実社会と連携した教育などにより、実社会が抱える課題を発見・解決する力を身に付け、自立して学び働き続けることができる女性を育成することを目指す。本学部は以下のような特色を持つと位置付けられる。

(1) データの収集・整理・分析・活用で貢献する文理融合人材の育成

データサイエンスにつながる統計学などの教育は、我が国では伝統的に工学部、理学部、経済学部などに分かれて提供されてきた。しかし、データサイエンスは、伝統的な統計学よりも現実への応用を重視しており、また学生が就職後に実践の中でデータサイエンスのスキルを応用するには応用ドメインの知識が求められることから、本学部では統計・情報系だけでなく、経済学・経営学から成るビジネス系の教育を体系的に行う。このため、本学部で育成を目指す人材は、今日の社会で必要性が高まっている文理融合人材となることが期待される。伝統的な文理の学問分野区分を越えて統計・情報と経済・経営の両方を学ぶことによって、データの収集から始まり整理を経て分析を加え活用に至る一連の過程を遂行できる人材となる。このうち分析については理系的な要素が強いが、活用の部分にはビジネスの文系的な学びが必要である。文理双方にまたがる科目を履修する中で、データサイエンスでは実践・応用が重視されるため、入学から卒業まで少人数のゼミ形式の教育を切れ目なく提供し、PBL教育のための教室も整備して学生へのきめ細かな教育環境を構築する。また、データサイエンスを用いたデータの分析だけでなく、経済学・経営学に基づいたデータサイエンスのビジネスでの活用という分析の後段階、データサイエンティストの負担となっているデータ分析の前段階としてのデータの収集・整理にも、データサイエンスの体系的学びとビジネス応用の学修によって貢献できる多様な文理融合人材の供給を特色とする。家政学部と社会情報学部で提供されている一部の教育以外は専ら文系の教育をこれまで行ってきた本学にとって、デジタル時代の読み・書き・そろばんと言われるデータサイエンスを学ぶ新学部の設置は、本学の実技実学重視の伝統を時代の要請に合わせてバージョン・アップすることにより、これからの本学の役割を規定する嚆矢となるものである。

(2) データサイエンスのビジネス応用で幅広く活躍する職業人の育成

本学部では、データサイエンスとビジネスの両面を理解した人材を育てるため、統計学・情報関係の科目と経済学・経営学関係の科目を並行して学修できるカリキュラムを構築するとともに、ビジネスの場におけるデータサイエンスの応用を体験する科目を整備する。このため、学部設置以前から、本学では連携候補企業と、企業からのデータの提供、PBL教育への協力等の協議を進めている。本学部で育成することを目指す人材は、業種を越えて汎用性の高いデータサイエンスの応用スキルとビジネスに関する専門的知識を併せ修得し、幅広い業種・職種・働き方で活躍する職業人となることが期待される。このため、本学部の新設は、本学が実技実学重視の伝統を礎に重点的に果たしてきた職業人養成の機能をより強化するものである。

(3) データが生活のあらゆる場面で重視される Society5.0 で活躍する女性の育成

女性の就業構造が長期的に変化し、事務系職種への労働需要が減退していることに加え、DXの推進、AIの導入は、女性がデータサイエンスを身に付けて就業機会を拡大することの重要性を増している。世界的に見て依然として賃金や処遇面でジェンダーギャップが深刻な我が国においては、女子大学において、デジタルのような成長分野に就業できる女性を育成することは、

将来的なジェンダーギャップ解消の突破口ともなるものと評価できよう。本学が調べた範囲では、本学部は、首都圏あるいは東日本の女子大学で初のデータサイエンス学部となるもので、多くの人口、特に若年女性が集中する東京において、こうした初の試みは社会的に影響力の大きいものと自覚して先駆的取り組みを進める。データサイエンス学部については、近年多くの大学で新設が続いているが、近隣の新設類似学部の女子学生比率は3割程度にとどまっている。

【資料3：競合校の1年次入学試験の状況】 共学環境では一般社会におけるジェンダー・バイアスに女子学生が影響される問題があることもふまえ、我が国有数の規模と伝統を誇る女子大学である本学は、データサイエンス学部を新設することで女子高等教育機関としての役割を果たしていく。なお、本学のデータサイエンス学部は、女子大学として首都圏・東日本初であるだけでなく、女性の就業促進に資する経済学・経営学と併せて学ぶという点でも特徴を持っている。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

本学部では、データの収集・整理・分析・活用で貢献する文理融合人材の育成、データサイエンスのビジネス応用で幅広く活躍する職業人の育成及びデータが生活のあらゆる場面で重視される Society5.0 で活躍する女性の育成が特色であり、これらを実現するために、科目群を統計・情報系科目群（数理・統計分野科目、情報分野科目）、ビジネス系科目群（経済分野科目、経営分野科目）、データサイエンス科目、演習科目、に区分しており、データサイエンスについて基礎から応用・発展まで深く学修し、ビジネス分野に活用できるよう教育課程を編成している。【資料4：カリキュラム・マップ】

なお、本学では、他の学部とは独立した新学部を創設して当該分野の教育に本格的に取り組むこととしたところである。また、データサイエンスは比較的新しい分野である。このような要素を考えると、卒業生の採用を検討する企業等学外の関係者、在学中の学生、入学志願者等に、学修する専門分野が明確に伝わるよう、学部、学科及び学位の名称にデータサイエンスと明記することが必要である。

従って、学部名称は「データサイエンス学部」、学科名称は「データサイエンス学科」、学位の名称は「学士(データサイエンス)」とする。また、その英文は国際的な通用性に鑑み、「Data Science」と表記する。

- | | | |
|-----------|--------------|---------------------------------|
| (1) 学部の名称 | データサイエンス学部 | (英訳) Faculty of Data Science |
| (2) 学科の名称 | データサイエンス学科 | (英訳) Department of Data Science |
| (3) 学位の名称 | 学士(データサイエンス) | (英訳) Bachelor of Data Science |

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

- (1) データサイエンス学科 教育課程の編成及び実施に関する方針

データサイエンス学科の教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）は次のとおりである。

データサイエンス学部データサイエンス学科では、卒業の認定に関する方針（DP）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）

CP1：データサイエンスの知識を社会や人間と関連付けて理解するため、幅広い知識と教養を修得できる全学共通科目を設置する。また、汎用的なコミュニケーション・スキルを向上させるため、英語科目を設置する。1年次には、少人数クラスの「入門演習」により、調査・考察のあり方、資料の扱い方、論文・レポートの書き方、口頭発表の手法など、大学の学びの基礎を身に付ける。また、情報化が進む中で求められる倫理やデータリテラシーに関する理解を深める科目や、データを収集・整理し批判的かつ適切に読み取る力を養う科目を設置する。

CP2：データサイエンスを学ぶために必要とされる基礎的素養を身に付けるために、「数学」や「統計」「情報」の入門・基礎科目を設置する。「数学」や「統計学」、「情報学」の入門科目、基礎科目や、高校までの学習に応じてリメディアル科目も用意し、データサイエンスに対する興味、関心を育んでいく。データサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を修得するため、プログラミングの基礎や、ビジネス分野での応用を念頭に置いた統計学の専門科目を設置する。

CP3：ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を修得するためビジネス系科目群に入門・基礎科目を設置する。また、実データを理解し活用するための学びとしてデータ分析に関する科目も設置し実社会が抱える課題を発見・解決する力を養う。

さらに、入門・基礎科目で培った知識や手法等を活用し、実社会においてデータを活用して課題の解決を図る能力を身に付ける学びとして、ビジネス系科目群に発展科目を設置する。

CP4：主体性を持って新たな課題を見だし、データを収集・整理・分析・活用して問題を解決していく能力を育成するため、1年次から4年次まで切れ目なく少人数クラスでグループワーク形式により実践的に学ぶ演習科目を設置し、4年次には4年間の学びの集大成である「卒業研究」を必修科目として設置する。

また、実務家を招くなどして現場においてデータサイエンスがどのように活用されているかを知る科目を設置する

CP5：学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価の方法（筆記試験、レポート、小テスト等）を用いて評価する。さらに、GPAによる成績分析や授業改善のためのアンケート、学修成果に関するアンケート、各種入学者選抜の評価、卒業時アンケート、進路統計等の結果を用いて、学修成果や教育課程の評価を継続的に行う。

（２） 各分野の科目群

本学部では、データサイエンスをビジネスの場面で活用し、様々な課題を解決できる人材を育

てるため、統計学・情報関係の科目と経済学・経営学関係の科目を並行して学修できるカリキュラムを構築するとともに、ビジネスの場におけるデータサイエンスの応用を体験する科目を整備する計画である。このため、先に掲げた CP に従って設置する科目群を、専門教育科目としての統計・情報系科目群（数理・統計分野科目、情報分野科目）、ビジネス系科目群（経済分野科目、経営分野科目）、データサイエンス科目、演習科目、および全学共通科目に大別して編成する。以下では、それぞれの科目群について順次概説する。

なお、科目のレベルを学生にわかりやすく伝え体系的な学びを促すため、国際的に広く使われている方式になったナンバリング・システムを導入する。【資料5：科目ナンバリング】具体的には、入門科目をレベル1、基礎科目をレベル2、発展科目をレベル3、実践科目をレベル4と設定して、全ての学部科目に系統立って番号を付す。

このような表示を参照して学生は系統的に順次立って学修を進めることとなるが、各科目は教育上推奨される学年に配当される。具体的には、入門科目は1年生、基礎科目は2年生、発展と実践の科目は3・4年生を基本的に配当年次とする積み上げ式カリキュラムとなっている。ただ、卒業研究は年度末に卒業を予定する4年生に履修を限定するなど個々の科目により学修の進行に合わせた配当学年設定を行う他、学生の学修状況に合わせて同じ学年でも学期ごとにきめ細かく学修に効果的な履修を可能とする。例えば、経済分野では、発展科目の推奨される配当年次は3・4年生だが、2年生の前期に入門・基礎の科目の履修を済ませていれば、3年進級を待たず2年後期から発展科目の履修が想定される。学生が望ましい履修順序を理解して履修科目の選択ができるよう、カリキュラム・ツリーや履修モデルの提示に加え、特に必要な科目については当該科目の履修前に学んでおくべき（pre-requisite）科目をシラバスで明示する。【資料4：カリキュラム・マップ（再掲）】【資料6：3つのポリシーと授業科目の対応表】【資料7：カリキュラム・ツリー】

また、授業科目を必修科目、選択必修科目、選択科目に分け、学生にとって多様な学修形態が可能となるように設定する。このうち、選択必修科目は、本学部において養成する人材像の実現のために、学生にとって効果的な学修を行うべく選択科目の中でも特に重要となる授業科目として位置付けている。

本学部における主要授業科目は、データを収集、活用等してビジネス社会の課題を解決できる人材や、ビジネスとデータを結び合わせる文理融合人材、実技実学を重視する教育により自立自存の女性の育成及び様々な場面でリーダーシップが発揮し課題解決できる人材養成のために必要不可欠な授業科目を主要授業科目とし、3つのポリシーを踏まえ学生の多様な学修のために設けている。

本学の授業科目は、専門教育科目及び全学共通科目に区分される。専門教育科目は、CP 及び DP における教育内容を踏まえ、専門的な知識を修得するために科目群を設けている。また、全学共通科目は、専門の学びを深めることと効果的に接続連携しながら、本学の使命たる「学び働き続ける自立自存の女性」の育成を目指して、幅広い知識と教養の修得、そのための基礎学力の涵養と汎用的な能力、多様な視点の獲得を目標とする教育課程を編成している。なお、大学全体で教養教育に違いが生じることのないよう、科目構成を全学共通カリキュラムとしている。

I) 専門教育科目

①統計・情報系科目群（数理・統計分野科目、情報分野科目）

数理・統計分野及び情報分野の科目は、CP2に直接対応する科目群であり、DP2「データサイエンスに関する基礎的な知識や技能」を学生に修得させるために設定されている。

数理・統計分野においては、データサイエンスの中核を成す統計学については、まず1年生向け必修の入門科目である「統計学入門」から始まり、基礎科目として経済分析に必須の「回帰分析」を選択必修科目とし、演習も交えた形式の「多変量データ解析」、統計学入門を受けて統計学を深める「数理統計学」も開講する。更に、発展科目として、今日の統計学で大きな位置を占める「ベイズ統計学」や、ビジネス応用・経済分析でも近年重視されている「因果推論」、「時系列分析」などの科目を提供する。これらの科目の履修を通じて、「数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能」(DP2)、「データサイエンスの基礎的応用力」(DP4) が身に付き、本学部として養成する人材像に掲げた「データを…分析…できる人材」が育つことが期待される。こうしてビジネスへの応用を念頭に置きつつ、記述統計から始まり推定、検定といった統計学の基本を入門レベルで学ぶ「統計学入門」を出発点として統計学を順序だてて学修できる積み上げ式カリキュラムとなっている。なお、統計学の学修に必要な数理的な側面については、後に述べるようデータサイエンスに必要な基礎的な数学を学ぶ「線形代数学Ⅰ」、「微積分学Ⅰ」を1年生全員必修とする他に、「線形代数学Ⅱ」、「微積分学Ⅱ」、「確率論」などの科目を提供する。

情報分野については、今日のデータサイエンスを伝統的な統計学と分ける特徴の一つに情報技術の高度な利用があげられ、本学部としてもデータサイエンスを学ぶ上で必須の情報スキルを学修できるようカリキュラムを整備している。まず、データ分析をするために必要となるコンピュータの操作やプログラミングの基礎を学ぶ「情報処理入門」やコンピュータのハードウェアとソフトウェアの基本的な理解や、ネットワーク、セキュリティなどの基礎的な知識を学ぶ「コンピュータの基礎」、Pythonを使ってプログラムを作成する基本スキルを学ぶ「プログラミングⅠ」といった必修の入門科目から始め、データベースを操作しPythonのスキルを学ぶ「プログラミングⅡ」、現代社会に大きな影響を与えているAIの基本を理解する「AI基礎」や「ネットワークとセキュリティ」などの基礎科目を経て、教師あり・なし学習やアルゴリズムを理解しプログラムで実装できるスキルを学ぶ「AI・機械学習」などの発展科目に至る一連の科目が提供される。これらの科目の履修を通じて「情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能」(DP2)、「データサイエンスの基礎的応用力」(DP4) が身に付き、本学部として養成する人材像に掲げた「データを収集・整理・分析…できる人材」が育つことが期待される。

しかし、ビジネスへの応用を重視する本学部の特色は、経済学・経営学関連の科目群だけでなく、数理・統計関連の科目にも表れている。数学・統計・情報について記すDP2においても「応用能力」を強調している。このため、これら統計・情報系科目群は、本学部では、それ自体としてDP2に結び付くだけでなく、DP3に直結する経済・経営に関するビジネス系科目群を学ぶ前提ともなる位置付けも有している。このため、「ビジネス分野での応用を念頭に置いた統計学の専門科目」(CP2)を開講する。例えば、経済・経営分野で用いられるデータは誤差が大きいため、誤

差のノイズが混入したデータから意味のあるシグナルを抽出する作業には特に慎重さを要する。

「回帰分析」は、特に経済学の実証分析で中心的に用いられてきた分析手法で、基本概念から正確に学ぶ必要があるため、選択必修科目とする。また、ビジネスでは、法的・倫理的な制約から理想的に制御された実験が許されず、観察によるデータに依存せざるを得ないことも多いため、単なる相関を越えた因果効果を厳密に計測するには適切な反実仮想を設定することが求められるが、「因果推論」はこうした考え方を学ぶ科目である。情報系の科目においても、機械学習は、マーケティングや経済政策決定に応用可能であることから、本学部でも学ぶ意義が高い。AIについても、その経済・経営、更には社会に与えるインパクトの大きさから、本学部の学生も正確に基礎概念を学んでおくことが有益である。また、統計・情報系科目群だけでなく、データサイエンス科目でもCP2,DP4に対応して、「データハンドリング」「データ可視化」等を開講する。

なお、データサイエンスを学ぶために必要となる数学については、本学部において統計分野の科目で扱われる確率論・統計学に加え、統計学や経済学で最適化を論じる際に前提となる変化や最小最大を導出する微積分学と膨大なデータをまとめて演算しその特徴を明らかにする線形代数学が挙げられ、「データサイエンスを学ぶために必要とされる基礎的素養を身に付けるために」（CP2）1年生前期向けの必修科目（「線形代数学Ⅰ」、「微積分学Ⅰ」）を配置し、学生の数学の学びの水準を揃える。AP1-1,AP1-2 をふまえた入学選抜を受けて、高校における数学に不安を感じる学生向けには「高校までの学習に応じてリメディアル科目」（CP2）として、高校の「数学Ⅰ」に加え「数学Ⅱ」で学ぶ「微分・積分の考え」や「数学A」で学ぶ「場合の数と確率」などをカバーする「基礎数学」（単位を認定しない教育課程外の科目）を開講するとともに、学生が自分に合ったペースで自分に不足していると感じる内容について補えるよう、オンライン教材（例えば、2009年にリリースされて以来、世界中で広く利用されている Wolfram Alpha など）も活用した自習支援システムの導入も検討し学生が自分のペースで不安を解消していく学びをサポートする。微積分、線形代数、確率論・統計等に関する高校数学を学び直すコンテンツの自習も入学前に求める。また、初年次における数学の成績とその後の専門科目の成績との関係を追跡するなど学生の成績データを定量的に分析し、将来のカリキュラム改善につなげる学部内の仕組みも構築する。併せて、本学部では、学生は入学から卒業まで切れ目なく常に少人数クラスの演習に全員必修で属することになることから、演習指導教員から数学の学習についてもきめ細かい助言を受けることができる。特に、大学での学び方に焦点を当てた1年前期の「入門演習Ⅰ」の後を受けて1年後期に開講される「入門演習Ⅱ」については、数理・統計、情報分野を専門とする教員が担当することから、1年前期に数学の科目を履修した後の学修相談に個別に応じることができる体制となっている。

②ビジネス系科目群（経済分野科目、経営分野科目）

本学部では、卒業生の大多数が就職することとなる企業におけるデータサイエンスの応用を念頭に、データサイエンスと並行して、ビジネスについての専門的知識の修得を目指すことを特色とする。養成する人材像にある「ビジネスや社会の課題を発見し解決できる人材」は、統計・情報のスキルだけでなく、企業や経済への強い関心と深い理解を必要とする。「ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を有し、データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて

修得している」(DP3)「ビジネスとデータを結び合わせることができる文理融合人材」(養成する人材像)も、統計・情報スキルを経済・経営のデータに応用して育まれるものである。このため、CP3にあるように、「実データを理解し活用するための学び」を交え、「手法等を活用し、実社会においてデータを活用して課題の解決を図る能力を身に付ける」ことを目指す。

本学部はデータサイエンス学部であるから、最初の1年生前期には「データサイエンス入門」などデータサイエンスの学びからスタートさせるが、1年生後期には「経済学入門」と「経営学入門」をともに必修科目として開講する。本学部は、経済学部または経営学部ではないので、経済学・経営学の全分野を網羅することはできないが、ビジネス関係に絞って、経済学・経営学を体系的に学べるカリキュラムを整備する。

データサイエンスは、Society 5.0の到来やビッグデータの出現で注目されているものの、それだけでは万能ではなく、また単体で修得することに難しさが伴う。経済学において、過去のデータからの予測に偏重した論調が世界大恐慌への備えを遅らせた可能性が指摘されているように、「理論なき計測」への批判は根強い。もちろん、かつての経済学のように、データを用いた分析が限られていた「計測なき理論」の問題は明らかではあるが、「理論なき計測」の問題も看過できない。ビジネスの分野でも一部で実験によるデータ収集が可能となってきたとはいうものの、依然として法的あるいは倫理的な制約から、実験によって一次データを集めることが概して難しい。こうした状況においては、分析の枠組みとして経済学の理論は有効であることが多い。また、人間は情報に接し期待を形成し行動を変化させることから、過去の趨勢から機械的に外挿された予想が大きく外れることも多い。特に制度や政策の変更に際し、趨勢の延長は問題となる。こうした場合に、個々の企業や消費者の行動に関する理論モデルがデータ分析の助けになる。このため、本学部では、データサイエンスとともに、そのビジネスへの応用を想定して、経済学・経営学を学ぶ教育を提供する。こうした並行した学びにより、本学部を卒業した人材は、今日求められている文理融合型と位置付けることができよう。

経済学については、全員必修の「経済学入門」が1年生向けに開講されるのに続き、2年生を想定して選択必修科目「ビジネス・エコノミクス」と「政策評価」を提供する。まず、「経済学入門」では、現実社会でビジネスが営まれる経済の基本的なメカニズム・仕組みを理解し経済に関する課題を発見するために必須の前提となる経済学の基本概念を学ぶ。この科目は経済分野の全ての科目にとって前提となる位置付けである。次いで、「ビジネス・エコノミクス」は、本学部の特徴に対応しビジネスとの関係を重視して生産関数や基礎的なゲーム理論など企業に関わる内容を重視する科目ではあるものの、消費者の選択や市場均衡を含め、基礎ミクロ経済学に相当する科目である。本学部がビジネス応用を重視することから、また経済学の専門的研究の潮流に合わせ、経済学のうちミクロ経済学を重視したカリキュラムを採用するが、GDPなどマクロ経済学の常識的な基礎概念は「経済学入門」でカバーする。「ビジネス・エコノミクス」の履修により、経済分析を行うのに必要な経済理論の基礎が修得される。先にも述べたように、経済分析では条件を制御した実験室内での実験が困難な場合が多いことから、データ分析に当たって識別等のためにミクロ経済理論が必要である。また、「政策評価」は、経済学部では必ずしも選択必修とされていない大学が多いが、本学部ではデータの分析を中心的に学ぶので、「信頼性革命」

以降の経済学で重視されている識別や内生性の問題を正確に理解した上で計量経済学の基礎的手法を用いた経済実証分析を行うための重要な科目として選択必修とする。ただし、本学部では、「回帰分析」を始めとして統計学関係の科目が別途多く用意されているため、2年生向けに開講される「政策評価」では、1年生全員必修の「統計学入門」を履修済であることを前提に、統計的手法自体よりも、検証される経済理論との関係や計量分析結果の経済学的解釈に重点を置いて授業を行う。「政策評価」は、実際のデータを用いて「経済学入門」で学んだような経済学の基本概念を実証的に検証するために必要となる発想法や手法を学ぶもので、データ分析と経済理論をつなぐ重要な科目と位置付ける。数理・情報系の専門ゼミを選ぶ学生にとっては経営学の基礎科目と選択できるが、経済系のゼミを選択しようとする学生には両方の経済学系科目を履修することを推奨する。これらの科目により、学生は経済学の基礎知識を身に付けることができ、続く発展科目を学ぶ準備を整える。発展科目には、DP3,CP3に掲げられている実データの分析・活用や分析手法の応用のため、経済学の中でデータを用いた計量的な実証分析が重視される分野やトピックスをカバーするよう専門科目（「企業経済データ分析」など科目名に「データ分析」と付記している一連の科目）を配置する。このほか、DPで重視されている課題発見の能力を高めるため、現実の経済における重要な課題を講じる科目（「マクロ経済と経済政策」、「社会保障」など）も開講する。この中で、労働経済学に基づいてジェンダーの経済分析を扱う科目（「女性労働」）も、女子大学として重視して開設する。

経営学についても、1年生全員必修の「経営学入門」に続き、2年生向けに選択必修科目として「経営戦略」、「マーケティング」及び「人材開発」を開講する。ビジネスを理解するために最も直接的に重要な学問である経営学を入門レベルで講じる「経営学入門」は、経営学の基本概念を学ぶもので、その後に履修する経営分野の全ての科目の必須の前提となる内容を扱う。経営学において、経営戦略論は経営組織論と並ぶ重要な分野で、企業データの利用も考えて「経営戦略」を置く。「マーケティング」については、データサイエンスをビジネスに活用した典型的な分野で実社会での応用にも直結することから、本学部でも重視して選択必修科目として開講する。

「人材開発」も、人事データの活用可能性の広がりもふまえ開講するが、今後一層の活用が求められる女性の人材との関係で特に女子大学での開講に意義が見出せよう。これらの基礎科目の学修により、DP,CPに掲げるようなビジネスの課題を発見し解決策を探るための基礎的な知識を修得することを目指す。経営学の発展科目には、DP3,CP3に掲げられている実データの分析・活用や分析手法を応用するため、経営学でデータを用いた計量的な実証分析が重視される分野やトピックスをカバーする専門科目（「戦略データ分析」など科目名に「データ分析」と付記している一連の科目）を配置する。このほか実データを理解し、活用する力を養成するため、現実の経営における重要な課題を講義する科目（「イノベーションマネジメント」、「デジタルマーケティング」、「ダイバーシティ経営」等）も開講する。これら入門・基礎科目に続く発展科目には、データの活用、今日的関心、女子大学としての特徴などの視点から科目を展開していくもので、DP,CPにあるようなビジネスの課題を見出しビジネスとデータを結び付け解決策を提案する能力の養成につなげる。

これらの経済学・経営学の諸科目は、全体としてCP3に対応する「ビジネス系科目群」を構成

し、DP3「ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識」の修得を目指すものであるが、DP3はこうしたビジネスに関する学びが「データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得」することも求めている。このため、科目名の末尾に「データ分析」と付記した一連の科目を開講し、経済学または経営学の理論だけでなく、企業などのデータを用いた計量実証分析を交えて学び、経済・経営分析においてどのようにデータを集め加工し分析を加え活用策につなげるのかを学修していく。既存の経済学部・経営学部や理工系・情報系のデータサイエンス系の学部では現状必ずしも十分に行われているとは限らない経済学・経営学の理論とデータを用いた実証分析をともに学ぶ科目であり、本学部の特色となるものである。また、DP4において「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて」とあるように、演習科目、協働連携プロジェクト、卒業研究は実際のデータを収集・整理・分析・活用する際に必須の前提となる経済・経営の専門知識を学ぶ科目であり、養成する人材像における「ビジネスや社会の課題を発見して解決できる人材」、「ビジネスとデータを結び合わせることができる文理融合人材」に求められる経済・経営に関する専門性の側面を構成するものと位置付けられる。

③データサイエンス科目

データサイエンス科目としては、DP1,CP1にある社会と人間に関する幅広い知識を得、「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付け」(DP4)するための導入として、1年生前期には「データサイエンス入門」をオムニバス形式の必修の講義科目として開講する。本学部所属基幹教員がそれぞれの専門について語り、データサイエンスへの学生の関心を誘う。学生がデータサイエンスを単なる高校数学の延長のように捉えることなく、専門科目から卒業研究に至る学びのモチベーションを高められるようにしていく。

「社会が抱える課題を見いだす能力」(DP1)を育成するため、「実務家を招くなどして現場においてデータサイエンスがどのように活用されているかを知る科目」(CP4)となる「実務から学ぶデータサイエンス」を1年生向けに開講する。この授業は、学生が社会で実際にデータがどう活用されているか具体的なイメージが持てるように企業など外部講師が自らのビジネス等の体験を語るものであり企業などとの連携を教育に取り入れる授業である。大手総合研究所でビジネス経験のある実務家教員等を専任の基幹教員として採用する。また、企業など学外との「協働連携プロジェクト」を3年生向けに行うなど、この面での教育を推進する。

次節で説明する一連の演習科目(特に「専門演習」)も、学生が自ら課題を設定し少人数の学生や指導教員と意見交換を重ねつつ卒業研究に至る過程を遂行していくという点でプロジェクトの側面を有するため広義のPBLと位置付けられるものだが、「協働連携プロジェクト」は実際のデータを企業などの学外の関係者と扱う、実践的で本格的なPBL科目である。この科目は企業など学外の協力を得て、実際に実社会で収集されたデータに学生がふれ、学生が当該企業の担当者から現場の状況を聞き取り、企業の課題に学生がデータの分析に基づいて提案を行うような形式の進め方で計画している。データサイエンスで学んだ分析手法を適用して、実社会で求められている課題の解決につなげる一連のプロジェクト・チーム体験を積む形式を採用する。応用が重視されるデータサイエンスにおいて極めて重要な科目であるとともに、学生にとっては学外の現場

の声にふれ、教員以外の社会人と関わる貴重な機会であり、また企業に就職した後に遭遇するチームでのプロジェクトの疑似体験を積むことにもなる。実社会の課題や企業などの組織での解決策の検討にふれることができるとともに、学生が就職後に直面する対人調整の準備ともなろう。また、チームリーダーなどを学生の間で分担して取り組むプロジェクトの推進はビジネスにもつながるチームワークの経験となり、共学環境では限られるとされる女子学生がリーダーシップを発揮する機会も豊富となる。既に複数の企業と協働について準備が整えられている。こうしたプロジェクトでは、「多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力」(DP4)の涵養に向けた実社会での課題や解決策の決まり方などを知ることができる。また、現場の問題意識にふれることにより、課題を見いだす能力を鍛える機会となることも意図している。AIの発達もあって、最近では、分析自体よりも課題の設定、実行できる解決策の提案がより重視される流れにあることもふまえると、こうした課題設定や解決策提案の経験はデータサイエンス学修にとって重要な要素となる。また、数理・統計、情報と経済・経営の専門的学びを実際のデータを収集・整理・分析・活用する中で実践として統合する体験を積むことにもなる。常時開設できるよう複数企業の協力を既に確保している。

データサイエンスを学んだ専門人材として実社会で活躍するに際しては、理工系の専門知識だけでなく、倫理面での教育も必要である。特にビッグデータの出現とともに、個人情報の流出、著作権やプライバシーの侵害は深刻な懸念となり、データを扱う者には高いモラルが求められるようになっていく。このため、「情報化が進む中で求められる倫理」(CP1)に関する知識や「倫理観」(DP4)を備えた人材の養成につなげるため、本学部では「データサイエンス倫理」を必修とする。

産業界の声をヒアリングしカリキュラムの検討にこれまでも反映しているが、学部開設後も産学シンポジウム開催や産業界からのアドバイスを受けるアドバイザリー・ボードを常設する予定である。こうした試みにより、本学の教育がデジタル成長分野における人材ニーズに適合するよう不断の見直し・改善が組み込まれる仕組みを構築する。なお、データサイエンス科目には、ビジネスとの接続も考えて、データ駆動型ビジネスとの関連で注目されるトピックスを「専門特殊講義」としてその都度フレキシブルに取り入れることができる枠組みを設ける。

④演習科目

データサイエンスは実社会への応用を重視する学問であることから、本学部では、学生が実際のデータにふれ自らデータの収集・整理・分析・活用のプロセスを体験する機会を充実させる方針である。こうした教育は、大人数の学生を講義室に集め講義を座学で聞かせることでは有効に行うことが難しい。学生を少人数クラスに分け、教員と学生、また学生間でインタラクティブに意見交換ができる環境が重要である。このため、本学部では「少人数クラスでグループワーク形式により実践的に学ぶ」(CP4)演習科目により、「主体性を持って新たな課題を見だし、データを収集・整理・分析・活用して問題を解決していく能力」(CP4)の涵養を重視したカリキュラムを編成する。

具体的には、本学部では、全ての学生が必修として常に演習科目を履修することとする。演習（いわゆるゼミ）においては、学生が実際にデータにふれ、学生が発表を行うことによってプレゼンテーション能力を磨き、学生間でディスカッションを活発に行うことによってコミュニケーション能力も向上させる。統計・情報分野や経済・経営分野の専門科目で学んだ専門的な学びを一般理論や知識にとどめず実際のデータに応用することで、DP4に定めるような「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付け」る能力を高める。また、本学部は、養成する人材像やDPにおける、データサイエンスの学びについて、データの分析だけでなく、「データの収集・整理・分析・活用」という一連のプロセスを強調している。データの活用は具体的な応用と一体のものであり、本学部ではビジネスへの応用を念頭に経済・経営の学びと統合することを目指す。データの収集・整理については座学の講義で扱うことは難しく少人数・双方向の演習形式で体験することが不可欠である。この意味でも、切れ目ない各層にわたる演習は、本学部が養成する人材像・DPにとって中核的な位置を占める科目である。

演習科目は、入学から卒業まで段階を追って順次提供される。まず、CP 1 に記載のとおり、1 年前期には、資料の調べ方、レポートのまとめ方、発表の仕方、社会が抱える課題への関心の醸成など、大学での学び方についてふれる「入門演習Ⅰ」に始まり、1 年後期には表計算アプリケーションを使って基礎的なデータの分析などを体験する「入門演習Ⅱ」に参画する。高校卒業から大学入学の過程で学びの方法が激変し不安を感じることもないよう、少人数で常に演習指導教員が助言できる体制をとる。これまで本学では、新入生ゼミで大学における学びのスタイルに最初の学期（1 年生前期）にふれさせる教育を行ってきたが、本学部ではこれを「入門演習Ⅰ」として提供した後に、本学部独自の取り組みとして、卒業まで切れ目なく、いわゆるゼミ形式の教育を提供する。

次いで、2 年次には、前期に「基礎演習Ⅰ」、後期に「基礎演習Ⅱ」が提供されるが、「基礎演習Ⅰ」は主に統計・情報分野の入門科目で学んだ基礎的知識を、「基礎演習Ⅱ」では主に経済・経営分野の入門科目で学んだ基礎的知識をそれぞれ実データに適用することにより、入門科目の知識を確実に身に付けるとともに、社会やビジネスが抱える課題を見出す能力を鍛えつつ、データサイエンスで重視される応用のセンスや実データを扱う際のデータ収集・整理の苦労などを体験する。

なお、「入門演習Ⅱ」と「基礎演習Ⅰ」は統計・情報を専門とする教員、「入門演習Ⅰ」と「基礎演習Ⅱ」は経済・経営を専門とする教員が分担する。本学部では、1 年次から4 年次まで学生はいずれかの演習に所属することになるが、それぞれの演習、特に3・4 年生が継続して同じ教員の指導の下で卒業研究に結実する学びを深める「専門演習」に入る前の1・2 年生に提供される演習で重視する内容はこのように差別化されるよう設計しており、少人数クラスで学生が居場所をどの学期にも確保できるだけでなく、統計・情報や経済・経営について講義で学んだ内容を少人数・双方向のゼミ形式の学びで段階的に身に付けていくことができるカリキュラムとなっている。また、このような教員の専門分野による分担形式によって、全ての学生は3・4 年次の2 年間にわたり卒業研究の指導を受ける専門演習を選択する前に、統計・情報と経済・経営の両分野の演習を体験することになり、専門演習選択における学生の指向とのミスマッチを軽減すること

もでき、「社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得」(DP1)することはもとよりDP4に定める「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付け」る学びにもつながる。3・4年生において卒業研究につながる「専門演習」に所属することは多くの類似学部や本学の他学部でも採用されている方式だが、本学部では、新入生向け導入と3・4年向けのゼミ・研究室での指導との狭間にある2年次にも演習指導教員がどの学期にも必ずついている体制となっている。

3・4年次は、原則として2年間同じ「専門演習」(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)に参画し、4年間の総仕上げとしての「卒業研究」につながる学びを深める。演習指導教員の専門とする分野・テーマに従って、学生はそれまでの専門科目での学修をより深め、自ら選んだテーマで卒業研究に取り組む。その過程で、指導教員からアカデミックな指導・助言を受けるだけでなく、ゼミでの発表を通じプレゼンテーション能力を高めたり、研究成果のディスカッションや外部からのデータ収集などに際しリーダーシップを発揮したり、学生同士でディスカッションを行ったりして、DP4に定められているような能力を涵養する。また、同じくDP4にあるビジネスへのデータサイエンスの応用の能力も、個別具体的な卒業研究トピックに取り組む中で鍛えていく。専門ゼミに2年間所属して教員の指導や同じゼミの他の学生との討論を通じて完成させる「卒業研究」も、学生が積み上げてきた学修を一つの成果に集大成させる経験を通じて、就職後の実社会で仕事をやり遂げる力を養う素地となることが期待できる。「卒業研究」については、研究プロポーザル段階、中間発表、最終発表など節目で学生が所属する専門演習において発表を求め工程管理が行き届いた形で研究を進め、DP4にある「プロジェクトに貢献できる能力」を高めるとともに、複数のゼミを集めた卒業研究合同発表会でのプレゼンテーションを交えるなど、4単位に設定する卒業研究の水準をDPに見合うよう適正・厳正に保つ。また、少人数で双方向の演習は、プレゼンテーション、コミュニケーション、リーダーシップの鍛錬の場ともなるものである。こうした学びは、指導教員の助言の下で自ら研究課題を選んで研究を遂行する中で、卒業後に社会で新しいビジネスを生み出したり既存のビジネスを効率化したりするなどしてビジネスを通じて価値を創造するための疑似体験を積むとともに、データの収集過程や発表時の質疑応答などの多彩な場面での対人インタラクションを通じ個人情報や企業機密にふれることもあるデータを扱う者に特に高く求められる倫理への気付きも経るなどして、DP4の「多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力」の涵養にも資する。またDP4で「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて」とあるように、単なる実践体験ではなく、DP2に直結する数理・統計・情報の学びとDP3に直結する経済・経営の学びを実際のデータを扱う具体的な応用を体験する中で統合し、正に身に付けるという機能も果たすものである。

こうした少人数教育は、本学部が教員一人当たりの担当学生数を絞った体制を整備しているために可能となるものである。これらの演習科目では、学生をグループ(入門演習・基礎演習では12~15人程度、専門演習・卒業研究では7人程度)に編成して、実際のデータを扱い、基礎的な科目で学んだ分析手法を実際に使ってみたり、データを分析に用いることができるよう収集・整理したりといった体験を積むことを重視する。また、PBL科目である「協働連携プロジェクト」

についても、活発な議論が促されるよう少人数グループ（5人程度の4～6グループを集めて異なる学期または別の学外パートナーと進めるA・B2クラスを予定）を編成して進めることとしている。こうした学びによって、専門的なデータサイエンスの応用への高度なスキル修得の素地が形成されると期待できる。

II) 全学共通科目

本学では、全学共通科目の教育課程の編成及び実施に関する方針に沿って、総合的な人間教育を目的として、基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の4つの科目系列から成る全学共通科目を配置している。これら教養科目など全学的に提供される広範な科目からの所要単位の履修は、本学部のDP1に掲げた「社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得」する学びを形作るものである。特に「大妻教養講座」は、本学の特色ある必修科目で、本学がどのような建学の精神・伝統・特質を持っているかを学び、学生が誇りと自信を持って学生生活を送ることができるよう、また入学した学生が本学で何をどう学ぶかという入門講座の役割も果たしている。また、本学部での学びにも有益な、女性のビジネス・リーダーなどの講演とディスカッションから学ぶ「リーダーシップ開発」も開講している。

なお、情報リテラシー関係の科目については、本学部では、DP2「情報…に関する基礎的な知識…を備えている」と定めていることをふまえ、データサイエンスを学修する上で基礎的な知識を確実に修得させるため、全学共通で開講されている科目ではなく、本学部の専門教育科目の必修科目に情報分野科目として「情報処理入門」、「プログラミングⅠ」を設定する。

本学では、分野を問わず数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識・技術について学び、データ分析において重要な概念を身につけ、身近な問題解決に活かすスキルを持つ人材を育成することを目的とした大妻データサイエンス・AI教育プログラムを実施している。全学共通科目の「コンピュータ基礎B」と「データサイエンス・AI概論」修得をプログラムの修了要件としているが、本学部では全学共通科目の「コンピュータ基礎B」の代わりに専門教育科目の指定科目「情報処理入門」と全学共通科目の「データサイエンス・AI概論」を履修し単位を修得することをプログラムの修了要件とする。なお、今後本学部では、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルの認定を目指し、取り組んでいく。

さらに、養成する人材像に定めるように、「多様な人々と協働し」、社会生活の様々な場面で「ビジネスや社会の課題を発見し解決」することが求められているため、外国語科目区分の「英語科目」として「英語ⅠA」、「英語ⅠB」、「英語ⅠC」及び「英語ⅠD」を必修科目として設定し、少人数制でペアワークやグループワークを活用して汎用的なコミュニケーション能力の修得を目指す。

<全学共通科目 教育課程の編成及び実施に関する方針>

本学の教養教育では、各学部・各学科に於いてそれぞれの専門の学びを深めることと効果的に接続連携しながら、本学の使命たる「学び働き続ける自立自存の女性」の育成をめざして、幅広い知識と教養の修得、そのための基礎学力の涵養と汎用的な能力、多様な視点の獲得を目標とする

教育課程を編成します。

また、学部の間違によって教養教育に違いが生じることの無きよう、科目構成を全学共通カリキュラムとします。

以下、全学共通科目のカリキュラム・ポリシーを掲げます。

1. 本学を創立した大妻コタカの学びへの願いを理解し、「学び働き続ける自立自存の女性」の具現を目指すために、基礎科目区分を設け、1年次必修科目の「大妻教養講座」ほか、「女性とキャンパスライフ」に関する科目を配置する。
2. 学びに必要な基礎力を身につけ、主体性、計画力、チームワークといった社会的及び職業的な自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を広く養うために、基礎科目区分に「リテラシー」「キャリア」に関する科目を配置する。
3. 現代世界の動向ならびに自分そして他者のありようを多様な視点から見つめ、価値観、興味、立場の異なる様々な他者や複雑化し変化する社会との関係をどのように構築すべきであるかを考える力を養うために、教養科目区分を設け、「人間と文化」「社会と生活」「自然と科学」に関する科目を配置する。
4. 身体感覚及び情緒能力を養い、言語化されないコミュニケーションや物事の理解の仕方があることを知るとともに、他者と共に学ぶことによって自身や他者の情緒や価値観を理解する能力を身につけるために、教養科目区分に「スポーツ」に関する科目を配置する。
5. 国際化が進む現代社会に対応し得る英語力、コミュニケーション力及び思考のための言語運用能力の向上を図るために、外国語科目区分を設け、必修科目の英語科目及びその他の外国語科目を配置する。
6. 国内外への留学、また、国内外から本学へ迎え入れる他大学生や地域コミュニティとの交流を通じ、異文化や日本文化、地域文化への関心を高め、もって文化の多様性を理解するために、地域文化・国際理解科目区分を設け、必要な科目を配置する。

(3) 主要授業科目の位置付け

本学部では、授業科目を必修、選択必修、選択の3科目群に分類してカリキュラムを構成している。このうち、必修科目は、データサイエンスのうちのどの分野・テーマを選んで深く学修することとなっても学修することが必須である科目である。選択必修科目は、どの分野・テーマを選んで深く学修するにせよ、指定された選択可能な科目群のうちいずれか指定された単位の科目は必ず学修することが求められる科目と位置付ける。選択科目は、カリキュラム・ツリーや履修モデルの推奨を参考にしつつ、学生が自ら選ぶ分野・テーマに応じて自由に学ぶ科目と整理している。このため、本学部としては、全ての必修科目と選択必修科目を主要授業科目と位置付ける。選択科目の提供に当たっては学外の人材も適材適所で広く活用していくが、主要授業科目については、基幹教員が責任を持って恒常的に担当する体制を構築する。分野別の具体的な科目については、以下の通りである。

①数理・統計分野科目

「数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用力」(DP2) が身に付くよう、数理・統計分野において入門、基礎、発展レベルと教育課程を積み上げ式に編成しているが、統計学や経済学などを学ぶために必要な数理的な準備となる「線形代数学I」及び「微積分学I」、データサイエンスを支える中核的な学問分野である統計学を入門レベルで学ぶ「統計学入門」、データ分析の応用で中心的に用いられる手法を学ぶ「回帰分析」及び統計学入門を受けて統計学を深める「数理統計学」を主要授業科目とし、このうちデータサイエンスを学ぶ上で必須の基本的な数学・統計学の内容を扱う「線形代数学I」、「微積分学I」及び「統計学入門」を必修科目とし、「回帰分析」と「数理統計学」は選択必修科目とした。

②情報分野科目

「数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用力」(DP2) が身に付くよう、情報分野において入門、基礎、発展レベルと教育課程を積み上げ式に編成しているが、情報分野での学びの基本となるプログラミングにふれる「情報処理入門」、コンピュータや情報処理システムの仕組みを学ぶ「コンピュータの基礎」、データサイエンスに欠かせないプログラミングの基礎を学ぶ「プログラミングI」及びその後続でプログラミング・スキルを高める「プログラミングII」、今日の情報スキルに欠かせない知識を学ぶ「ネットワークとセキュリティ」と「AI基礎」を主要授業科目とし、このうちデータサイエンスを学ぶ上で必須の情報スキルに関わる「情報処理入門」、「コンピュータの基礎」及び「プログラミングI」を必修科目とし、「プログラミングII」、「ネットワークとセキュリティ」及び「AI基礎」は選択必修科目とした。

③経済分野科目

「ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識」を「データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得」(DP3) できるよう、経済分野において入門、基礎、発展レベルと教育課程を積み上げ式に編成しているが、ビジネスが行われる経済の基本的な仕組みの理解は経済分野の科目を学ぶ上の土台となり、経済理論による経済の仕組みの入門レベルでの学びを経済データを用いた計量的実証分析へと発展させることでDP3に掲げた学びが達成される。そのため、経済の仕組みの基本を学ぶ「経済学入門」、ビジネスに関する経済理論の基礎を学ぶ「ビジネス・エコノミクス」及び経済理論の仮説をデータを用いて検証するための基礎的な考え方を学ぶ「政策評価」を主要授業科目とし、そのうち最も基礎的な科目であり他の科目を学ぶ上で土台となる「経済学入門」を必修科目とし、「ビジネス・エコノミクス」と「政策評価」は選択必修科目とした。「ビジネス・エコノミクス」と「政策評価」は科目名にデータ分析を含む計量的経済分析を扱う経済分野科目の履修に当たっては前提または推奨されるが、「経済学入門」は経済分野の全ての科目の履修の必須の前提と位置付けられる。

④経営分野科目

「ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識」を「データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得」(DP3) できるよう、経営分野において入門、基礎、発展レベルと教育課程を積み上げ式に編成しているが、ビジネスに直接関わる経営の基本的理解は経営分野の科目を学ぶ上の土台となり、経営学の入門レベルでの学びをデータを用いたビジネスの学びへと発展させることでDP3に掲げた学びが達成される。そのため、経営学の基本を学ぶ「経営学入門」、経営組織論と並ぶ経営学の中核的分野の基礎を学ぶ「経営戦略」、データサイエンスと密接な関係にある分野の基礎を学ぶ「マーケティング」、近年データの活用が拡大し女性就業との関係でも重要な「人材開発」を主要授業科目とし、そのうち最も基礎的な科目であり他の科目を学ぶ上で土台となる「経営学入門」を必修科目とし、その他の「経営戦略」、「マーケティング」及び「人材開発」は選択必修科目とした。

⑤データサイエンス科目

「社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得して、社会が抱える課題を見いだす能力」(DP1) や「多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力」(DP4) が身に付くよう、データサイエンス分野において入門、基礎、発展レベルと教育課程を積み上げ式に編成しているが、基幹教員が自らの専門を紹介しながらデータサイエンスについて多角的・多面的に理解を深める「データサイエンス入門」、データを扱う者に特に求められるモラル・規範を学ぶ「データサイエンス倫理」、データサイエンスのビジネスへの応用を重視する本学部として重要な学外実務家がデータに関わる体験を語る「実務から学ぶデータサイエンス」、データサイエンスの実データへの応用を学外協力を得て体験する「協働連携プロジェクトA・B」を主要授業科目とし、このうちデータサイエンスを学ぶ全学生に向け必要な内容を含む「データサイエンス入門」及び「データサイエンス倫理」を必修科目とし、「実務から学ぶデータサイエンス」と「協働連携プロジェクトA・B」は選択必修科目とした。

⑥演習科目

「社会が抱える課題を見いだす能力を備え」(DP1)、「ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて、データを収集・整理・分析・活用するプロジェクトに貢献できる能力」(DP4) や「多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力」(DP4) を身に付けられるよう、「入門演習」(Ⅰ・Ⅱ)、「基礎演習」(Ⅰ・Ⅱ)、「専門演習」(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)、「卒業研究」からなる演習科目を設置する。これらの科目は、本学部が養成する人材像・DPにとって中核的な位置を占めていることから、全て主要授業科目かつ必修科目とする。

(4) 学修成果と評価

本学部の学修成果の評価については、教育研究上の目的(「データサイエンスの知識やスキルを修得し、ビジネスや社会の課題の設定や解決ができる文理融合人材を育成する」)に沿って、

DPに掲げた目標の達成に必要な個別の能力や技能を身に付けることができたかを測ることで行う。CP5にも掲げたように、具体的な評価方法は、筆記試験、レポート、小テスト等の結果及び授業への参画状況（積極的貢献）等を総合して、適切に学修成果を測り以下の成績評価基準で評価を実施する。なお、授業科目ごとにシラバスにて、「授業の概要、ねらい」、「到達目標」、「成績評価の方法及び基準」に明記している。

判定	評点	評価	評価内容基準
合格	100～90	S	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
	89～80	A	基本的な目標を十分に達成している
	79～70	B	基本的な目標を達成している
	69～60	C	基本的な目標を最低限度達成している
	単位認定	N	学修等について単位を修得したものとする
不合格	59点以下	D	基本的な目標を達成していない
出席不足等（受験資格なし）		E	出席不足のため、受験資格なし
試験時欠席等		F	試験時欠席・レポート等未提出

なお、本学における一単位時間の設定については、大学設置基準に定められている1単位当たり45時間の学修時間であることを前提に、原則として、講義及び演習科目は15～30時間の授業時間、実験・実習科目は30～45時間の授業時間、その他様々な授業方法を組み合わせた授業科目についても、その内容や授業方法、事前事後学修の質や量を踏まえた適切な授業時間を設定し、学生が効果的に学修できるよう十分考慮している。また、1年間に授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

本学部では、講義と演習を適切に組み合わせた教育方法により効果的な教育を行っていく。少人数・双方向のゼミ形式の演習の重視は、前節でも述べたように、本学部の特色として強調できるが、データサイエンスの根幹を成す専門的内容については、講義と演習と組み合わせて身に付くような教育を提供していく。少人数で双方向に学ぶゼミ形式である演習に加え、授業の中で学生に問題を解かせたりデータにふれさせたりする時間を設ける「講義・演習」科目も提供する。また、少人数クラスによる双方向参加型の教育を重視し、入学から卒業までいわゆるゼミ形式の授業を切れ目なく展開することにより、学生の学修が効果的になることとしている。

統計学については、「回帰分析」、「多変量データ解析」などを一方通行の座学にとどまらないよう「講義・演習」等の形式で提供し、学生が実際にデータを用いて基礎を身に付けるよう教育する。経済学・経営学においても「講義・演習」科目を用意している。情報系科目については、1年生全員必修の「情報処理入門」を全学共通科目とは別に学部独自に提供するのを始めとして、「プログラミングⅠ」を必修として課すが、両科目とも、授業の中で学生にプログラ

ミング等を行わせる時間をとる「講義・演習」科目で提供し、確実に学生が基礎を修得できるよう教育する。

なお、データサイエンスの学修にはある程度の数学的基礎が要求されることから、統計学を「統計学入門」から学ぶ前に、1年生向けに必修科目としてデータサイエンスに必要な基礎的な数学（「線形代数学Ⅰ」と「微積分学Ⅰ」）の講義を提供するが、オンライン教材を含む学外資源を活用した自習サポートも並行して提供し、必要な数学の基礎固めを確実にする。入試においても、本学としては初めての試みとなるが、数学を必修として課す一般選抜の区分を設定するとともに、一般選抜の他の日程においても数学を選択できるようにする。更に、CP2にも掲げたように、高校での数学（「数学Ⅰ」に加え、「数学Ⅱ」で学ぶ「微分・積分の考え」や「数学A」で学ぶ「場合の数と確率」などデータサイエンスの学びに特に必要な内容）の学習に不安を感じる学生向けにリメディアル科目（「基礎数学」）も用意し、数学の学びをきめ細かくサポートしていく。リメディアル教育の教育内容と本学科の教育課程の対応については【資料16：データサイエンスを学ぶ上で必要な数学に関する対応表（高校での学習、一般選抜、入学前学習、リメディアル教育、正課授業）】に、リメディアル教育の内容については【資料17：基礎数学の授業内容（案）】にそれぞれ整理した。また、入学前教育として、高校生向けに利用されているDVD教材等も活用する予定である。このように、講義、演習に加え、「基礎数学」コンテンツと生成AIを連動させた質問応対システムの導入、学生が自由な時間に気兼ねなく進められるオンラインでの自習サポート、他大学で関連分野を学ぶ学部学生・大学院生に相談できる場となる「数学カフェ」の開催等を交え、また入学から卒業に至る切れ目ない少人数クラスでの演習指導教員による指導・助言を多面的に組み合わせて、データサイエンス学修に必要な数学の基礎固めを進めていく。

（２） 履修指導方法

本学部では、科目が相互に関連しつつ、積み上げ式で学修が深まっていくようカリキュラムを構成している。また、履修パターンの具体例については、卒業後に想定される進路の典型例として、(A) データの整理・分析を扱うデータサイエンティスト、アナリストと、(B)実務でデータを活用するビジネスパーソンの2パターンの履修モデルを例示する。【資料8：履修モデル】カリキュラム・ツリーと履修モデルについては、新学部のカリキュラム・デザインの趣旨を理解して学生が学修を深められるよう学生に提示し、学生が履修科目を検討する際に参照するよう指導する。

また、本学部では、新入学生ガイダンスにて、本学の教育理念を説明するとともに、本学部の教育研究上の目的、養成する人材像及びDPを説明し、学生の理解を促す。次に、本学部のカリキュラム全体の説明を行い、各学年の必修科目や先修条件、PBL等の演習科目について説明をする。また、学生の興味関心に応じて適切な科目を履修選択できるように、履修モデルやカリキュラム・ツリーを示しながら、シラバスにて「授業の概要、ねらい」「到達目標」等を理解させ、履修ガイドや履修登録の手引きを用いて履修指導を行う。履修選択に不安のある学生については、ガイダンスとは別に履修相談日を設け、個別の相談にも応じる。

2年生以上についても、各学年のはじめにガイダンスを実施する。なお、本学部では、3・4年次で専門演習に所属する前に全ての1・2年生が常に全ての学期で継続的に入門演習・基礎演習に所属することから、こうした年度初めのガイダンスの機会以外にも日常的に個別履修相談に演習指導教員が応じる体制を構築している。

2年生では、3年次専門演習の履修に際し先修条件が設けられていることから、1年生で修得した単位状況を学生に確認させ、履修計画の助言を行う。また、2年次末に行う演習選択に先立ち、各演習での活動紹介やその演習に所属する上で履修しておくことが望ましい科目について説明する。

3年生、4年生については、所属する演習の担当教員が卒業研究に向け、学生の興味関心に応じて適切な科目について助言や卒業後の進路についても相談に応じる。

なお、本学では全学部でクラス指導主任制度を設けており、単位履修の方法や成績についての指導、助言等を行っており、前学期のGPAが1.5未満となった学生については、クラス指導主任が今後の学習に関する助言を行うこととしている。演習指導教員と組んで複数教員の視点から個別指導に遺漏のないようきめ細かく対応していく。

(3) 卒業要件

本学部の学生は4年以上在学して大妻女子大学学則第7条の1に定める124単位以上を修得し、次のように各科目区分の卒業要件単位数を修得するとともに「卒業研究」の審査に合格した学生に卒業を認める。

①全学共通科目については、次のように科目を履修し、合計30単位以上を修得する。【資料9：全学共通科目】

・必修単位（計5単位）

本学の学生として身に付けるべき共通の授業科目を必修科目として設定した。具体的には、基礎科目の「女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」（1単位）。

外国語科目から「英語ⅠA」、「英語ⅠB」、「英語ⅠC」及び「英語ⅠD」（各1単位、計4単位）。

・選択必修単位（計12単位以上）

本学の学生の多様な学修のため、共通の授業科目における選択科目の中で、特に履修を推奨する授業科目を選択必修科目として設定した。具体的には、基礎科目から、「女性とキャンパスライフ」の「大妻教養講座」・「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の2単位以上、「キャリア」から2単位以上。なお、「リテラシー」は選択必修科目の単位数には含まない。

教養科目の「人間と文化」、「社会と生活」、「自然と科学」、「スポーツ」から8単位以上。

・選択単位（計13単位以上）

本学の学生の多様な学修のため、共通の授業科目として選択科目を設定した。具体的には、「基礎科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「地域文化・国際理解科目」の中から、必修科目と選択必修科目で履修した科目以外に13単位以上。

②専門教育科目については、次のように科目を履修し、合計94単位以上を修得する。

・必修単位（計40単位）

本学部における養成する人材像として、データを収集、活用等してビジネス社会の課題を解決できる人材や、ビジネスとデータを結び合わせる文理融合人材、実技実学を重視する教育により自立自存の女性の育成及び様々な場面でリーダーシップを発揮し課題解決できる人材養成の実現を目標としており、それらに必要な授業科目を必修科目として設定している。具体的には、専門教育科目の数理・統計分野科目から「線形代数学Ⅰ」、「微積分学Ⅰ」及び「統計学入門」（各2単位、計6単位）、情報分野科目から「情報処理入門」、「コンピュータの基礎」及び「プログラミングⅠ」（各2単位、計6単位）、ビジネス系科目群から「経済学入門」及び「経営学入門」（各2単位、計4単位）、データサイエンス科目から「データサイエンス入門」及び「データサイエンス倫理」（各2単位、計4単位）、演習科目から「入門演習Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位、計16単位）及び「卒業研究」（4単位）。なお、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」については、全学共通科目及び専門教育科目で合計50単位以上修得し、かつ、第1年次までの専門教育科目の必修単位をすべて修得していることを履修の条件とする。

・選択必修単位（計10単位以上）

本学部における養成する人材像を実現するために、学生にとって多様な学修形態が可能となるように、選択科目の中でも特に重要となる授業科目を選択必修科目として位置付けている。具体的には、専門教育科目の数理・統計分野科目の「数理統計学」、「回帰分析」から2単位以上、情報分野科目の「プログラミングⅡ」、「ネットワークとセキュリティ」、「AI基礎」から2単位以上、ビジネス系科目群の「ビジネス・エコノミクス」、「政策評価」、「経営戦略」、「マーケティング」、「人材開発」から4単位以上、データサイエンス科目の「実務から学ぶデータサイエンス」、「協働連携プロジェクトA」、「協働連携プロジェクトB」から2単位以上。

・選択単位（計44単位以上）

本学部における養成する人材像を実現するために、学生にとって多様な学修形態が可能となるように選択科目を設定している。具体的には専門教育科目の「選択科目」から44単位以上。なお「選択必修科目」で卒業要件単位数を超えて修得した単位数は、選択単位に含むことができる。

（４）履修科目の年間登録上限単位（CAP制）の適用

本学部では、1年間に履修できる単位数の上限を定め、予習・復習の学修時間を確保し、学修効果を妨げないようにしている。なお、前年度のGPA3.5以上の学生には、履修単位数の上限に6単位、GPA3.0以上の学生には2単位を加えることができるとし、学修成果に応じ上限の緩和を認めている。こうした措置によっても緩和される単位数の増分は基準となる上限に比べ

限られることから学習に支障をきたすおそれはなく、学習にゆとりのある学生には能力に応じた速度での履修を認め学習へのインセンティブを強める効果が見込まれる。

各学年で履修登録単位数が異なっているのは、本学部の養成する人材像を実現するために、学生が計画的、段階的に履修できるようにするためである。

履修登録単位数の上限			
1学年	2学年	3学年	4学年
44	48	48	46

(5) 他大学における授業科目の履修

大妻女子大学学則第7条の2（他大学との単位互換協定）に基づき、受入大学の科目を受講許可された学生が、他大学で修得した単位を、一定の基準により本学で修得した単位として認定する。なお、単位互換協定を締結している大学は、千代田区キャンパスコンソーシアムの構成大学である共立女子大学、共立女子大学短期大学部、東京家政学院大学、専修大学、二松学舎大学、法政大学や個別に協定を結ぶ京都女子大学である。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

(1) 実施方法・実施場所

本学の既設学部では、授業は原則として対面で行っているが、全学共通科目や専門教育科目の一部について、対面授業に相当する教育効果を有すると考えられる科目は、オンデマンド授業で実施している。新設されるデータサイエンス学部においても、全学の方針に従い、またデータサイエンスが実際のデータに学生がふれて実践的な活用を重視する教育内容であることもふまえ、原則として対面授業とする。なお、今後、新たなパンデミックや天災等により対面授業を行うことが困難になった場合には、全学的対応と調整しつつ、オンデマンド授業により広範な活用に切り替えることとする。

オンデマンド授業の種類は、授業の質向上のため、テキストの配信のみではなく、原則、動画や音声を交えた授業としている。オンデマンド授業であっても、時間割上、曜日を指定しており、毎週、配当曜日の17時まで、教員は授業の教材や課題をLMS(Learning Management System, manaba)にて配信し、学生は原則自宅で授業を受講することになっている。また、動画などの掲載期間や課題等の提出期間は最低1週間設け、十分な学修時間を確保している。一方、翌週の授業までに採点やフィードバックが必要な場合は、課題の提出期限として最低3日間程度確保することとしている。

なお、課題に対するフィードバックの方法や質問の受付方法はシラバスに必ず記載することとし、学生の意見交換の機会は、LMS(manaba)のスレッドを活用することで可能となっている。

(2) 学則における規定

多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させることの根拠を明確にするため、本学学則において、以下のとおり規定している。なお、対面授業を原則とすることから、オンデマンド授業で履修できる単位数の上限は学則に 60 単位と定めている。

[大妻女子大学学則（抜粋）]

(第 5 条の 2)

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行う。

4 前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

(第 7 条の 1 の第 3 項)

第 1 項の規定により卒業の要件として修得すべき単位のうち、第 5 条の 2 第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

7. 取得可能な資格

本学部の卒業要件単位に含まれる「統計学入門」や「数理統計学」等の科目の履修によって、IT パスポート、統計検定（2 級）の合格を目指すことが可能である。なお、新設本学部を含む本学では、所定の単位を取得することにより、図書館司書や博物館学芸員の資格を取得することが可能である。

(1) 図書館司書（国家資格）

各種図書館で、図書や資料の分類・貸し出し、目録の作成などに従事する。資格取得は卒業要件ではない。取得には、本学で司書関連科目を修得する必要がある。

(2) 博物館学芸員（国家資格）

博物館で、資料の収集・整理・保管・展示、利用の説明、調査研究など博物館運営の一切に従事する専門職。資格取得は卒業要件ではない。取得には、本学で学芸員関連科目を修得し、博物館実習を行う必要がある。

(3) IT パスポート（国家資格）

独立行政法人情報処理推進機構が実施する、IT を利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、IT に関する基礎的な知識が証明できる国家試験。資格取得は卒業要件ではない。卒業要件単位に含まれる科目を履修することにより、取得を目指すことができる。

(4) 統計検定（民間資格）

一般財団法人統計質保証推進協会が主催する、統計に関する知識や活用力を評価する試験。資格取得は卒業要件ではない。卒業要件単位に含まれる科目を履修することにより、取得を目

指することができる。

8. 入学者選抜の概要

(1) 入学者の受入れに関する方針 (AP)

データサイエンス学科の入学者の受入れに関する方針は以下のとおりである。

データサイエンス学部データサイエンス学科では、卒業の認定に関する方針(DP)及び教育課程の編成及び実施に関する方針(CP)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた人を求める。

＜知識および技能＞

AP1-1：高等学校における学習を通じて、「英語」、「数学」、「情報」、「国語」を含む幅広い科目の基礎的学力をバランスよく身に付けている人。

AP1-2：データサイエンスを学ぶ上で必要な「数学」などの科目の基礎的な知識を有する人。

＜思考力・判断力・表現力等＞

AP2：データサイエンスと経済・経営に関する知識に基づいて、物事を論理的かつ多面的に考え、データを分析して課題の解決策を提案する力を身に付けたい人。

＜主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度＞

AP3：社会の抱える課題に関心を持ち、他者と協働し、データを活用してビジネスに積極的に貢献したいという意欲を持つ人。

(2) データサイエンス学科の選抜方法

本学科の入学定員は 90 名であり、各選抜区分の募集人員は下表のとおりである。多様な入学者選抜方法により、AP に基づきデータサイエンスを学ぶ意欲のある入学志願者を多面的・総合的に評価して入学者選抜を行う。特に、本学部における学びに備えるという意味で中核的な要素といえる AP1-1 で定める学力については、筆記試験、調査書等、面接試験における質問を通じ、全ての選抜区分において適切に評価・判定を行うこととする。

データサイエンス学科各選抜区分 募集人員

選抜区分		募集人員
一般選抜(個別学力試験)	I 期	20 名
	II 期	5 名
一般選抜(大学入学共通テスト利用)	I 期(2 科目型)	10 名
	I 期(3 科目型)	8 名
	II 期	5 名
学校推薦選抜(公募制)		5 名
学校推薦型選抜(同窓生子女推薦)		2 名

学校推薦型選抜(指定校制)		20 名
総合型選抜(自己推薦型)	I 期	10 名
	II 期	5 名
社会人入試		若干名
外国人留学生入試	I 期	若干名
	II 期	若干名

①一般選抜(個別学力試験) I 期・II 期

一般選抜(個別学力試験)は I 期・II 期の 2 区分からなり、高等学校で習得すべき基礎学力を十分に持っていて、AP に掲げる知識および技能や目的意識・意欲を備えた学生を募集する。

選抜方法は、以下に示す学力試験を実施し、AP 1 (知識および技能)、AP 2 (思考力・判断力・表現力等)に係る能力を判定する。特に筆記試験では知識を確認する設問で AP1(知識および技能)を確認するが、記述問題など応用的な能力が求められる設問を加えることで AP 2 (思考力・判断力・表現力等)に係る能力の確認も行う。また提出された調査書等書類(I 期・II 期ともに全体の学習成績の状況を 5 点、数学の学習成績の状況を 5 点の計 10 点満点で点数化)と総合して評価し、AP1-1 とともに AP3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)の判断を行う。AP1-2 でも定められたデータサイエンスを学ぶ上で必要な数学について、先に述べたように高校提出の調査書における数学の比重を重く設定した他、I 期のうち 2 月 1 日の試験では、これまでは試験が行われなかったところを必須科目として導入し、2 月 2 日の試験では、選択科目に含めることとした。なお、受験生は受験日を選択することができ、両日とも出願、受験することもできる。II 期においても、主に AP 2、AP 3 に関する面接の中に AP1-2 に関連した質問を交えることにより、数理的思考力および高校数学の理解度を試問し評価する。

また、I 期では英語外部検定試験の活用を行い、一定の基準を満たした証明書類を提出した場合は英語の点数に換算する。英語 4 技能(listening, reading, speaking, writing)も評価できるようにする。

I 期

2 月 1 日：数学(100 点)、国語または英語(100 点)

2 月 2 日：国語、数学、英語、日本史、世界史、公民、情報から 2 科目(各 100 点)

※国語ではマークシート式と記述式を併用する。

II 期

国語または英語(100 点)と面接(50 点)

※国語ではマークシート式と記述式を併用する。

※面接では生活の中でのデータ活用に関する質問を含み、AP 2 (思考力・判断力・表現力等)、AP3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を評価する。

②一般選抜(大学入学共通テスト利用) I 期・II 期

大学入学共通テスト利用は I 期、II 期の 2 区分からなる。I 期では 2 科目または 3 科目の得点

を利用し、Ⅱ期では2科目の得点を利用する。いずれも高等学校で習得すべき基礎学力を十分に持っていて、APに掲げる知識および技能や目的意識・意欲を備えた学生を募集する。

選抜方法は、以下に示す学力試験を利用し、AP1(知識および技能)、AP2(思考力・判断力・表現力等)に係る能力を判定する。また調査書の全体の学習成績状況を点数化(2科目型、3科目型ともに全体の学習成績の状況を5点、数学の学習成績の状況を5点の計10点満点)し、AP3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)の判断を行う。AP1・2でも定められたデータサイエンスを学ぶ上で必要な数学については、先に述べたように高校提出の調査書における数学の比重を重く設定した他、2科目型でも選択に含め、科目数の多い3科目型では必須とする。

一般選抜(個別学力試験)Ⅰ期と同様に、英語外部検定試験の活用を行い、一定の基準を満たした証明書類を提出した場合は英語の点数に換算することで英語4技能(listening, reading, speaking, writing)も評価できるようにする。

2科目型(Ⅰ期・Ⅱ期)：

「国語(近代以降の文章)」「英語」「数学」から2科目(1科目100点)

※数学を選択する場合は「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」からいずれか1科目

3科目型(Ⅰ期)：

「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」から1科目(1科目100点)

「国語(近代以降の文章)」「英語」「歴史総合、世界史探究」「歴史総合、日本史探究」「地理総合/歴史総合/公共から2科目」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎から2科目」「物理」「化学」「生物」「地学」「情報Ⅰ」からいずれか2科目(1科目200点)

③学校推薦型選抜(公募制)

出身高等学校長の推薦に基づき、調査書等提出書類(全体の学習成績の状況が3.4以上)およびAP(AP1をふまえつつAP2及びAP3を重点的に)に準拠した筆記試験(小論文)、面接試験(生活の中でのデータ活用についての質問を含む)を行い、APに掲げる基礎的・基本的な知識、思考力、コミュニケーション能力、学習意欲等を備えた学生を募集する。

筆記試験(小論文)ではAP1(知識および技能)、AP2(思考力・判断力・表現力等)、面接試験ではAP1(知識および技能)、AP2(思考力・判断力・表現力等)、AP3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認をする。また高等学校から提出された調査書を活用して、高等学校での取り組み内容・高校教員の評価から、AP1とともにAP3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)について確認し、総合して判断する。

④学校推薦型選抜(同窓生子女推薦)

建学の精神に深い理解を示す同窓生の子女を受け入れることによって、本学独自の学風を継承し、発展させるための一助とする入試制度。出身高等学校長の推薦に基づき、調査書等提出書類(全体の学習成績の状況が3.2以上)およびAP(AP1をふまえつつAP2及びAP3を重点的に)に

準拠した面接試験(生活の中でのデータ活用についての質問を含む)を行い、AP に掲げる高等学校等での学習成績、コミュニケーション能力、学習意欲、本学学風の継承等を備えた学生を募集する。

面接試験では AP 1 (知識および技能)、AP 2 (思考力・判断力・表現力等)、AP 3 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認する。また高等学校から提出された調査書を活用して、高等学校での取り組み内容・高校教員の評価から、AP1 とともに AP 3 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)について確認し、本学学風の継承等を総合して判断する。

⑤学校推薦型選抜(指定校制)

本学の指定する高等学校において学校長の推薦に基づき、学力優秀で人間性豊かな生徒、また、ある分野で特に優れた才能や実績等を持っている生徒を募る入試制度。出身高等学校長の推薦を重視し、調査書等提出書類(全体の学習成績の状況は高等学校ごとに別途指定)および AP (AP1 をふまえて AP 2 及び AP3 を重点的に)に準拠した面接試験(生活の中でのデータ活用についての質問を含む)を行い、AP に掲げる高等学校等において身に付けた学力、思考力、判断力、表現力、学習意欲等を総合して評価する。

面接試験では AP 1 (知識および技能)、AP 2 (思考力・判断力・表現力等)、AP 3 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認する。また高等学校から提出された調査書を活用して、高等学校での取り組み内容・高校教員の評価から、AP1 とともに AP 3 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)について確認し、総合して判断する。

⑥総合型選抜(自己推薦型) I 期・II 期

総合型選抜(自己推薦型)は I 期・II 期の 2 区分からなる。本学への入学を第一希望とし、本学の教育方針・教育内容を十分に理解するとともに、AP に掲げる高い学習意欲を持ち、入学後の学生生活の夢や将来の目標が明確であり、そのことを自分自身で説得的に表明できる学生を募集する。

提出された資料を詳細に審査し AP 1 (知識および技能)、AP 2 (思考力・判断力・表現力等)、AP 3 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認する。また時間をかけた面接(生活の中でのデータ活用についての質問を含む)、課題についてのプレゼンテーションにおいても AP 1 (知識および技能)、AP 2 (思考力・判断力・表現力等)、AP 3 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認し、様々な資質や能力や活動を総合して判断する。

⑦社会人入試

近年、社会情勢の変化に伴い、社会人の学習の機会を一層拡大して創造性豊かな人材を育成することが求められている。このような要請に応えるために本入試により AP に掲げる意欲的な社会人を積極的に受け入れることを目的としている。

本入試における社会人の定義は、高等学校もしくは中等教育学校等を卒業し、卒業後 6 年以上

経過した者で、かつ当該年度 10 月 31 日現在で 2 年以上の社会人経験を有している女子としている。なおここでいう社会人経験とは、職業経験(パート・アルバイト等非正規雇用を含む)、社会的活動(NPO、NGO、ボランティア活動等)の経験、主婦等の経験を指し、学校教育法上の学校、専修学校、各種学校および外国の教育機関での在学は含まない。

高等学校(大学・短大を含む)等卒業後の社会人としての経歴などを斟酌し、データサイエンス学科の教育方針に適合した人物であるかを判断する。提出書類、小論文においては、AP 1(知識および技能)、AP 2(思考力・判断力・表現力等)に係る能力の確認を行う。面接(生活の中でのデータ活用についての質問を含む)により AP 1(知識および技能)、AP 2(思考力・判断力・表現力等)、AP 3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認し志願者の能力・適性・学習意欲等を総合して判断する。

⑧外国人留学生入試Ⅰ期・Ⅱ期

日本国籍を有しない者で、データサイエンス学科の教育方針を理解し、本学が定める入学資格および AP に掲げる十分な勉学熱意・学力並びに入学後の生活および勉学で困難なく成果をあげられるような日本語能力を有する学生を募集する。

本入試の出願要件においては、入学時に「出入国管理及び難民認定法」に定められる「留学」の在留資格を取得できる者、入学後の生活および勉学において支障のない十分な日本語能力を有する者(日本語能力試験(JLPT)の 1 級または N1、日本留学試験(EJU)の平均点以上の証明書を提出した場合、判定時に加算する)、日本国内に居住し、一家計を立てる成年者で本人の学費と一身上に関する一切の責任を負える確実な身元保証人がいる者、としている。

提出書類、筆記試験(小論文)においては、AP 1(知識および技能)、AP 2(思考力・判断力・表現力等)に係る能力の確認を行う。また面接(生活の中でのデータ活用についての質問を含む)においては、AP 1(知識および技能)、AP 2(思考力・判断力・表現力等)、AP 3(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に係る能力について確認し、総合して判断する。

(3) データサイエンス学科の選抜体制

本学の入学者選抜は、大妻女子大学入学者選抜実施規程に基づき、統一的に実施している。選抜に責任をもつ会議体として、学長を委員長とする「入学者選抜施策委員会」を設置、入学者選抜に関する重要事項(入学者の受入れに関する方針、選抜方法)を審議、決定している。さらに各学部には「入試委員会」があり、入試実施要項、実施要領などの審議、決定をしている。

入試問題の作成については、学長から委嘱された教員が出題委員となり試験問題を作成し、同様に委嘱された別の教員が査読委員となりその試験問題の査読を行っている。作成・査読時には全学的に使用している「一般選抜問題等作成担当者マニュアル」を使用し、ミス防止に努めている。また入試問題で使用した作品等の出典は、入試種別、入試日程ごとに明らかにし、入試問題の二次利用等に対して適切に対応している。

入学試験の判定は学部長のもとで原案を策定し、可否判定結果は学長の承認を経て、教授会で報告される。入試制度別の募集人数の割合(各選抜区分の募集人員/入学定員)は、社会人入

試、外国人留学生入試の若干名は除き、一般選抜(個別学力試験)が 27.8%、一般選抜(大学入学共通テスト利用)が 25.5%、学校推薦型選抜(指定校制・公募制・同窓生子女推薦)が 30.0%、総合型選抜(自己推薦型)が 16.7%程度を予定している。

9. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

本学部の教員組織は基幹教員 14 名(教授 11、准教授 2、講師 1)で編制される。入学定員 90 名に対し必要となる大学設置基準上の基準教員数 13 名(うち教授 7 名)であるが、それを上回る教授 11 名を含む教員 14 名を確保する予定である。基幹教員 14 名のうち、11 名は博士の学位を有している。

基幹教員は本学部の設置の趣旨や特色、育成する人材像、教育課程などをふまえ、数理・統計分野(4 名)、情報分野(4 名)、経済分野(3 名)、経営分野(3 名)を専攻分野とする教員により構成されている。データサイエンスを構成する数理・統計分野や情報分野だけでなく、データサイエンスの応用分野であるビジネス分野にも配慮したバランスの取れた文理融合の人員構成となっている。採用にあたっては、大妻女子大学データサイエンス学部教員の採用及び昇任に関する選考基準に基づき、研究業績を重視し、大学における教育実績も十分配慮しつつ、授業科目との適合性も十分考慮した選考を行っている。

教育上主要と認める授業科目(本学部では先述のように必修科目及び選択必修科目)については、すべて基幹教員の教授、准教授、専任講師が担当する体制となっている。

データサイエンスが応用を重視する学問であること、ビジネスで活用できるデジタル人材を育成すること、データサイエンスを取り巻く状況変化の激しさなどを考慮し、25 年以上の大企業での実務経験豊富な実務家教員を 3 名採用している。この 3 名については、それぞれ豊富な実務経験だけでなく、大学での教育経験も有している。

データサイエンスは学際的な研究分野であり、数理・統計分野、情報分野、経済分野、経営分野の研究分野から構成されている。各分野の連携も必要とされる応用分野である。研究者個人が研究を推進するとともに、分野横断的な研究の展開も必要である。基幹教員には別館に個人研究室が用意されるとともに、教員の交流の場としての共同研究室も整備される。研究予算も令和 7 年度から配布される予定である。総務センター研究支援室により、科学研究費などの外部資金獲得の支援が行われるとともに、本学独自の研究支援として、戦略的個人研究費、共同プロジェクトなどの取り組みがある。

完成年度末(令和 10 年度)における基幹教員の年齢分布は 65 歳以上 70 歳未満 7 名、60 歳以上 65 歳未満 2 名、50 歳代 3 名、40 歳代 1 名、30 歳代 1 名である。本学院は満 60 歳を教職員の定年としている。定年後は「大妻女子大学の教育職員に係わる任用期限に関する内規」により、教授の場合は常勤嘱託として理事会の承認を得ることにより、満 70 歳に達した直後の年度の学年度末まで雇用を継続することができる。【資料 10：大妻女子大学の教育職員に係わる任用期限に関する内規】完成年度末において満 70 歳に達する教員はいない。完成年度末において 60 歳を超える教員は 9 名いるが、身分は常勤嘱託であるが、教育指導上の責任は、定年までの基幹教員と原則変わらず、何ら軽減が図られるものではない。

教育研究水準の向上や教育研究の活性化を図ることに問題はない。ただし、本学科の基幹教員における 65 歳を超える教員の占める割合が高いことについては課題があると認識している。実際【表 1】のとおり完成年度以降 8 年間で 9 名の基幹教員が退職する予定である。そこで、学部発足後速やかに将来計画委員会（仮称）を立ち上げて教育研究実施組織の将来構想や長期的な採用計画を練り、開設 2 年目から関連分野の教員から構成される人事委員会を該当ポストごとに発足させ、授業開講に必要となる年度よりも早く採用が確実となるよう公募を含むサーチ活動を開始する。定年を超えた教員が担当する科目に関し、令和 19 年度までに、次のとおり 30～50 歳代の若手を含む採用により教育研究の継続を考えている。その際、主要授業科目は基幹教員が引き続き担当するよう確実に補充を行う。データサイエンスという学問分野の特質もふまえ、学部運営の活性化を目指し、学外一般公募の活用を含め優秀な若手教員の積極的獲得に努め、適切な年齢構成による教育体制を構築していく。

【表 1】完成年度時点で定年年齢を迎える者に関する科目を担当する教員の採用計画（令和 19 年度まで）

※【表 1】は教員の個人情報が含まれるため非公開とする。

※【表1】は教員の個人情報が含まれるため非公開とする。

なお、基幹教員のうち1名は、本学における教育研究以外の業務に従事する者であるが、令和8年度からは本学の専任教員となる予定である。令和7年度に当該教員が担当する「プログラミングⅠ」、「コンピュータの基礎」等の授業科目については本学において教授可能である旨当該教員にも確認を得ている。また、研究上の支障が生じないよう、個人研究室などについても令和7年度から配分する予定であり教育研究上の支障は生じない。

教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制については、「事務組織規程」に基づき、各事務部門にセンター・グループ等を設置し、教育研究活動の支援、学習の支援及び大学の管理・運営を担うための事務職員等が適切に配置されている他、例えば大学等の教育と研究に関する基本方針について審議する大学運営会議に事務局長の他事務局各部長も委員として参画するなど、教員及び事務職員等相互の役割分担の下で教育研究活動等の運営や厚生補導等が組織的かつ効果的に行われている。

10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

(1) 研究の実施についての考え方

本学は「女子教育に積極的な役割を果たす教育・研究活動」を法人の使命として掲げている。中期計画の戦略ドメインにも「『教育と研究の大妻』へ一段のギア・アップ」を据え、研究環境の整備や研究資金の投入、研究成果の地域・社会還元、研究活動の広報活動の充実、女性の学びのための研究の深化と教育への展開を推進している。また本学の学術研究に携わるすべての研究者が遵守すべき基本的な倫理規範として大妻女子大学学術研究倫理憲章を定め、遵守することを誓約している。

(2) 体制、取組

女子教育に積極的な役割を果たす教育・研究活動を実行するために、人間生活文化研究所を中心として、①研究資金面②外部資金獲得面③研究成果の発信面—の三つの側面から精力的に研究を支援する体制を整備し、研究活動を多面的・総合的に推進している。

研究資金面の支援では、学内における研究者間の交流促進、競争的外部資金への応募促進を目的とする「共同研究プロジェクト」、学内の研究活動の活性化・高度化と学外の競争的資金を獲得するためのもととなる研究を助成することを目的とする「戦略的個人研究費」があり、学内での組織横断的な研究活動の活発化や科学研究費助成事業採択数の増加につなげている。外部資金獲得に係る支援では、科学研究費助成事業の申請を支援するための研修会「科研塾」を

実施している。研究成果の発信面の支援では、学外にも開放されたオンラインジャーナル「人間生活文化研究」を刊行している。

教育研究実施組織として総務センター研究支援室を設置し、人間生活文化研究所と協働して研究支援業務を行っている。研究支援室は、科学研究費助成事業やその他外部資金並びに共同研究・受託研究・奨学寄付金に関する事務手続き等を行い、教員が研究に専念できる環境を整備している。研究活動における不正および公的研究費の不正使用等においては関連規程等を定め、本学の監事や内部監査室と連携しながら不正行為の未然防止に取り組んでいる。担当職員はURA（リサーチ・アドミニストレーター）認定制度研修を受講し、URAの育成と職員の研究活動マネジメント力向上を図っている。広報面においては大学ホームページに「研究」のグローバルメニューを設けて研究情報の訴求を図るとともに、小冊子「大妻ブックレット」を年に数冊発行して本学の多様な研究成果や特色ある教育等の発信に努めている。

なお研究費助成、外部資金獲得のための支援等以外に、大学専任教員に対して国内・国外研修制度およびサバティカル制度を整備し、教員の研究能力および資質向上も図っている。

11. 施設、設備等の整備計画

（１） 校地、校舎施設等の整備計画

本学の校地面積は 100,057.57 m²、校舎面積は 77,186.16 m²であり、本学部を設置しても設置基準を満たしている。本学部が位置する千代田キャンパス（千代田区三番町）は、千鳥ヶ淵、北の丸公園などが徒歩圏内に所在し、付近に各国大使館も多く、3 駅 6 路線いずれからでも徒歩約 10 分という都心でありながらも落ち着いた雰囲気であることから、教育の場としては最適な環境である。各校舎周辺や屋上のテラス、広場には四季折々の植栽を配置し、学生が自然を感じられるよう配慮している。

また、キャンパス内に 2 箇所の食堂を設置している他、各校舎に学生ラウンジ（千代田キャンパス 9 箇所（本館除く、A・C・G・H 棟の合計））を、本館 2 階から 7 階の各階には机や椅子・ソファを備えたホールを設けて学生が休息や昼食、談話、交流、自習など様々な用途で利用できるようにしている。その他約 1,000 人収容可能な講堂、体育館（4 箇所）を備えている。さらに本館南側には一部の時間帯で地域にも開放している緑に囲まれた広場「つまっこひろば」（約 403 m²）も設置し学生が休息、交流できる空間を室外にも確保している。

千代田キャンパスの校舎面積は 54,827.69 m²であり、教育施設としては、他学部や短期大学部との共用も含め、講義室 65 室（合計面積 7,918.23 m²）、演習室 45 室（合計面積 1,720.76 m²、他学部専用を除く）、情報処理教室（CALL 教室・自習室含む）16 室（2,073.80 m²）を設置しており、本学部の教育・研究活動に十分な施設を有している。千代田キャンパス内の全ての講義室・情報処理教室には、PC をはじめとした ICT 機器が教室前方に設置されている卓内に納められており、ボタン一つで簡単にプロジェクターを通してスクリーンに投影できる設備が設置されている。演習室においても、全室に PC 等を常設し、モニターテレビなどに投影できる設備となっている。また、管理室からの遠隔操作により授業サポート等を行える体制を整えている（一部教室を除く）。大学校舎 A 棟 1・2 階講義室及び本館 E・F 棟講義室においては、それぞれ、元とな

る教室から複数の教室へコンテンツ等を配信する教室間中継設備を備えており、教室の定員を超えた受講者へ授業を行うことも可能となっている。なお、これらの講義室や演習室、情報処理教室については、短期大学部を含めた他学部と共用の施設となるが、短期大学部については定員が縮小する（令和 6 年度に国文科と英文科を、令和 7 年度には家政科生活総合ビジネス専攻を学生募集停止とし、また令和 7 年度には残る家政科の入学定員も縮小を予定しており、短期大学部全体で入学定員が令和 5 年度の 350 人から令和 7 年度には 90 人へ減ずる）ことから、そこで生じた空き教室も活用することで、本学部や既設の学部等の教育研究に支障は生じない。なお、授業開始後に想定される典型的な時間割の案を作成することで、事前に教室の使用状況に支障が生じないことも確認している。【資料 11：時間割表】【資料 12：教室使用予定一覧】

こうした本学全体としての既存教室の活用に加え、本学部として十分な講義、演習等を行うために、令和 6 年度中に別館 J 棟に基幹教員全員分の個人研究室 14 室（個室）、共同研究室 1 室、学部長室、会議室を、大学校舎 B 棟に PBL が可能なアクティブラーニング室 1 室を、既存校舎を改修して新たに令和 6 年度中にすべて備える計画である。また、本学部は BYOD（Bring Your Own Device）を予定しており、あらかじめ学生に PC を準備してもらう計画としているが、購入できない学生に対しては学内に開室時間中は自由に利用できる PC を 150 台、授業で利用できる PC を 6 台程度用意している。また、学生が用意した PC が故障した場合には修理期間中に貸出ができるよう 20 台程度用意し、授業を止めない工夫を行っている。BYOD など で用意した PC には、Microsoft365 をインストールできるように Microsoft 社と包括契約を結んでいるため、在学期間中は Microsoft365 が利用できる。このほか、全学生が利用できるクラウドにファイル保存領域が準備されており、自宅よりアクセスが可能となっている。

共用の情報処理教室には PC が 806 台、このうちワークステーションは 302 台あり、より高度な計算が必要な場合にはこれらの機器が利用できるようソフトウェア（Python, R, TensorFlow 等）がインストールされており、生成 AI などにも対応できるよう整備されている。このほか、講義室 2 教室には情報処理教室の利用が多かった場合に備えて、机内にノート PC（152 台）を設置しており情報処理教室として利用することも可能である。さらに、PBL 可能なアクティブラーニング室は、令和 6 年度に新規で導入するほか、共用のもう 1 教室についても同年度に改修する。これらの教室は定員の 3 倍の持込機器に対応できるように無線 LAN の整備を行う予定で、学生と教員のニーズに対応できるように設計しており、新設するアクティブラーニング室では 4K プロジェクター 4 面を教室の前後に配置し、教員からの提示のほか、学生の BYOD の PC 画面も自由に提示できる予定である。既存アクティブラーニング室には改修に合わせて 4K4 面のほか電子黒板を 3 台導入予定である。なお、これらの改修については、講義室・演習室・情報処理教室への影響を極力少なくする計画としている（令和 5 年度に比べ演習室 2 室、情報処理教室 1 室減に止める）。

教育研究用機器備品等の設備については、以上述べたように開設前年度に必要なものを整備する計画であるが、開設年度以降も教育研究の進展を見つつ必要に応じ充実化の計画を検討する。

(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、学生の自学学習の支援や教育活動への関与、研究活動への支援等の機能を有しており、各学部のようなニーズに応えるべく業務を行っており、千代田、多摩それぞれのキャンパスに設置され、学生は、どちらの図書館も利用することができる。千代田キャンパスの図書館は、図書館棟地下2階から4階まで、閲覧席数473席（PC・AVブース67席、グループ閲覧席15席、個人ブース・テレキューブ9席、検索コーナー12席含む）、収容可能冊数は50万冊であり、本学部の規模、教育目的であるデータサイエンスの知識やスキルを修得し、課題の設定や解決を自ら行える人材を育成することについても十分に機能することがきる。多摩キャンパスの図書館は、4号館（図書館棟）3階と4階にあり、閲覧席数310席（PC・AVブース23席、グループ学習席54席、キャレル6席、検索コーナー9席含む）、収容可能冊数は26万冊である。本学部が設置される千代田キャンパスの図書館は、通常の閲覧席の他、地下1階のAV・情報メディアルーム、1、3階の個人ブース、オンライン授業やWeb面接を受けることができるテレキューブ、グループ学習が可能な4階ラーニングコモンズ等、学生に様々な学習環境を提供している。多摩キャンパスの図書館も、グループ学習が可能なコミュニケーションエリアやグループ学習室、個人学習が可能なキャレル席等を配し、学生の学習環境を充実させている。

現在、大学全体で図書約 42 万冊（内、電子図書約 1,700 冊）、学術雑誌約 8,800 タイトル（内、電子ジャーナル約 2,700 タイトル）、データベース 20 点を所蔵あるいは契約している。これら蔵書のうち、本学部の教育研究に関連する図書として、情報科学、情報処理関連 1,668 冊、社会学関連 73,195 冊、経済学・経営学関連 6,454 冊、統計学関連 115 冊、数学関連 1,665 冊、通信工学・電気通信関連 242 冊、応用数学・人間工学関連 105 冊、情報工学関連 58 冊を有している。データサイエンス学部として、データサイエンスの知識やスキルを修得し、ビジネスや社会の課題の設定や解決ができる文理融合人材を育成することを目的としており、そのために十分な講義、演習等を行うこととし、新たにデータサイエンス関連図書 396 冊、経済学・経営学に関する図書 783 冊の他、Cambridge University Press の電子図書（洋書）のうちデータサイエンス・コレクション 46 タイトルを購入している。学術雑誌については、「ACM Digital Library」を契約しており、“ACM Computing Surveys”、“Digital Threats: Research and Practice”などの ACM（国際計算機学会）が刊行する雑誌約 60 誌が利用できる。その他、人文、社会、自然科学の幅広い分野の電子ジャーナル（"International Journal of Computer Vision"、"British Journal of Mathematical & Statistical Psychology"など 1,700 誌の査読誌を含む約 2,100 誌）が対象の「EBSCOhost Academic Search Elite」、経済学、社会学、数学、統計学分野の重要タイトル（"Econometrica"、“The Economic Journal”など 117 誌）を収録している「JSTOR Arts & Sciences I」が利用できる。本学部設置にあたり、電子ジャーナル”American Statistician”、“Journal of Cognitive Neuroscience”、“INFORMS Journal on Data Science”などを新規購読する予定である。【資料 13：調達予定図書リスト】

さらに、開設後も他学部同様に予算を配賦し選書作業を行い、必要な資料を継続的に整備する予定である。

所蔵している資料はすべて、図書館システムで管理しており、利用者は、オンライン蔵書目

録を通じていつでも、資料の所在、貸出状況の確認や、貸出中図書の予約、他キャンパス所蔵の図書の取り寄せ依頼をすることができる。また、電子図書や前述の電子ジャーナルも含むデータベースについては、学内のPCからだけでなく、自宅等学外からも利用できる環境を整備している。これらの資料や設備の有効活用を促すために、図書館利用案内、文献情報の探し方等の各種ガイダンスを、個人、授業、ゼミ単位で通年実施し、学生の学習を支援している。

本学で所蔵していない資料については、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」等の活用や、国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL を通しての他大学との相互協力体制により、利用に供している。

12. 管理運営

(1) 大学運営会議

本学における教学マネジメントの体制については、学則第37条の2に規定されている大妻女子大学大学運営会議が中心となり構築している。大妻女子大学大学運営会議は、議長を学長とし、副学長、学部長、研究科長、事務局長、事務局各部長が構成員となり、学部間、学部と大学院間、教育組織と事務組織間等の全学的な連携協力の強化や問題意識を共有する場として機能している。また、大学の教育目的や教育目標に基づき作成される3つのポリシーは大妻女子大学大学運営会議での審議が必須であり、それらに沿った教学マネジメントの実現を図っている。8月を除き毎月1回開催し、大学等の教育と研究に関する次の事項の基本方針について審議する。

- ・教育目標、教育方針、教育内容、教育方法及び学位の質保証等に関する事項
- ・教員及び助手等の組織及び人事に関する事項
- ・教育研究組織及び附属施設等に関する事項
- ・学則その他重要な規則の制定及び改廃に関する事項
- ・学生の受入れに関する事項
- ・学生支援に関する事項
- ・外部資金獲得等の教育研究の活性化に関する事項
- ・卒業生、修了生及び地域社会との交流及び国際交流の促進に関する事項
- ・教育研究の自己点検・評価に関する事項
- ・各学部間の連絡調整に関する事項

(2) 教授会

本学部の教授会は大妻女子大学データサイエンス学部教授会規則（案）に基づき、8月を除き毎月1回開催し、大学運営会議の方針のもとに、教育活動に係る重要事項を審議・検討する。構成員は専ら当該学部等の教育研究に従事する基幹教員であり、教員人事、教育課程の編成・運営、学生の入学・退学や卒業に関する事項、教育・研究諸規則の改廃事項等の審議のほか、学部長報告として大妻女子大学大学運営会議、その他の全学的な動向についての報告があり、さらにFD（Faculty Development）委員会、教務委員会、入試委員会、学生委員会、図書委員

会等の各種委員会の報告が行われる予定である。なお、学則第37条第1項第3号に規定する、学部教授会の意見を聴くことが必要なものとしてあらかじめ学長が定める事項については、内規（「学部教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項に関する内規」）を定め、学内に周知されている。また、学生の退学、停学及び訓告の処分の手続きについては「大妻女子大学学生懲戒規程」により学長が定めている。

13. 自己点検・評価

（１） 実施方法

本学における自己点検・評価活動の方針は、内部質保証の推進に責任を負う組織である「大妻女子大学自己点検・評価委員会（以下、「委員会」という。）」において、自己点検・評価の実施基準及び評価指標を策定し、これに基づき実施している。

（２） 実施体制

委員会は、学長を委員長とし、副学長、大学院研究科長、大学院各専攻主任、各学部長、短期大学部長及び各学部から選出された教員、人間生活文化研究所長、大学各附属施設所長、事務局長、各事務局部長等で構成され、全学的な内部質保証及び自己点検・評価活動の基本方針等を審議・検討する中核的な組織である。

（３） 活動内容・結果の活用

委員会にて策定された基準に沿って、大学院、各学部、短期大学部、人間生活文化研究所、大学各附属施設及び事務組織の各部署等（以下、「各部門」という。）は、自己点検・評価を実施し、3年ごとに報告書を委員会に提出する。委員会は提出された報告書をもとに大学全体の自己点検・評価報告書を作成する。委員会は、大学全体、各部門の報告書を検証し、必要に応じて改善を求める。改善を求められた各部門は改善内容に基づき、改善のための施策を中期計画等で実行する。また、委員会は自己点検・評価の客観性・公平性を高めるために、定期的に学生の代表者や地域社会、産業界等からの意見聴取等を行っている。それらを踏まえ、本学の教育目標の実現に向けて、教育研究活動等の状況並びに組織、施設の運営状況及び財務状況の改善を図っている。

（４） 評価項目

評価項目は、公益財団法人日本高等教育評価機構の大学評価基準に則して、①使命・目的等に関すること、②学生に関すること、③教育課程に関すること、④教員・職員に関すること、⑤経営・管理と財務に関すること、⑥内部質保証に関すること、としている。

（５） 結果の公表

自己点検・評価報告書は、3年ごとに本学ホームページに掲載し、学内外に対し広く公表している。

(6) 認証評価

直近では、令和3年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、令和4年3月16日付で「大学評価基準に適合している」と認定された。

14. 情報の公表

(1) 情報公表の方針・考え方

本学における教育研究活動等の状況については、大学ホームページや大学公式SNSで受験生をはじめとして在学生・保護者、卒業生、地域・一般、採用担当・報道関係向けに最新情報を発信している。

本学の教育目標や目的は大学ホームページのほか大学案内にも掲載している。受験生に配布する入試ガイドには入学者の受入れに関する方針（AP）、学生に配布する履修ガイドには卒業の認定に関する方針（DP）、教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）を掲載している。

学校教育法施行規則第172条の2に規定されている教育研究活動等の状況に関する情報の公表については大学ホームページのメニューに設けたクイックリンク内に教育情報の公表を設置しリンクできる形で適宜公表するとともに、掲載項目は学校教育法施行規則において規定されている9つの要素をより見やすく配置している。

【教育情報の公表掲載ページURL】

<https://www.otsuma.ac.jp/about/disclosure/education/>

【公表情報の項目】

- ① 教育研究上の目的及び3つのポリシー
- ② 教育研究上の基本組織
- ③ 教育研究実施組織、教員数、各教員の学位業績
- ④ 入学者受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業者数、進学者数、就職者数
- ⑤ 授業科目、授業方法内容、年間授業計画
- ⑥ 学修成果評価、卒業・修了認定基準
- ⑦ 施設設備など学生の教育研究環境
- ⑧ 授業料、入学料など大学が徴収する費用
- ⑨ 修学、進路選択、心身の健康等に係る支援

(2) 情報の公表方法

以下の項目について、ホームページ上に掲載し公表している。

- ①大学の教育研究上の目的及び3つのポリシーに関すること

ア. 教育目標・目的

<https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/goals/>

イ. 卒業の認定に関する方針（DP）

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/policies/#tab_1_3

ウ．教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/policies/#tab_1_2

エ．入学者の受入れに関する方針（AP）

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/policies/#tab_1_1

②教育研究上の基本組織に関すること

ア．教育研究組織図

<https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/list/#target01>

イ．学校法人組織図

<https://www.otsuma.jp/information/organization>

ウ．教職員数

<https://www.otsuma.jp/information/number>

③教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

ア．教職員データ

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/staff/

イ．教員一覧

<https://www.otsuma.ac.jp/academic/teachers/>

ウ．研究者データベース

<https://www.otsuma.ac.jp/research/results/database/>

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

ア．入学者数・入試方式別入学者数・編入学者数

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/students/#target02

イ．収容定員

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/students/#target01

※収容定員は学生数の表内「収容定員」を参照。

ウ．学生数

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/students/#target01

エ．卒業者・修了者数

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/students/#target05

オ．就職・キャリア関連データ

<https://www.otsuma.ac.jp/career/employment/data/>

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

ア．授業科目、授業方法内容、年間授業計画

<https://www.otsuma.ac.jp/about/disclosure/education/contents/>

イ．シラバス

<https://www.otsuma.ac.jp/campuslife/class/syllabus/>

⑥学修の成果に係る評価（連携開設科目に係るものを含む。）及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

ア．学修成果評価、卒業・修了認定基準

<https://www.otsuma.ac.jp/about/disclosure/education/assessment/>

イ．学位規程

<https://www.otsuma.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/01-05-01-06大妻女子大学学位規程.pdf>

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://www.otsuma.ac.jp/about/disclosure/education/environment/>

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

<https://www.otsuma.ac.jp/about/disclosure/education/fees/>

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<https://www.otsuma.ac.jp/about/disclosure/education/supports/>

⑩その他

ア．学則

[https://www.otsuma.ac.jp/wp-content/themes/renew-](https://www.otsuma.ac.jp/wp-content/themes/renew-otsuma/assets/files/about/disclosure/education/purpose/R5大学学則R5.5.29.pdf)

[otsuma/assets/files/about/disclosure/education/purpose/R5大学学則R5.5.29.pdf](https://www.otsuma.ac.jp/wp-content/themes/renew-otsuma/assets/files/about/disclosure/education/purpose/R5大学学則R5.5.29.pdf)

イ．自己点検

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/internal_quality_assurance/selfcheck/

ウ．認証評価

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/internal_quality_assurance/certification_evaluation/

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学における教育内容改善のための FD 活動は、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会のもとで各学部 FD 委員会及び大学院研究科 FD 委員会が密接な連絡を取りながら、全学が一致して組織的に取り組んでいる。

大妻女子大学 FD 委員会は、各学部代表者のほかに各学部長、副学長、事務局長が出席して全学の活動に関する計画、実施、評価を行っており、その活動の概要は各学部の活動報告書も含んだ全学の活動報告書として毎年大学ホームページで公表している。

FD に関する具体的な活動は、以下のとおりである。

(1) 教員評価制度（教員の自己評価）

平成 25(2013)年度から教員評価制度を導入しており、「大妻女子大学教員評価規程」及び「教員評価要領」を定め、副学長を委員長として教員評価運営委員会を構成し、評価活動を実施している。全教員の教育活動、研究活動、社会貢献活動、管理運営活動について、前年度の活動状況（研究活動及び地域貢献活動領域については過去 3 年間）を評価点数方式で自己評価を行う。この自己評価結果は学科長または研究所長等の所属長を経由して全学的に集計し、分析評価している。また、この量的評価と並行して、教育活動に関しては、年度当初に教員が各

自の教育目標を設定し、それがどの程度達成できたかを、次年度初めに活動報告書に記載して提出し、さらに問題を改善するための計画を策定することになっている。

(2) 授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）

学生が評価者となる「授業改善のためのアンケート」を、全学統一の書式で前期・後期の各学期終了前に行っている。アンケート項目は、授業担当者の授業の進め方、学生の授業への取り組みとその成果、総合的な印象にわたる 10 程度の設問から構成されている。

原則として非常勤教員を含む全教員が担当する全授業が評価の対象であり、調査結果は各授業担当者へのフィードバックに加え、教育支援グループが集計を行い集計結果は大妻女子大学 FD 委員会及び各学部 FD 委員会において分析、評価されて問題点を明らかにしている。また、授業担当者は、個々の授業について学生から指摘された問題点、課題を来たる授業等にフィードバックするべく改善策を検討し、授業の質や教授技術の向上を図っている。

(3) FD 研究会・講演会

例年前後期ともに全学の教員（含む非常勤講師）を対象とした研修会・講演会を開催し、全教員が研修を受けるように促し、何らかの理由で出席できなかった場合でも後日動画により視聴してもらっている。最近のテーマは、「障害学生に対する合理的配慮の実践－改正障害者差別解消法の施行に向けて大学が取り組むこと－」、「学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業－大学における PBL－」、「アフターコロナの ICT 教育－respon を活用して全学生参加型の双方向授業をつくる－」等である。

(4) 授業担当者懇談会

例年前期に開催し、授業担当教員（含む非常勤講師）による学生指導に関する各位の所見・抱負などを確認するとともに、非常勤教員からの本学への意見や要望、指導上の注意点や不明点なども確認する良い機会となっている。なお、その意見や要望については、各学科や事務局から適宜フィードバックしており、改善を図っている。

上記のように、FD 活動は大妻女子大学 FD 委員会を中心に組織的な実施とその見直しを行っている。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組について

本学では、社会的・職業的自立を培うために、全学共通科目の基礎科目としてキャリア区分を設けており、キャリア区分には、「キャリア・ディベロップメント・プログラム(CDP)Ⅰ」及び「キャリア・ディベロップメント・プログラム(CDP)Ⅱ」、「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」の5科目を開設し、コミュニケーション力、課題解決力、課題解決のために協働する力といった、産業界や地域社会が求める「汎用的能力」の育成

を重視した科目配置を行っている。具体的には「キャリアデザインⅠ」及び「キャリアデザインⅢ」はアクティブラーニングを通じて個人のキャリアについて考えるように促し、「キャリアデザインⅡ」では産業界や企業の理解を促している。また、「キャリア・ディベロップメント・プログラム(CDP)Ⅰ・Ⅱ」では、提携団体(企業・地方自治体)が直面している課題に学部をこえた学生がチームを組んで取り組むPBL型授業であり、履修者の「汎用的能力」を伸ばすためにワークショップやリハーサル、発表内容の振り返り等において学生同士の相互の学び合いをふんだんに取り入れている。このほか、女性リーダーの講演とディスカッションから学ぶ「リーダーシップ開発」も開講している。

これらの全学的取り組みに加えて、本学部の講義においても、選択必修科目の「実務から学ぶデータサイエンス」は、実社会でデータに関わる仕事をしている実務家を招いて体験等を聞く授業であることから、学生にとって就業イメージを形成し自らのキャリアを考える契機となることが期待される。このほか、専門教育科目の中にも、「キャリア開発」など学生がキャリアについて考える上で参考となる科目が開講される。

(2) 教育課程外の実践について

本学では、学生の社会的・職業的自立につながる基礎的素養と実践的能力の修得を全面的に支援するためキャリア教育センターを、就職・進学に対する相談・助言体制として就職支援センターをそれぞれ設置している。

キャリア教育センターでは、産業構造や社会構造の変化に対応し、ビジネス社会、地域社会、家庭で活躍していく女性のために、従来の学部等での授業と並行して、全学部の学生、卒業生を対象に「大妻マネジメントアカデミー(OMA)」という正課外の講座を開講している。本講座は、卒業生をはじめとする社会人女性も対象とし、社会の第一線で活躍する社会人と切磋琢磨することを可能とし、学生が社会に出てから活躍できるように年度ごとにプログラムを改編している。一方、就職支援センターでは、窓口での就職・進学相談及び就職・キャリア支援講座を実施している。学生相談窓口には、専任職員とキャリアカウンセラーを配置し、就職・進学に対する相談に応じている。キャリアカウンセラーによる事前予約制での相談は、Zoomまたは対面での選択が可能で、そのほか電話、メールでの相談も受け付ける。また、ハローワークとも連携し、面接を中心とした指導を行う。

大学3年生には「就職基礎講座」と題し、自己分析から面接対策まで、基礎から実践に向けた支援を実施する。そのほか「マナーガイダンス」、「U・I・Jターン就職ガイダンス」等を実施し、学生の自立に関する支援体制を強化する。大学4年生には、「就職活動支援ガイダンス」を複数回実施し、就職活動の復習、その時期に合わせた活動方法について、より一層丁寧に指導する。また、低学年向けのガイダンスを複数回実施し、就職活動に向けての心構えや基礎知識の構築、「職務適性検査」を実施することで、学生自身を理解させる機会を設ける。さらに、全学生を対象とした各種試験・資格対策講座および「業界研究講座」、「OG懇談会」、「内定者懇談会」等を開催しており、これらの機会を通し、多様な業種・職種にふれることで、幅広い職種に興味を持つことが可能となる。インターンシップおよびいわゆる「オープンカンパニー」等と呼ばれる短期間の実習については、全学生を対象に実施しており、参加する意義、心構

え、ビジネスマナー等の各種講座を複数回実施し、これらを身に付けた上で、学生は実際の実習に参加する。これらの各種支援講座は、対面に加えて、オンデマンド視聴も可能となっている。なお、就職資料室には、業界研究や職種研究に関する書籍や経済誌、進学に関する資料及び個人情報を除いた内定報告書を設置し、年次を問わず、オープンな環境で利用することができる。さらに、学生専用の就職・進学情報サイト「求人検索NAVI」を設け、常時、求人票・インターンシップ等の検索、個人情報を除いた内定報告書の閲覧、ガイダンス・講座等の情報の確認や前述のキャリアカウンセラーによる履歴書等の添削予約ができるようにしている。

(3) 適切な体制の整備について

社会的・職業的自立に関する指導については、キャリア教育センターと就職支援センターが連携して支援体制を整備している。

キャリア教育センターには専任教員、併任教員を配し、事務部門の就職支援センターと連携して、前述記載した本学独自の講座「大妻マネジメントアカデミー(OMA)」を開講する等、多様なキャリア教育を推進することにより、学生のキャリアアップを促し、結果として実際の就職につながる成果をあげている（令和5年度卒の学部生就職率98.6%）。なお、同センターにはキャリア教育センター所長、各学部長、センター専任教員のほか、事務局長、就職支援センター部長、教育支援センター部長等からなるキャリア教育センター運営委員会、さらに、センター併任教員、各学部専任教員、就職支援センター部長、就職・キャリア支援グループ課長等からなる企画実行委員会が組織され、教員・職員が協働して全学の就職・キャリア支援に関する案件について協議する場を設けている。

学生の就職状況についても、就職支援センターで毎月の就職内定状況を調査・分析し、その結果をキャリア教育センター企画実行委員会で報告し、翌年度の講座・ガイダンス等に活用するほか、教授会でも報告し、教員の学生に対する就職指導や各種講座への参加促進にも利用する。さらに、毎年度、産業分類別就職者数、学科・専攻別就職状況等、就職に関する詳細なデータを収録した『進路統計』を作成し、就職状況に関わる情報を広く学内で共有している。

以上

設置の趣旨等を記した書類 添付資料の目次

【資料1】 大妻学院中期計画	2
【資料2】 ポリシーの相互関係	3
【資料3】 競合校の1年次入学試験の状況	4
【資料4】 カリキュラム・マップ	5
【資料5】 科目ナンバリング	7
【資料6】 3つのポリシーと授業科目の対応表	8
【資料7】 カリキュラム・ツリー	9
【資料8】 履修モデル	10
【資料9】 全学共通科目	11
【資料10】 大妻女子大学の教育職員に係わる任用期限に関する内規	13
【資料11】 時間割表	30
【資料12】 教室使用予定一覧	31
【資料13】 調達予定図書リスト	33
【資料14】 必修科目比較表	66
【資料15】 進路統計2023 2023.3 卒（一部抜粋）	67
【資料16】 データサイエンスを学ぶ上で必要な数学に関する対応表 （高校での学習、一般選抜、入学前学習、リメディアル教育、正課授業）	68
【資料17】 基礎数学の授業内容（案）	69

大妻学院中期計画

1908年に創立者大妻コタカが裁縫・手芸の私塾を開いて以来、昨年2018年に本学院は創立110周年を迎えました。この110周年に際して、本学院は、100周年時に策定した中期計画を引き継ぎ、新たに中期計画を策定することとしました。この10年間の社会情勢の変化を受けて、本学がおかれた新しい時代の文脈の中で、教育・研究の理念を再構築し、今後の本学院の展開の方向を定めることが必要であると判断したためです。

新しい中期計画の策定にあたっては、創立者大妻コタカの教育理念に改めて立ち戻り、教育機関の在り方を再確認することから始めました。大妻コタカは「女性の自立のための女子一貫教育」を建学の理念としましたが、その基本線は、豊かな教養と思いやりの心を持ち合わせた女性、かつ実技実学を身につけ、家庭あるいは職場においてチーム一丸となって取り組むことができる専門職業人たる女性を育成することにあります。この伝統を踏まえてさらに現代的な意義を研ぎ澄ませたものが今回の中期計画です。

大妻学院の使命

本学院の使命、教育目標を以下のとおり再規定しました。

1. 学び働き続ける自立自存の女性の育成

建学の精神を継承するとともに、常に時代の変化に適応し、「学び働き続ける女性」として社会のあらゆる分野に主体的に参画貢献できる自立した女性の育成を目指す。

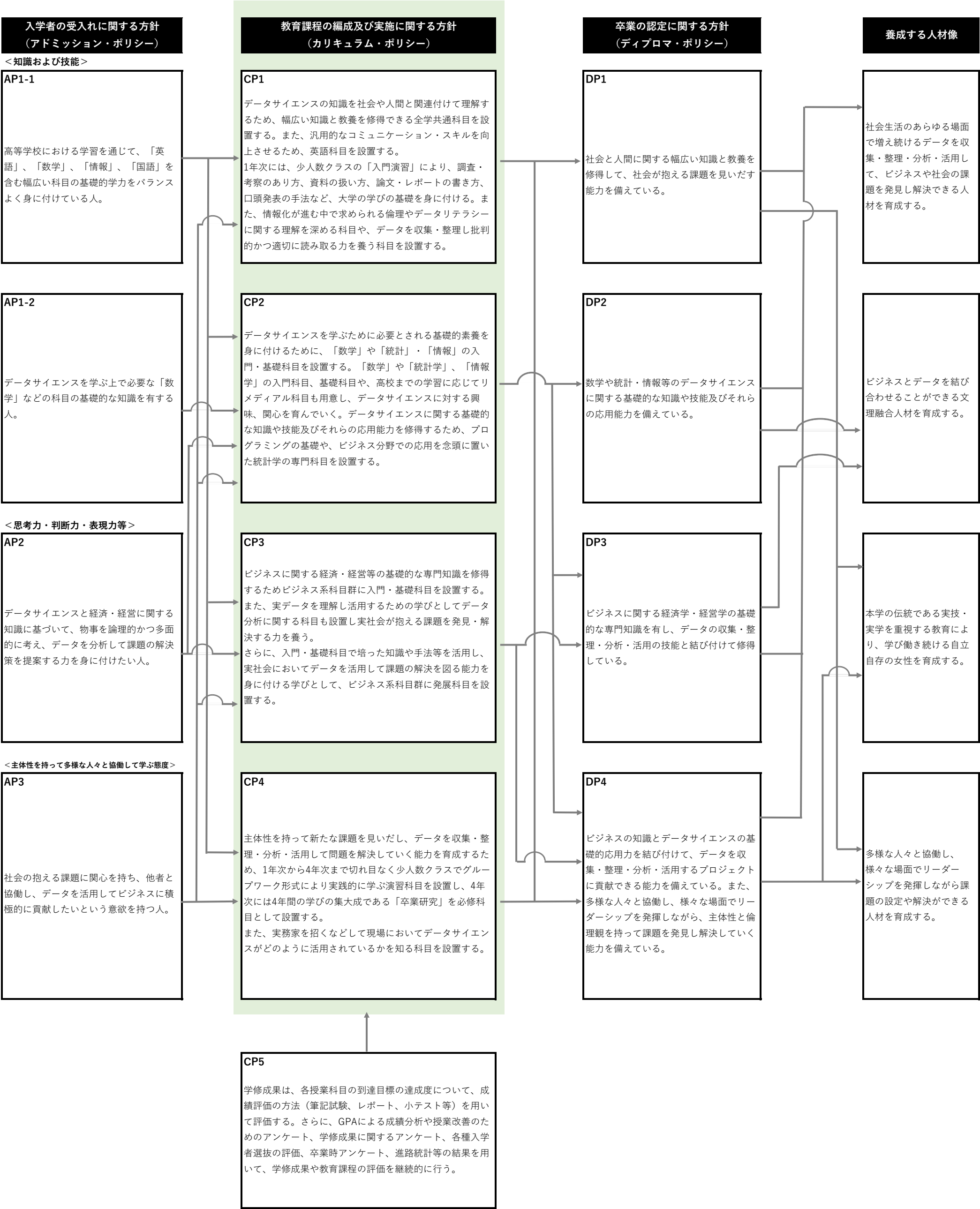
2. 女子教育に積極的な役割を果たす教育・研究活動

人間生活文化活動の多方面に亘る真理考究において、積極的な役割を果たす研究業績を積み重ね、社会の負託に応えられるような教育・研究機関を目指す。

3. 持続可能な共生社会の実現への貢献

地域住民や国内外の企業及び行政機関あるいは教育機関等との協働活動に積極的に参画し、社会から信頼を受け、慕われ愛される存在として持続可能な共生を目指す。

データサイエンス学部 ポリシーの相互関係



1. (書類の題名)

競合校の1年次入学試験の状況(令和3年～令和5年度入試) (【資料3】)

2. (出典)

「志願者数」「受験者数」「合格者数」「志願倍率」「女子入学者割合」：株式会社旺文社
「入学者数」：該当大学

3. (引用範囲)

「志願者数」「受験者数」「合格者数」「志願倍率」「女子入学者割合」：「蛍雪時代8月臨時増刊 全国 大学内容案内号(2022年(令和4年)入試対策用)」、「蛍雪時代8月臨時増刊 全国 大学内容案内号(2023年(令和5年)入試対策用)」、「蛍雪時代8月臨時増刊 全国 大学内容案内号(2024年(令和6年)入試対策用)」
「入学者数」：該当大学ホームページ

4. (その他の説明)

武蔵野大学データサイエンス学部、順天堂大学健康データサイエンス学部、京都女子大学データサイエンス学部、共立女子大学ビジネス学部の「開設年度」「入学定員数」「入試年度」「志願者数」「受験者数」「合格者数」「志願倍率」「入学者数」「女子入学者割合(%)」「定員充足率」を表で記載した。

データサイエンス学部 カリキュラム・マップ

							各DPと授業の到達目標との関係					
							DP1	DP2	DP3	DP4		
区分				レベル	授業科目	配当年次	単位	社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得して、社会が抱える課題を見いだす能力を備えている。	数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を備えている。	ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を有し、データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得している。	ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて、データを収集・整理・分析・活用するプロジェクトに貢献できる能力を備えている。また、多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力を備えている。	
専門 教育 科目	必修	統計・情報系科目群	数理・統計分野科目	入門	線形代数学Ⅰ	1	2		○			
				入門	微積分学Ⅰ	1	2		○			
				入門	統計学入門	1	2		○	○		
			情報分野科目	入門	情報処理入門	1	2		○	○		
				入門	コンピュータの基礎	1	2		○			
				入門	プログラミングⅠ	1	2		○	○		
		ビジネス系科目群	経済分野科目	入門	経済学入門	1	2			○		
			経営分野科目	入門	経営学入門	1	2			○		
		データサイエンス科目	入門	データサイエンス入門	1	2	○			○		
				データサイエンス倫理	2	2				○		
			演習科目	入門	入門演習Ⅰ	1	2	○			○	
				入門	入門演習Ⅱ	1	2	○			○	
				基礎	基礎演習Ⅰ	2	2	○			○	
				基礎	基礎演習Ⅱ	2	2	○			○	
				発展	専門演習Ⅰ	3	2				○	
				発展	専門演習Ⅱ	3	2				○	
				発展	専門演習Ⅲ	4	2				○	
		発展	専門演習Ⅳ	4	2				○			
		発展	卒業研究	4	4				○			
		選択必修	統計・情報系科目群	数理・統計分野科目	基礎	数理統計学	2	2		○		
	基礎				回帰分析	2	2		○	○		
	情報分野科目			基礎	プログラミングⅡ	2	2		○			
				基礎	ネットワークとセキュリティ	2	2		○			
				基礎	AI基礎	2	2		○	○		
	ビジネス系科目群		経済分野科目	基礎	ビジネス・エコノミクス	2	2			○		
				基礎	政策評価	2	2			○		
			経営分野科目	基礎	経営戦略	2	2			○		
				基礎	マーケティング	2	2			○		
				基礎	人材開発	2	2			○		
	データサイエンス科目		入門	実務から学ぶデータサイエンス	1	2	○					
			発展	協働連携プロジェクトA	3	2				○		
			発展	協働連携プロジェクトB	3	2				○		
	選択		統計・情報系科目群	数理・統計分野科目	入門	線形代数学Ⅱ	1	2		○		
					入門	微積分学Ⅱ	1	2		○		
					基礎	多変量データ解析	2	2		○	○	○
					基礎	確率論	2	2		○		
					発展	因果推論	3	2		○	○	○
		発展			ベイズ統計学	3	2		○	○	○	
		発展			時系列分析	3	2		○	○	○	
		発展			数理モデリング	3	2		○		○	
		情報分野科目		入門	コンピュータシステム	1	2		○			
				基礎	AI・機械学習	2	2		○	○	○	
				発展	Webプログラミング	3	2		○		○	
				発展	深層学習	3	2		○	○	○	
				発展	システムソフトウェア	3	2		○		○	
				発展	ヒューマンコンピュータインタラクション	3	2		○	○	○	
	発展	信号処理	3	2		○		○				
	発展	並列分散システム	3	2		○		○				
	発展	IoT	3	2		○	○	○				
	発展	ゲーミフィケーション	3	2		○		○				

							各DPと授業の到達目標との関係				
							DP1	DP2	DP3	DP4	
区分				レベル	授業科目	配当年次	単位	社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得して、社会が抱える課題を見いだす能力を備えている。	数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を備えている。	ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を有し、データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得している。	ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて、データを収集・整理・分析・活用するプロジェクトに貢献できる能力を備えている。また、多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力を備えている。
専門 教育 科目	選 択	ビ ジ ネ ス 系 科 目 群	経 済 分 野 科 目	発展	企業経済データ分析	3	2			○	○
				発展	労働経済データ分析	3	2			○	○
				発展	地域経済データ分析	3	2			○	○
				発展	国際経済データ分析	3	2			○	○
				発展	マクロ経済と経済政策	2	2			○	○
				発展	企業競争と産業政策	3	2			○	○
				発展	女性労働	2	2			○	○
				発展	社会保障	2	2			○	○
			発展	金融システム	2	2			○	○	
			経 営 分 野 科 目	発展	戦略データ分析	2	2			○	○
				発展	マーケティングデータ分析	2	2			○	○
				発展	人材データ分析	3	2			○	○
				発展	財務データ分析	3	2			○	○
				発展	イノベーションマネジメント	3	2			○	○
				発展	デジタル経営	3	2			○	○
				発展	起業論	3	2			○	○
				発展	消費者行動	3	2			○	○
				発展	マーケティング・コミュニケーション	3	2			○	○
				発展	デジタルマーケティング	3	2			○	○
				発展	キャリア開発	2	2			○	○
				発展	ダイバーシティ経営	3	2			○	○
				発展	会計学	2	2			○	○
		基礎		ビジネス英語	2	2			○		
		サイ エ ン ス 科 目	発展	データサイエンスと心理	2	2				○	
			発展	デザイン思考	2	2				○	
			発展	データ可視化	2	2				○	
			基礎	データハンドリング	2	2				○	
			基礎	調査法	2	2				○	
			発展	チームマネジメント	2	2				○	
発展	専門特殊講義		3	2				○			

区分	科目名	コード	レベル	授業方法	連番	科目ナンバリング	授業方法
DSS	数理・統計分野科目						
	線形代数学Ⅰ	DSS	1	6	001	DSS16001	講義・演習
	微積分学Ⅰ	DSS	1	6	002	DSS16002	講義・演習
	統計学入門	DSS	1	1	003	DSS11003	講義
	数理統計学	DSS	2	1	004	DSS21004	講義
	回帰分析	DSS	2	6	005	DSS26005	講義・演習
	線形代数学Ⅱ	DSS	1	6	006	DSS16006	講義・演習
	微積分学Ⅱ	DSS	1	6	007	DSS16007	講義・演習
	多変量データ解析	DSS	2	2	008	DSS22008	演習
	確率論	DSS	2	6	009	DSS26009	講義・演習
	因果推論	DSS	3	1	010	DSS31010	講義
	ベイズ統計学	DSS	3	1	011	DSS31011	講義
	時系列分析	DSS	3	6	012	DSS36012	講義・演習
	数理モデリング	DSS	3	6	013	DSS36013	講義・演習
DSI	情報分野科目						
	情報処理入門	DSI	1	6	014	DSI16014	講義・演習
	コンピュータの基礎	DSI	1	2	015	DSI12015	演習
	プログラミングⅠ	DSI	1	6	016	DSI16016	講義・演習
	プログラミングⅡ	DSI	2	6	017	DSI26017	講義・演習
	ネットワークとセキュリティ	DSI	2	1	018	DSI21018	講義
	AⅠ基礎	DSI	2	6	019	DSI26019	講義・演習
	コンピュータシステム	DSI	1	1	020	DSI11020	講義
	AⅠ・機械学習	DSI	2	6	021	DSI26021	講義・演習
	Webプログラミング	DSI	3	6	022	DSI36022	講義・演習
	深層学習	DSI	3	6	023	DSI36023	講義・演習
	システムソフトウェア	DSI	3	1	024	DSI31024	講義
	ヒューマンコンピュータインタラクション	DSI	3	6	025	DSI36025	講義・演習
	信号処理	DSI	3	6	026	DSI36026	講義・演習
	並列分散システム	DSI	3	1	027	DSI31027	講義
DSE	IOT	DSI	3	6	028	DSI36028	講義・演習
	ゲーミフィケーション	DSI	3	2	029	DSI32029	演習
	経済分野科目						
	経済学入門	DSE	1	1	030	DSE11030	講義
	ビジネス・エコノミクス	DSE	2	1	031	DSE21031	講義
	政策評価	DSE	2	1	032	DSE21032	講義
	企業経済データ分析	DSE	3	6	033	DSE36033	講義・演習
	労働経済データ分析	DSE	3	6	034	DSE36034	講義・演習
	地域経済データ分析	DSE	3	6	035	DSE36035	講義・演習
	国際経済データ分析	DSE	3	6	036	DSE36036	講義・演習
	マクロ経済と経済政策	DSE	3	1	037	DSE31037	講義
	企業競争と産業政策	DSE	3	1	038	DSE31038	講義
	女性労働	DSE	3	1	039	DSE31039	講義
	社会保障	DSE	3	1	040	DSE31040	講義
	金融システム	DSE	3	1	041	DSE31041	講義
DSM	経営分野科目						
	経営学入門	DSM	1	1	042	DSM11042	講義
	経営戦略	DSM	2	1	043	DSM21043	講義
	マーケティング	DSM	2	1	044	DSM21044	講義
	人材開発	DSM	2	1	045	DSM21045	講義
	戦略データ分析	DSM	3	6	046	DSM36046	講義・演習
	マーケティングデータ分析	DSM	3	6	047	DSM36047	講義・演習
	人材データ分析	DSM	3	6	048	DSM36048	講義・演習
	財務データ分析	DSM	3	6	049	DSM36049	講義・演習
	イノベーションマネジメント	DSM	3	1	050	DSM31050	講義
	デジタル経営	DSM	3	1	051	DSM31051	講義
	起業論	DSM	3	1	052	DSM31052	講義
	消費者行動	DSM	3	1	053	DSM31053	講義
	マーケティング・コミュニケーション	DSM	3	1	054	DSM31054	講義
	デジタルマーケティング	DSM	3	1	055	DSM31055	講義
	キャリア開発	DSM	3	1	056	DSM31056	講義
	ダイバーシティ経営	DSM	3	1	057	DSM31057	講義
	会計学	DSM	3	1	058	DSM31058	講義
	ビジネス英語	DSM	2	2	059	DSM22059	演習
DSD	データサイエンス科目						
	データサイエンス入門	DSD	1	1	060	DSD11060	講義
	データサイエンス倫理	DSD	2	6	061	DSD26061	講義・演習
	実務から学ぶデータサイエンス	DSD	1	1	062	DSD11062	講義
	協働連携プロジェクトA	DSD	4	2	063	DSD42063	演習
	協働連携プロジェクトB	DSD	4	2	064	DSD42064	演習
	データサイエンスと心理	DSD	3	1	065	DSD31065	講義
	デザイン思考	DSD	3	6	066	DSD36066	講義・演習
	データ可視化	DSD	3	6	067	DSD36067	講義・演習
	データハンドリング	DSD	2	6	068	DSD26068	講義・演習
	調査法	DSD	2	1	069	DSD21069	講義
	チームマネジメント	DSD	3	1	070	DSD31070	講義
	専門特殊講義	DSD	3	1	071	DSD31071	講義
DSZ	演習科目						
	入門演習Ⅰ	DSZ	1	2	072	DSZ12072	演習
	入門演習Ⅱ	DSZ	1	2	073	DSZ12073	演習
	基礎演習Ⅰ	DSZ	2	2	074	DSZ22074	演習
	基礎演習Ⅱ	DSZ	2	2	075	DSZ22075	演習
	専門演習Ⅰ	DSZ	3	2	076	DSZ32076	演習
	専門演習Ⅱ	DSZ	3	2	077	DSZ32077	演習
	専門演習Ⅲ	DSZ	3	2	078	DSZ32078	演習
	専門演習Ⅳ	DSZ	3	2	079	DSZ32079	演習
	卒業研究	DSZ	4	9	080	DSZ49080	その他

区分一覧	DSS：数理・統計分野科目 DSI：情報分野科目 DSE：経済分野科目 DSM：経営分野科目 DSD：データサイエンス科目 DSZ：演習科目	1：入門 2：基礎 3：発展 4：実践	1：講義 2：演習 3：実験 4：実習 5：実技 6：講義及び演習 7：講義及び実験 8：講義及び実習 9：その他
------	---	------------------------------	---

データサイエンス学部 3つのポリシーと授業科目の対応表

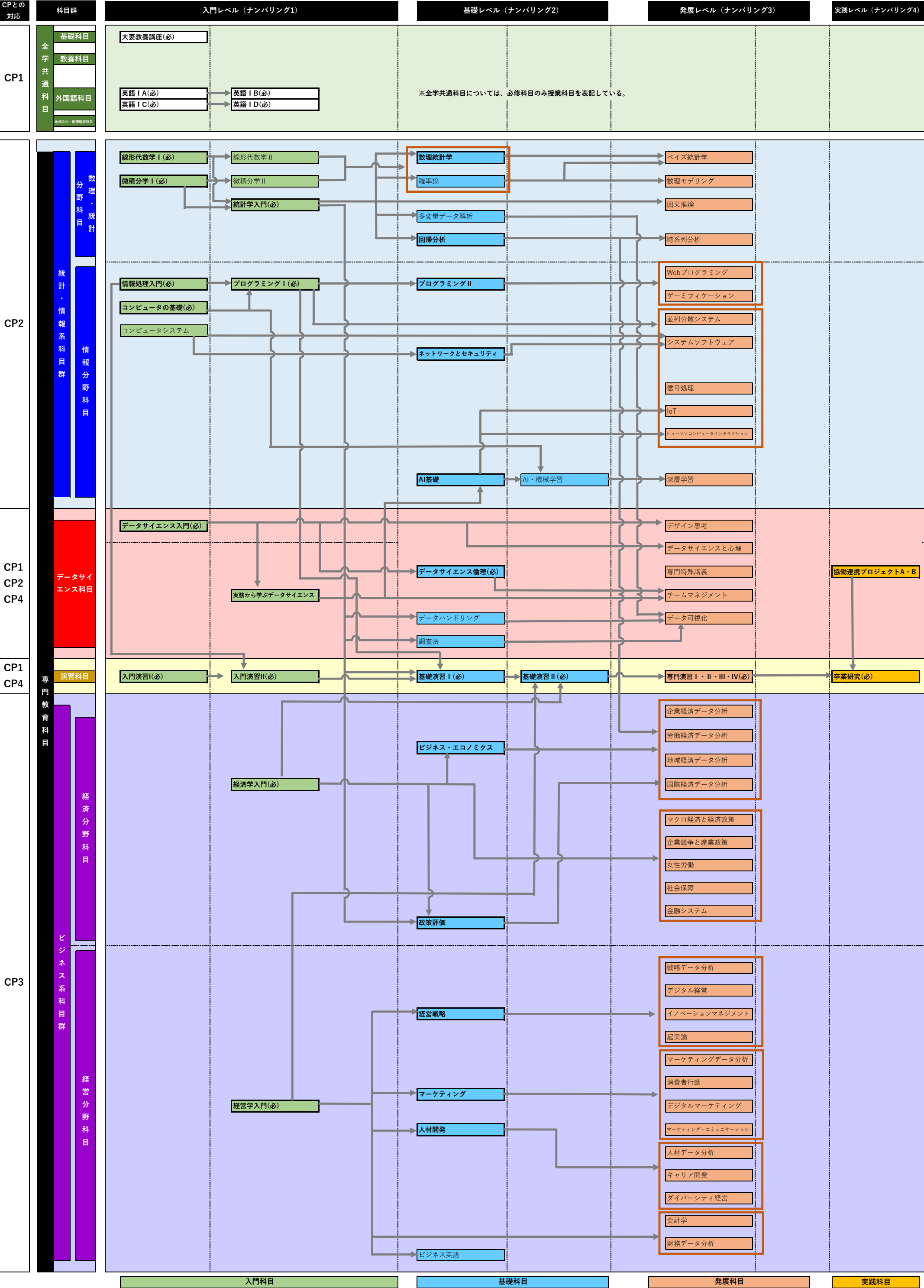
		CP1	CP2	CP3	CP4		
		データサイエンスの知識を社会や人間に関連付けて理解するため、幅広い知識と教養を修得できる全学共通科目を設置する。また、汎用的なコミュニケーションスキルを向上させるため、英語科目を設置する。 1年次には、少人数クラスの「入門演習」により、調査・考察の仕方、資料の扱い方、論文・レポートの書き方、口頭発表の手法など、大学の学びの基礎を身に付ける。また、情報化が進む中で求められる倫理やデータリテラシーに関する理解を深める科目や、データ収集・整理し批判的かつ適切に読み取る力を養う科目を設置する。	データサイエンスを学ぶために必要とされる基礎的な知識を身に付けるために、「数学」「統計」「情報」の入門・基礎科目を設置する。「数学」や「統計学」「情報学」の入門科目、基礎科目や、高校までの学習に応じりメカニカル科目も用意し、データサイエンスに対する興味、関心を育て、データサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を修得するため、プログラミングの基礎や、ビジネス分野での応用を念頭に置いて統計学の専門科目を設置する。	ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を修得するためビジネス系科目群に入門・基礎科目を設置する。また、実データを理解し活用するための学びとしてデータ分析に関する科目も設置し、実社会が抱える課題を発見・解決する力を養う。 さらに、入門・基礎科目で培った知識や手法等を活用し、実社会においてデータを活用して課題の解決を図る能力を身に付ける学びとして、ビジネス系科目群に発展科目を設置する。	主体性を持って新たな課題を見だし、データを収集・整理・分析・活用して問題を解決していく能力を育成するため、1年次から4年次まで切れ目なく少人数クラスでグループワーク形式により実践的に学ぶ演習科目を設置し、4年次には4年間の学びの集大成である「卒業研究」を必修科目として設置する。 また、実務家を招くなどして現場においてデータサイエンスがどのように活用されているかを知る科目を設置する。		
【AP1-1】 高等学校における学習を通じて、「英語」、「数学」、「情報」、「国語」を含む幅広い科目の基礎的学力をバランスよく身に付けている人。		◇ 高校卒業時の基礎学力をベースに社会と人間に関する幅広い知識を得る 更に、データを収集・整理し批判的かつ適切に読み取る力を養う 【全学共通科目】 ○大要教養講座など 【外国語科目】 ○英語1A ○英語1B ○英語1C ○英語1D 【データサイエンス科目】 ○データサイエンス入門 【演習科目】 ○入門演習Ⅰ ○入門演習Ⅱ			◇ 学生間、教員、企業等とのディスカッションやコミュニケーションを通じて「社会が抱える課題を見出す能力」を醸成する 【演習科目】 ○入門演習Ⅰ ○入門演習Ⅱ ○基礎演習Ⅰ ○基礎演習Ⅱ 【データサイエンス科目】 ○実務から学ぶデータサイエンス	【DP1】 社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得して、社会が抱える課題を見出す能力を備えている。	
【AP1-1】 高等学校における学習を通じて、「英語」、「数学」、「情報」、「国語」を含む幅広い科目の基礎的学力をバランスよく身に付けている人。	【AP1-2】 データサイエンスを学ぶ上で必要な「数学」などの科目の基礎的な知識を有する人。		◇ 「数学」「統計」「情報」それぞれの学びを通じ、データサイエンスに対する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を修得する 【数値・統計分野科目】 ○線形代数学Ⅰ ○微積分Ⅰ ○統計学入門 ○数理統計学Ⅰ ○数理統計学Ⅱ ○線形代数学Ⅱ ○微積分Ⅱ 因果推論 時系列分析 多変量データ解析 確率論 ベイズ統計学 数値モデリング 【情報分野科目】 ○情報処理入門 ○コンピュータの基礎 ○プログラミングⅠ ○プログラミングⅡ ○ネットワークとセキュリティ ○AI基礎 ○データベース ○コンピュータシステム AI・機械学習 Webプログラミング 深層学習 システムソフトウェア ヒューマンコンピュータインタラクション 信号処理 並列分散システム IoT ゲーミフィケーション 【リメディアル科目】 基礎数学				【DP2】 数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を備えている。
【AP1-1】 高等学校における学習を通じて、「英語」、「数学」、「情報」、「国語」を含む幅広い科目の基礎的学力をバランスよく身に付けている人。	【AP2】 データサイエンスと経済・経営に関する知識に基づいて、物事を論理的かつ多面的に考え、データを分析して課題の解決策を提案する力を身に付けている人。		◇ ビジネスへの応用にもつながる統計・情報系科目の学習によりデータの収集・整理・分析する能力を養成する 【数値・統計分野科目】 ○統計学入門 ○因果推論 因果推論 時系列分析 多変量データ解析 ベイズ統計学 【情報分野科目】 ○情報処理入門 ○プログラミングⅠ ○AI基礎 AI・機械学習 深層学習 ヒューマンコンピュータインタラクション IoT 【経済分野科目】 ○経済学入門 ○ビジネス・エコノミクス ○政策評価 マクロ経済と経済政策 企業競争と産業政策 女性労働 社会保障 金融システム 【経営分野科目】 ○経営学入門 ○経営戦略 ○マーケティング ○人材開発 イノベーションマネジメント デジタル経営 起業論 消費者行動 マーケティング・コミュニケーション デジタルマーケティング キャリア開発 ダイバーシティ経営 会計学 ビジネス英語 ・データ分析に関する科目 企業経済データ分析 労働経済データ分析 地域経済データ分析 国際経済データ分析 ・データ分析に関する科目 戦略データ分析 マーケティングデータ分析 人材データ分析 財務データ分析			【DP3】 ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を有し、データの収集・整理・分析・活用した結び付けて修得している。	
			CP2とCP3に関する学びが統合し、ビジネスに関する基礎的な専門知識とデータの収集・整理・分析・活用が結びついて修得される				
【AP1-1】 高等学校における学習を通じて、「英語」、「数学」、「情報」、「国語」を含む幅広い科目の基礎的学力をバランスよく身に付けている人。	【AP3】 社会の抱える課題に関心をもち、他者と協働し、データを活用してビジネスに貢献したいという意欲を持つ人。	◇ 高校卒業時の基礎学力をベースに社会が抱える課題への関心を高める 更に、データを収集・整理し批判的かつ適切に読み取る力を養う 【データサイエンス科目】 ○データサイエンス入門 ○データサイエンス倫理 【演習科目】 ○入門演習Ⅰ ○入門演習Ⅱ	◇ 統計・情報系科目の学習により実データの分析能力に高める 【数値・統計分野科目】 多変量データ解析 因果推論 時系列分析 ベイズ統計学 数値モデリング 【情報分野科目】 AI・機械学習 Webプログラミング 深層学習 システムソフトウェア ヒューマンコンピュータインタラクション 信号処理 並列分散システム IoT ゲーミフィケーション 【データサイエンス科目】 データサイエンスと心理 デザインの思考 データ可視化 データドリフト 調査法 チームマネジメント 専門特許講義	◇ ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を踏まえ、「データ分析に関する科目」「発展科目」で実社会においてデータを活用して課題の解決を図る能力を身に付ける 【経済分野科目】 マクロ経済と経済政策 企業競争と産業政策 女性労働 社会保障 金融システム 【経営分野科目】 イノベーションマネジメント デジタル経営 起業論 消費者行動 マーケティング・コミュニケーション デジタルマーケティング キャリア開発 ダイバーシティ経営 会計学 ・データ分析に関する科目 戦略データ分析 マーケティングデータ分析 人材データ分析 財務データ分析	◇ 少人数クラスでグループワーク形式により実践的に学ぶ演習科目や現場においてデータサイエンスがどのように活用されているかを知る科目を設置することにより、プロジェクトに貢献する能力、リーダーシップを発揮しながら、課題を発見し解決していく能力を養成 【データサイエンス科目】 ○協働連携プロジェクトA ○協働連携プロジェクトB 【演習科目】 ○基礎演習Ⅰ ○基礎演習Ⅱ ○専門演習Ⅰ ○専門演習Ⅱ ○専門演習Ⅲ ○専門演習Ⅳ ○卒業研究	【DP4】 ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的な応用能力を結び付けて、データを収集・整理・分析・活用するプロジェクトに貢献できる能力を備えている。また、多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力を備えている。	
CP1～CP4に関する学びを統合し、ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的な応用能力を結び付け、多様な人々と協働することによってビジネス現場の課題を発見・解決し、プロジェクトに貢献できるレベルまで発展させる							

学修成果を点検・評価し、改善を行うために以下の通り評価の方針（CP5）を定めた

CP5：学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価の方法（筆記試験、レポート、小テスト等）を用いて評価する。さらに、GPAによる成績分析や授業改善のためのアンケート、学修成果に関するアンケート、各種入学選抜の評価、卒業時アンケート、進路統計等の結果を用いて、学修成果や教育課程の評価を継続的に行う。

○は必修、△は選択必修科目を示している。

・赤字は主要授業科目である。



データサイエンス学部 履修モデル (A) データサイエンティスト、アナリスト											
科目群		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	基礎科目	大妻教養講座(必)	データサイエンス・AI概論(選択)	大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ(選択)	リーダーシップ開発(選択)					30単位 必修 5 選択必修 12 選択 13	
		キャリアデザインⅠ(選択)	キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ(選択)			キャリアデザインⅢ(選択)					
	教養科目			数学の世界(選択)	世界の歴史と文化(選択)	メディアと現代社会(選択)	映像・演劇の世界(選択)	生活の物理(選択)	人類の進化(選択)		
	外国語科目	英語ⅠA(必)	英語ⅠB(必)								
	英語ⅠC(必)	英語ⅠD(必)	韓国語Ⅰ(選択)or中国語Ⅰ(選択)	韓国語Ⅱ(選択) or中国語Ⅱ(選択)							
地域文化・国際理解科目											
専門教育科目	統計・情報系科目群	数理・統計分野科目	線形代数学Ⅰ(必)								94単位 必修 40 選択必修 10 選択 44
			微積分学Ⅰ(必)		確率論		多変量データ解析	数理モデリング	ベイズ統計学		
		情報分野科目		統計学入門(必)	回帰分析	数理統計学					
			情報処理入門(必)	プログラミングⅠ(必)	プログラミングⅡ		webプログラミング				
	ビジネス系科目群	経済分野科目	コンピュータの基礎(必)	コンピュータシステム	AI基礎	AI・機械学習	深層学習	並列分散システム			
					ネットワークとセキュリティ		システムソフトウェア	IoT			
								ゲーミフィケーション			
	データサイエンス科目		経済学入門(必)	ビジネス・エコノミクス		企業経済データ分析					
				政策評価							
		経営分野科目	経営学入門(必)	マーケティング	マーケティングデータ分析						
演習科目		データサイエンス入門(必)		データサイエンス倫理(必)							
			実務から学ぶデータサイエンス		データ可視化		協働連携プロジェクトB				
			データハンドリング		デザイン思考						
		入門演習Ⅰ(必)	入門演習Ⅱ(必)	基礎演習Ⅰ(必)	基礎演習Ⅱ(必)	専門演習Ⅰ(必)	専門演習Ⅱ(必)	専門演習Ⅲ(必)	専門演習Ⅳ(必)		
									卒業研究(必)		
		37単位		43単位		30単位		14単位		124単位	

データサイエンス学部 全学共通科目

区分		授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位	卒業必要単位数				備考
							データサイエンス学科				
							必修	選択必修	選択	自由	
基礎科目	キャンパス女性とライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	■ 1	■ 2			
		大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ	2	半期	講義	1					
		キャンパスライフとメンタルヘルス	1・2・3・4	半期	講義	2					
		女性と健康	1・2・3・4	半期	講義	2					
		ジェンダーと社会生活	1・2・3・4	半期	講義	2					
		女性史	1・2・3・4	半期	講義	2					
		リーダーシップ開発	2・3・4	半期	演習	2					
	リテラシー	日本語A(文章表現)	1	半期	講義	2					データサイエンス学部は開講せず
		日本語B(口頭表現)	1・2	半期	講義	2					
		日本語C(読解)	1	半期	講義	2					
		コンピュータ基礎A	1	半期	演習	2					
		コンピュータ基礎B	1	半期	演習	2					
		コンピュータ応用	1・2・3・4	半期	演習	2					
		データサイエンス・AI概論	1	半期	講義	2					
	キャリア	キャリアデザインⅠ	1・2	半期	講義	2		■ 2			
		キャリアデザインⅡ	2・3	半期	講義	2					
		キャリアデザインⅢ	3・4	半期	講義	2					
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ	1・2・3・4	半期	演習	2					
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅡ	2・3・4	半期	演習	2					
教養科目	人間と文化	文学の世界	1・2・3・4	半期	講義	2		■			
		音楽の世界	1・2・3・4	半期	講義	2					
		美術の世界	1・2・3・4	半期	講義	2					
		映像・演劇の世界	1・2・3・4	半期	講義	2					
		考古学の世界	1・2・3・4	半期	講義	2					
		ポピュラー・カルチャーの世界	1・2・3・4	半期	講義	2					
		地域と文化	1・2・3・4	半期	講義	2					
		言語と文化	1・2・3・4	半期	講義	2					
		日本の歴史と文化	1・2・3・4	半期	講義	2					
		世界の歴史と文化	1・2・3・4	半期	講義	2					
		哲学と思想	1・2・3・4	半期	講義	2					
		日本文化・事情	1・2・3・4	半期	講義	2					
	社会と生活	子どもの世界	1・2・3・4	半期	講義	2		8	13		
		人間の成長と心理	1・2・3・4	半期	講義	2					
		日本国憲法	1・2・3・4	半期	講義	2					
		法律と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2					
		政治と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2					
		経済と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2					
		メディアと現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2					
		家族と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2					
		福祉と現代社会(ボランティアを含む)	1・2・3・4	半期	講義	2					
		SDGsと現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2					
	自然と科学	数学の世界	1・2・3・4	半期	講義	2		■			
		生活の物理	1・2・3・4	半期	講義	2					
		生活の化学	1・2・3・4	半期	講義	2					
		科学と環境	1・2・3・4	半期	講義	2					
		生命の科学	1・2・3・4	半期	講義	2					
		宇宙の科学	1・2・3・4	半期	講義	2					
		人類の進化	1・2・3・4	半期	講義	2					
		自然科学の歴史	1・2・3・4	半期	講義	2					
	スポーツ	スポーツA	1・2・3・4	半期	実技	1		■			
		スポーツB	1・2・3・4	半期	実技	1					
		スポーツC	1・2・3・4	半期	実技	1					
		スポーツD	1・2・3・4	半期	実技	1					
		シーズン・スポーツ	1・2・3・4	半期	実技	1					
		スポーツと健康	1・2・3・4	半期	講義	2					
		レクリエーション論	1・2・3・4	半期	講義	2					
		レクリエーション実技	1・2・3・4	半期	実技	1					
		教養特殊講義	教養特殊講義	1・2・3・4	半期	講義					

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位	卒業必要単位数				備考
						データサイエンス学科				
						必修	選択必修	選択	自由	
外国語科目	英語ⅠA	1	半期	演習	1	4				
	英語ⅠB	1	半期	演習	1					
	英語ⅠC	1	半期	演習	1					
	英語ⅠD	1	半期	演習	1					
	英語ⅡA	2	半期	演習	1					
	英語ⅡB	2	半期	演習	1					
	英語ⅡC	2	半期	演習	1					
	英語ⅡD	2	半期	演習	1					
	英語ⅢA	2	半期	演習	1					
	英語ⅢB	2	半期	演習	1					
	フランス語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					
	フランス語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	フランス語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	フランス語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	ドイツ語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					
	ドイツ語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	ドイツ語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	ドイツ語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	スペイン語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					
	スペイン語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	スペイン語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	スペイン語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	ロシア語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					
	ロシア語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	ロシア語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	ロシア語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	中国語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					
	中国語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	中国語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	中国語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	韓国語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					
	韓国語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	韓国語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	韓国語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	日本語Ⅰ	1・2	半期	演習	1					外国人 留学生 対象
	日本語Ⅱ	1・2	半期	演習	1					
	日本語Ⅲ	2・3	半期	演習	1					
	日本語Ⅳ	2・3	半期	演習	1					
	外国語特殊演習	1・2・3・4	半期	演習	1又は2					単位互換科目
国際理解科目・地域文化	地域文化理解Ⅰ	1・2・3・4	半期	演習	2					
	地域文化理解Ⅱ	1・2・3・4	半期	演習	2					
	地域文化理解Ⅲ	1・2・3・4	半期	演習	2					
	国際理解(海外研修)Ⅰ	1・2・3・4	半期	演習	2					
	国際理解(海外研修)Ⅱ	1・2・3・4	半期	演習	2					
	国際理解(海外研修)Ⅲ	1・2・3・4	半期	演習	2					
	国際理解(海外研修)Ⅳ	1・2・3・4	半期	演習	1					
	国際理解(海外研修)Ⅴ	1・2・3・4	半期	演習	1					
最低履修単位数						5	12	13	0	
						30(必修5、その他25)				

1.（書類の題名）

大妻女子大学（短期大学部を含む。）の教育職員に係わる任用期限に関する内規（【資料10】）

2.（その他の説明）

「大妻女子大学（短期大学部を含む。）の教育職員に係わる任用期限に関する内規」の全文を添付した。

【資料10（別添資料）】

1.（書類の題名）

学校法人大妻学院就業規則（【資料10（別添資料）】）

2.（その他の説明）

「学校法人大妻学院就業規則」の全文を添付した。

大妻女子大学 千代田キャンパス 教室使用予定一覧（完成年度）＜前期＞

【資料12】

※データサイエンス学部は前掲時間割表を前提とし、他学部は令和6年度使用予定教室に基づく。

○：使用教室 黄色：データサイエンス学部使用教室

教室形態	教室番号	定員	試験定員	前後	座席数	月1	月2	月3	月4	月5	月6	火1	火2	火3	火4	火5	火6	水1	水2	水3	水4	水5	水6	木1	木2	木3	木4	木5	木6	金1	金2	金3	金4	金5	金6	土1	土2	土3	土4
講義室	CA150	200	159	前期	315	○	○	●					○	○	●			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○							
講義室	CA155	142	112	前期	168	○	●					○	○	○				○	●	●	○	●		○	●	○				○	○								
講義室	CA157	112	88	前期	132	○	●	○	○			○	○	○	○				○	○	○			○	●	○	○			○	○	○							
講義室	CA164	114	90	前期	135	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○				○	○	○			○	○	○	
講義室	CA166	90	71	前期	107	○		○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	
講義室	CA250	68	48	前期	80	●	○	○	○		○	○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○			○	○	○		
講義室	CA252	127	90	前期	150	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○				○	○	○					○	
講義室	CA254	127	90	前期	150	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA257	127	90	前期	150	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○				○	○							
講義室	CA264	114	90	前期	135	○	○	○				○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○			○						
講義室	CA266	90	71	前期	107	○	○	○				○	○	○				○	○	●				○	○	○	○				○								
ゼミ室	CA353	22	0	前期	22	○									○			○	○	○	○			○	○	○	○				○	○							
ゼミ室	CA354	12	0	前期	12																				○	○													
ゼミ室	CA355	22	0	前期	22		○	○	○	○		○		○	○						○	○	○			○	○				○	○	○	○					
ゼミ室	CA356	22	0	前期	22			○												○	○	○			○	○					○	○	○						
ゼミ室	CA357	42	0	前期	42		○		○				○						○	○	○				○	○	○				○	○							
講義室	CA450	61	48	前期	72		○	○	○	○		○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○					○	○	○					
講義室	CA452	61	48	前期	72	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○	○	○						
講義室	CA453	76	60	前期	90		○	○	○		○		○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA455	91	72	前期	108		○	○	○	○			○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA457	91	72	前期	108	○	○						○	○	○									○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA464	114	90	前期	135	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○				○								
講義室	CA466	90	71	前期	107	○		○	○	○		○	○	○				○	○	○				○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA550	61	48	前期	72	○	○	○	○				○					○	○	○				○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA552	61	48	前期	72		○	○	○	○			○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA553	91	72	前期	108	○	○	○	○				○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○								
講義室	CA555	91	72	前期	108	○	○	○					○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○				○				
講義室	CA557	91	72	前期	108	○	○	○				○	○	○				○	○	○				○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA564	61	48	前期	72	○	○	○	○	○			○	○	○			○	○	○				○	○	○	○					○	○						○
講義室	CA565	61	48	前期	72	○	○					○	○	○					○	○	○			○	○	○	○					○	○						
講義室	CA567	60	47	前期	71		○	○	○			○	○	○					○	○	○			○	○	○	○				○	○	○						
講義室	CA650	61	48	前期	72	○	○	○	○				○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○					○	○						
講義室	CA652	61	48	前期	72	○	○	○					○	○	○			○	○	○				○	○	○	○					○							
講義室	CA653	91	72	前期	108	○	○	○					○	○	○		○	○	○	○				○	○	○	○				○	○							
講義室	CA655	91	72	前期	108	○	○						○	○	○			○	○	○				○	○	○	○					○							
講義室	CA657	91	72	前期	108	○							○	○	○				○	○	○				○	○	○					○							
講義室	CA664	61	48	前期	72	○	○	○					○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○	○							
講義室	CA665	61	48	前期	72	○	○					○	○	○				○	○	○				○	○	○	○				○	○							
講義室	CA667	60	47	前期	71		○						○	○	○				○	○	○			○	○	○	○					○	○	○					
情報処理室	CB232	61	0	前期	68	○	○						○	○		○	○			○	○			○						○		○	○	○					
情報処理室(ライフ・被服)	CB235	28	0	前期	32			○	○			○	○	○										○	○	○	○					○	○						
講義室(アクティブラーニング室)	CB242	57	0	前期	68	○	○						○						○	○	○																		
CALL教室	CC271	54	0	前期	64	○	○	○					○					○	○					○	○	○					○	○	○						
ゼミ室	CC281	24	0	前期	24															○					○	○	○					○							
ゼミ室	CC282	20	0	前期	20																				○	○	○					○							
情報処理室	CC370	54	0	前期	60	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○					○	○					○	
情報処理室	CC373	54	0	前期	60							○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○				○	○							
ゼミ室	CC381	24	0	前期	24																			○	○	○	○					○	○						
ゼミ室	CC382	24	0	前期	24												○							○	○	○	○					○	○						
ゼミ室(スタジオ)	CD518	30	0	前期	36			○	○										○	○	○					○	○												
講義室	CE055	200	100	前期	339	○		○	○	○			○	○	○				○	○	○			○	○	○	○				○	○	○					○	
ゼミ室	CE263	24	0	前期	24		○	○		○				○										○	○	○	○					○							
情報処理室	CE352	54	0	前期	60	○	○					○	○	○	○				○	○	○			○	○	○	○												
情報処理室	CE354	54	0	前期	60	○	○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○					○	○	○					
CALL・メディア制作	CE356	34	0	前期	40													○	○	○				○	○	○					○	○							
CALL教室(大英優先)	CE358	30	0	前期	36							○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○				○	○							
ゼミ室																																							

大妻女子大学 千代田キャンパス 教室使用予定一覧（完成年度）＜後期＞

※データサイエンス学部は前掲時間割表を前提とし、他学部は令和6年度使用予定教室に基づく。 ○：使用教室 黄色：データサイエンス学部使用教室

教室形態	教室番号	定員	試験定員	前後	座席数	月1	月2	月3	月4	月5	月6	火1	火2	火3	火4	火5	火6	水1	水2	水3	水4	水5	水6	木1	木2	木3	木4	木5	木6	金1	金2	金3	金4	金5	金6	土1	土2	土3	土4	
講義室	CA150	200	159	後期	315	○	○	○					○					○	○	○		○		○	○	○	○			○										
講義室	CA155	142	112	後期	168	○	○					○	○	○				○	○					○	○	○	○				○	○								
講義室	CA157	112	88	後期	132	○	○	○	○			○	○	○	○			○		○					○		○			○	○	○								
講義室	CA164	114	90	後期	135		○	○		○		○	○					○	○	○				○	○	○			○			○					○	○		
講義室	CA166	90	71	後期	107		○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○	○	○		○			○					○	○		
講義室	CA250	68	48	後期	80	○	○	○				○	○	○				○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○			○	○		
講義室	CA252	127	90	後期	150	○	○		○			○	○	○				○		○				○	○	○	○		○	○	○	○								
講義室	CA254	127	90	後期	150		○					○	○	○	○			○		○				○	○	○	○			○	○									
講義室	CA257	127	90	後期	150		○		○			○	○	○					○		○				○	○	○			○	○									
講義室	CA264	114	90	後期	135				○			○	○						○		○				○	○	○			○										
講義室	CA266	90	71	後期	107	○	○	○				○	○	○	○			○		○				○	○	○				○										
ゼミ室	CA353	22	0	後期	22	○		○				○			○			○		○				○	○	○				○										
ゼミ室	CA354	12	0	後期	12															○					○	○														
ゼミ室	CA355	22	0	後期	22				○	○				○	○						○	○			○					○	○			○						
ゼミ室	CA356	22	0	後期	22			○	○											○	○					○				○	○									
ゼミ室	CA357	42	0	後期	42		○	○				○	○					○	○	○					○	○				○										
講義室	CA450	61	48	後期	72		○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○	○			○	○	○	○								
講義室	CA452	61	48	後期	72	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○								
講義室	CA453	76	60	後期	90		○	○		○		○	○	○	○			○	○	○	○	○		○	○	○			○			○								
講義室	CA455	91	72	後期	108		○	○	○			○	○	○					○						○	○	○		○			○	○							
講義室	CA457	91	72	後期	108	○	○	○	○			○	○	○					○						○	○				○	○	○								
講義室	CA464	114	90	後期	135		○	○				○	○	○					○						○	○	○				○	○	○							
講義室	CA466	90	71	後期	107	○	○	○	○	○		○	○	○				○	○	○					○	○	○			○										
講義室	CA550	61	48	後期	72		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○		○	○	○			○	○		○								
講義室	CA552	61	48	後期	72	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○	○			○	○		○								
講義室	CA553	91	72	後期	108	○		○					○						○	○		○			○	○				○			○							
講義室	CA555	91	72	後期	108	○	○					○	○	○					○	○	○				○	○														
講義室	CA557	91	72	後期	108	○	○					○	○	○					○	○	○				○	○				○	○									
講義室	CA564	61	48	後期	72	○	○		○	○		○	○					○	○	○				○	○	○				○										
講義室	CA565	61	48	後期	72	○		○				○	○	○	○			○		○				○	○				○											
講義室	CA567	60	47	後期	71	○	○	○	○			○	○	○					○	○	○				○	○	○	○		○	○									
講義室	CA650	61	48	後期	72	○	○					○	○	○				○	○	○				○	○	○				○							○	○		
講義室	CA652	61	48	後期	72	○	○					○	○	○				○	○	○				○	○				○	○	○	○						○	○	
講義室	CA653	91	72	後期	108	○	○	○				○	○	○					○	○	○	○			○	○	○			○	○	○								
講義室	CA655	91	72	後期	108	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○	○			○			○								
講義室	CA657	91	72	後期	108	○	○					○	○	○					○	○				○	○	○														
講義室	CA664	61	48	後期	72	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○	○	○			○								○		
講義室	CA665	61	48	後期	72	○	○					○	○	○					○	○					○	○	○			○	○									
講義室	CA667	60	47	後期	71	○						○	○	○					○	○				○	○	○						○	○							
情報処理室	CB232	61	0	後期	68	○	○					○								○				○			○			○										
情報処理室(ライフ・被服)	CB235	28	0	後期	32			○	○			○												○	○	○														
講義室(アクティブラーニング室)	CB242	57	0	後期	68								○											○	○	○														
CALL教室	CC271	54	0	後期	64		○											○	○	○	○				○	○														
ゼミ室	CC281	24	0	後期	24			○	○																○	○				○										
ゼミ室	CC282	20	0	後期	20			○	○																○	○				○										
情報処理室	CC370	54	0	後期	60	○	○	○	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○						○			
情報処理室	CC373	54	0	後期	60			○	○			○	○					○	○					○	○	○														
ゼミ室	CC381	24	0	後期	24			○													○	○			○	○				○										
ゼミ室	CC382	24	0	後期	24											○								○	○					○										
ゼミ室(スタジオ)	CD518	30	0	後期	36			○	○										○	○	○				○	○														
講義室	CE055	200	100	後期	339	○	○	○				○	○	○										○	○	○			○											
ゼミ室	CE263	24	0	後期	24		○	○					○												○					○										
情報処理室	CE352	54	0	後期	60	○		○				○	○	○				○	○	○	○			○	○	○			○	○	○									
情報処理室	CE354	54	0	後期	60		○	○	○			○							○	○	○	○		○	○	○														
CALL・メディア制作	CE356	34	0	後期	40		○	○					○					○	○	○	○			○	○	○			○	○	○									
CALL教室(大英優先)	CE358	30	0	後期	36							○	○	○						○	○				○	○														
ゼミ室	CE362	24	0	後期	24		○	○	○				○	○											○					○										
ゼミ室	CE363	24	0	後期	24																																			

調達予定図書リスト

内国書				
	ISBN	書名	版	出版社
1	9784130561167	基礎情報学のフロンティア：人工知能は自分の世界を生きられるか？		東京大学出版会
2	9784130624572	情報：東京大学教養学部テキスト	第2版	東京大学出版会
3	9784297101084	データサイエンティスト養成読本 ビジネス活用編		技術評論社
4	9784535788756	新・情報学入門：ビッグデータ時代に必須の技法		日本評論社
5	9784621305034	教養のコンピュータサイエンス情報科学入門	第3版	丸善出版
6	9784774183602	データサイエンティスト養成読本：プロになるためのデータ分析力が身につく！	改訂2版	技術評論社
7	9784000077965	人工知能：チューリング／ブルックス／ヒントン		岩波書店
8	9784061538283	これならわかる深層学習入門		講談社
9	9784061538320	ベイズ推論による機械学習入門		講談社
10	9784062586757	A I 原論：神の支配と人間の自由		講談社
11	9784065133323	深層学習	改訂第2版	講談社
12	9784065155912	強化学習		講談社
13	9784065172513	P y t h o n で学ぶ強化学習：入門から実践まで	改訂第2版	講談社
14	9784065188040	テキスト・画像・音声データ分析		講談社
15	9784065274101	P y t h o n ではじめるテキストアナリティクス入門		講談社
16	9784121506672	A I 倫理：人工知能は「責任」をとれるのか		中央公論新社
17	9784140817711	超A I 入門：ディープラーニングはどこまで進化するのか		N H K 出版
18	9784254122183	機械学習：データを読み解くアルゴリズムの技法		朝倉書店
19	9784274219986	機械学習入門：ボルツマン機械学習から深層学習まで		オーム社
20	9784274220647	人工知能の創発：知能の進化とシミュレーション		オーム社
21	9784274223259	情報理論	改訂2版	オーム社
22	9784274224201	情報理論の基礎	第2版	オーム社
23	9784274224461	深層学習とメタヒューリスティクス：ディープ・ニューラルエボリューション		オーム社
24	9784274225321	人間知能と人工知能：あるA I 研究者の知能論		オーム社
25	9784296102846	A I の教科書：ビジネスの構築から最新技術までを網羅		日経B P (発売：日経B P マーケティング)
26	9784296106943	S c r a t c h でA I を学ぼう：ゲームプログラミングで強化学習を体験		日経B P (発売：日経B P マーケティング)
27	9784296106967	P y t h o n で儲かるA I をつくる		日経B P (発売：日経B P マーケティング)
28	9784297101435	60分でわかる！ディープラーニング最前線		技術評論社
29	9784297105167	E x c e l でわかるディープラーニング超入門【R N N ・ D Q N 編】		技術評論社
30	9784297112677	知識ゼロからの機械学習入門		技術評論社
31	9784297116514	60分でわかる！A I ビジネス最前線	改訂2版	技術評論社
32	9784320124592	不確定性下の意思決定		共立出版
33	9784320124769	仮説のつくりかた：多様なデータから新たな発想をつかめ		共立出版
34	9784326102808	人工知能と人間・社会		勁草書房

35	9784326154777	情報の哲学のために：データから情報倫理まで		勁草書房
36	9784339012170	情報理論	改訂版	コロナ社
37	9784422400341	ディープラーニング		創元社
38	9784478100905	人工知能：機械といかに向き合うか		ダイヤモンド社
39	9784532358181	純粋機械化経済：頭脳資本主義と日本の没落		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
40	9784535559073	相対化する知性：人工知能が世界の見方をどう変えるのか		日本評論社
41	9784535788213	機械学習：新たな人工知能		日本評論社
42	9784623089659	ＡＩは社会を豊かにするのか：人工知能の経済学 2		ミネルヴァ書房
43	9784627885110	実践Rによるテキストマイニング：センチメント分析・単語分散表現・機械学習・Pythonラッパー		森北出版
44	9784759816808	ＡＩ社会の歩き方：人工知能とどう付き合うか		化学同人
45	9784777520589	TensorFlowを使った「ニューラル・ネットワーク」の構築法		工学社
46	9784797388084	データ分析のための機械学習入門：Pythonで動かし、理解できる、人工知能技術		ＳＢクリエイティブ
47	9784797393064	ＡＩが神になる日：シンギュラリティーが人類を救う		ＳＢクリエイティブ
48	9784798061863	Kaggleで学んでハイスコアをたたき出す！Python機械学習&データ分析		秀和システム
49	9784798158570	Pythonで動かして学ぶ！あたらしい深層学習の教科書：機械学習の基本から深層学習まで		翔泳社
50	9784799324622	人類の歴史とＡＩの未来		ディスカヴァー・トゥエンティワン
51	9784800711700	最新図解で早わかり人工知能がまるごとわかる本		ソーテック社
52	9784800712813	ＡＩ・データサイエンスのための図解でわかる数学プログラミング		ソーテック社
53	9784802511858	人工知能のための哲学塾 未来社会篇：響きあう社会、他者、自己		ビー・エヌ・エヌ新社
54	9784802612661	文系プログラマーだからこそ身につけたいディープラーニングの動きを理解するための数式入門		ソシム
55	9784839974985	Kaggle Grandmasterに学ぶ 機械学習実践アプローチ		マイナビ出版
56	9784861826528	サイバネティクス全史：人類は思考するマシンに何を夢見たのか		作品社
57	9784862464729	OpenAI Gym/Baselines 深層学習・強化学習人工知能プログラミング		ポーンデジタル
58	9784863542426	ＡＩは人間の仕事を奪うのか？：人工知能を理解する7つの問題		シーアンドアール研究所
59	9784873119472	仕事ではじめる機械学習	第2版	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
60	9784873119625	ＡＩの心理学：アルゴリズムックバイアスとの闘い方を通して学ぶビジネスパーソンとエンジニアのための機械学習入門		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
61	9784896412871	基礎から学ぶ情報理論	第2版	ムイスリ出版
62	9784904774854	ＡＩエンジニアのための統計学入門		科学情報出版
63	9784909870131	人間と人工知能：文明論的考察		内外出版
64	9784022737427	おそろしいビッグデータ：超類型化ＡＩ社会のリスク		朝日新聞出版
65	9784480864499	ビッグデータという独裁者：「便利」とひきかえに「自由」を奪う		筑摩書房
66	9784484221069	巨大テック企業無敵神話の嘘：GAFANetflix+Xの勝者と敗者		CCCメディアハウス
67	9784532358310	データ資本主義：21世紀ゴールドラッシュの勝者は誰か		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
68	9784532358419	データの世紀		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
69	9784595322129	ＡＩシステムと人・社会との関係		放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
70	9784621301128	情報システム		丸善出版
71	9784757123779	デジタルエコノミーの罠：なぜ不平等が生まれ、メディアは衰亡するのか		ＮＴＴ出版
72	9784761707354	「デジタル社会」とは何か		学習の友社
73	9784772695602	あなたを支配し、社会を破壊する、ＡＩ・ビッグデータの罠		インターシフト(発売：合同出版)

74	9784781914367	Webでつながる：ソーシャルメディアと社会／心理分析		サイエンス社
75	9784822255572	情報経済の鉄則：ネットワーク型経済を生き抜くための戦略ガイド		日経ＢＰ（発売：日経ＢＰマーケティング）
76	9784046022110	大学４年間のデータサイエンスが１０時間でざっと学べる		ＫＡＤＯＫＡＷＡ
77	9784046044341	大学４年間のデータサイエンスが１０時間でざっと学べる：図解		ＫＡＤＯＫＡＷＡ
78	9784065193105	データサイエンスのためのデータベース		講談社
79	9784065200896	絵でわかるサイバーセキュリティ		講談社
80	9784130621427	コンピューティング科学	新版	東京大学出版会
81	9784274221941	データサイエンスの基本がわかる本：これだけは知っておきたい		オーム社
82	9784274222900	データサイエンス教本：Pythonで学ぶ統計分析・パターン認識・深層学習		オーム社
83	9784274223730	データベースの基礎		オーム社
84	9784297116590	基本がわかるSQL入門：データベース&設計の基礎から楽しく学ぶ		技術評論社
85	9784297120221	RとPythonで学ぶ「実践的」データサイエンス&機械学習	増補改訂版	技術評論社
86	9784315522037	データサイエンス		ニュートンプレス
87	9784320060634	情報デザイン		共立出版
88	9784320114593	文理融合データサイエンス入門		共立出版
89	9784320124301	推薦システム：統計的機械学習の理論と実践		共立出版
90	9784339028836	意思決定を助ける情報可視化技術：ビッグデータ・機械学習・VR／ARへの応用		コロナ社
91	9784478039373	機械脳の時代：データサイエンスは戦略・組織・仕事をどう変えるのか		ダイヤモンド社
92	9784563016104	データサイエンス基礎		培風館
93	9784595318900	データ構造とプログラミング	改訂版	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）
94	9784595318917	コンピュータとソフトウェア		放送大学教育振興会（発売：NHK出版）
95	9784595322136	データの分析と知識発見	改訂版	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）
96	9784627848429	Rによるテキストマイニング入門	第2版	森北出版
97	9784627853515	情報可視化：データ分析・活用のためのしくみと考えかた		森北出版
98	9784750346335	OECDビッグデータ白書		明石書店
99	9784780607642	コンピュータサイエンス概説		学術図書出版社
100	9784780608618	データサイエンス概説		学術図書出版社
101	9784780609585	実践！データサイエンス	第2版	学術図書出版社
102	9784781913902	リレーショナルデータベース入門：データモデル・SQL・管理システム・NoSQL	第3版	サイエンス社
103	9784781915005	データベース入門	第2版	サイエンス社
104	9784798155142	SQLの絵本：データベースが好きになる新しい9つの扉	第2版	翔泳社
105	9784798167930	コンピュータアーキテクチャのエッセンス	第2版	翔泳社
106	9784807909957	Python, Rで学ぶデータサイエンス		東京化学同人
107	9784815604059	データ視覚化のデザイン		SBCクリエイティブ
108	9784819031035	情報セキュリティ概論	改訂版	日本工業出版
109	9784822288730	教養としてのコンピューターサイエンス講義：今こそ知っておくべき「デジタル世界」の基礎知識		日経ＢＰ（発売：日経ＢＰマーケティング）
110	9784839961268	ビッグデータ分析・活用のためのSQLレシピ		マイナビ出版
111	9784863341371	ゼロからはじめるITパスポートの教科書	改訂第7版	とりのい書房
112	9784863542709	データマイニングエンジニアの教科書		シーアンドアール研究所

113	9784901683999	アルゴリズムとデータ構造		数理工学社(発売：サイエンス社)
114	9784865941968	機械学習のための「前処理」入門		リックテレコム
115	9784873118147	Rではじめるデータサイエンス		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
116	9784873119663	推薦システム実践入門：仕事で使える導入ガイド		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
117	9784296112203	誰も教えてくれなかったアジャイル開発		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
118	9784339028188	マルチエージェントによる自律ソフトウェア設計・開発		コロナ社
119	9784764905528	アジャイル開発への道案内		近代科学社
120	9784839960230	基礎から学ぶチーム開発の成功法則：チームビルディング、コミュニケーション、ツール活用		マイナビ出版
121	9784065190067	PythonではじめるKaggleスタートブック		講談社
122	9784274219887	ソフトウェア工学		オーム社
123	9784295013785	できるゼロからはじめるエクセル超入門：Office 2021 & Microsoft 365 対応		インプレス
124	9784595141195	ソフトウェア工学		放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
125	9784595317392	コンピュータの動作と管理	改訂版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
126	9784627810129	オペレーティングシステム	第2版	森北出版
127	9784781913155	自然言語処理の基礎	新訂版	サイエンス社
128	9784798156668	Pythonで動かして学ぶ自然言語処理入門		翔泳社
129	9784254122572	Scratchで学ぶビジュアルプログラミング：教えられる大人になる		朝倉書店
130	9784274222382	進化計算アルゴリズム入門：生物の行動科学から導く最適解		オーム社
131	9784296000197	プログラムはなぜ動くのか：知っておきたいプログラミングの基礎知識	第3版	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
132	9784296102136	ビジネスPython超入門：プログラミング／機械学習／スクレイピング		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
133	9784297113476	プログラミング言語大全		技術評論社
134	9784315525489	基礎からわかるアルゴリズム		ニュートンプレス
135	9784320124745	データサイエンスのためのRプログラミングスキル		共立出版
136	9784339018233	データ構造とアルゴリズム		コロナ社
137	9784595322198	アルゴリズムとプログラミング	改訂版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
138	9784621301135	アルゴリズム		丸善出版
139	9784627726536	アルゴリズムとデータ構造	第3版	森北出版
140	9784764904064	アルゴリズムイントロダクション、第1巻	第3版	近代科学社
141	9784764904071	アルゴリズムイントロダクション、第2巻	第3版	近代科学社
142	9784764905160	Python言語によるビジネスアナリティクス：実務家のための最適化・統計解析・機械学習		近代科学社
143	9784764905184	Python言語によるプログラミングイントロダクション	第2版	近代科学社
144	9784771026513	アートを生み出すプログラミング		晃洋書房
145	9784774190402	かんたんVisual Basic	改訂2版	技術評論社
146	9784774191140	3ステップでしっかり学ぶVisual Basic入門	改訂2版	技術評論社
147	9784774191171	ゼロからわかるVisual Basic超入門：はじめてのプログラミング	改訂2版	技術評論社
148	9784774192178	3ステップでしっかり学ぶJavaScript入門	改訂2版	技術評論社
149	9784774199399	知識ゼロからのJavaScript入門		技術評論社
150	9784780607031	データ構造とアルゴリズム		学術図書出版社
151	9784797389463	みんなのPython	第4版	SBクリエイティブ

152	9784797395440	わかる P y t h o n 決定版		S B クリエイティブ
153	9784798048239	S Q L 辞典：7 大データベース対応	第 3 版	秀和システム
154	9784798057460	これからはじめる人のプログラミング言語の選び方		秀和システム
155	9784798059112	V i s u a l B a s i c 2 0 1 9 パーフェクトマスター		秀和システム
156	9784798163208	S c r a t c h の絵本：プログラミングを楽しくはじめる 9 つの扉		翔泳社
157	9784798163970	データ分析者のための P y t h o n データビジュアライゼーション入門：コードと連動してわかる可視化手法		翔泳社
158	9784798169361	スラスラわかる P y t h o n	第 2 版	翔泳社
159	9784800712561	P y t h o n でつくるゲーム開発入門講 座実践編		ソーテック社
160	9784807920266	P y t h o n で学ぶプログラミング入門		東京化学同人
161	9784864810852	データ構造とアルゴリズム	第 2 版	数理工学社(発売：サイエンス社)
162	9784873119229	ハンズオン J a v a S c r i p t		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
163	9784877834432	やさしい P y t h o n 入門	第 2 版	カットシステム
164	9784886477361	基礎から学ぶ J a v a ：基本文法からオブジェクト指向まで		エスシーシー
165	9784480016904	〈現実〉とは何か：数学・哲学から始まる世界像の転換		筑摩書房
166	9784788516229	応用行動分析学：ヒューマンサービスを改善する行動科学		新曜社
167	9784762829970	ベイズ統計で実践モデリング：認知モデルのトレーニング		北大路書房
168	9784762830761	神経経済学と意思決定：心理学、神経科学、行動経済学からの総合的展望		北大路書房
169	9784320114111	イベント・ヒストリー分析		共立出版
170	9784339028126	マルチエージェントのためのデータ解析		コロナ社
171	9784621305966	計算社会科学入門		丸善出版
172	9784910063041	シン・ニホン：A I × データ時代における日本の再生と人材育成		ニューズピックス
173	9784087208740	ビッグデータの支配とプライバシー危機		集英社
174	9784562054831	監視大国アメリカ		原書房
175	9784297113414	データ活用のための数理モデリング入門		技術評論社
176	9784866413297	E c x e l で学ぶデータ解析の基礎		東京図書出版（文京区）(発売：リフレ出版)
177	9784303724566	データサイエンティストの育て方		海文堂出版
178	9784434306549	イノベーションの構造：イノベーションを起こす研究者や技術者、新事業の企画	改訂版 1. 0	青山ライフ出版(発売：星雲社)
179	9784492762578	東大生も学ぶ「A I 経営」の教科書		東洋経済新報社
180	9784798062105	今日から使える！データサイエンスがよくわかる本		秀和システム
181	9784799109151	ビジネスデータサイエンスの教科書：ビジネスを構造的に理解、近未来の手がかりを洗い出す		すばる舎
182	9784829505601	戦略的技術経営入門：グローバルに考えると明日が見える		芙蓉書房出版
183	9784862807069	文系のためのデータサイエンスがわかる本		総合法令出版
184	9784254129120	データの前処理		朝倉書店
185	9784274222375	実戦データマイニング：A I による株と為替の予測		オーム社
186	9784419065133	統計学への招待：大学生・社会人に必要な知識		税務経理協会
187	9784502220111	ケースで身につく統計学	第 2 版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
188	9784532134822	歴史と統計学：人・時代・思想		日経 B P M （日本経済新聞出版本部）
189	9784805722695	公的統計情報－その利活用と展望		中央大学出版部
190	9784866935362	日本の公的統計・統計調査	第 2 版	三恵社(発売：J R C)

191	9784562057412	統計の歴史		原書房
192	9784863391093	人工知能の社会学：A I の時代における人間らしさを考える		ハーベスト社
193	9784320111219	行動科学の統計学：社会調査のデータ分析		共立出版
194	9784335551864	質的研究法		弘文堂
195	9784000298773	数学読本、1	新装版	岩波書店
196	9784000298780	数学読本、2	新装版	岩波書店
197	9784000298797	数学読本、3	新装版	岩波書店
198	9784000298803	数学読本、4	新装版	岩波書店
199	9784000298810	数学読本、5	新装版	岩波書店
200	9784000298827	数学読本、6	新装版	岩波書店
201	9784065146750	ライブ講義大学1年生のための数学入門		講談社
202	9784130629232	大学数学ことはじめ：新入生のために		東京大学出版会
203	9784130639040	数学原論		東京大学出版会
204	9784315523430	図解教養事典 数学		ニュートンプレス
205	9784320111424	数学的思考：人間の心と学び		共立出版
206	9784320114388	思考ツールとしての数学	第2版	共立出版
207	9784320114487	文科系のための応用数学入門		共立出版
208	9784320124646	コンピュータの数学	第2版	共立出版
209	9784791771004	宇沢弘文の数学		青土社
210	9784797395457	プログラマの数学	第2版	S B クリエイティブ
211	9784622087021	予測不可能性、あるいは計算の魔：あるいは、時の形象をめぐる瞑想		みすず書房
212	9784130633635	精霊の箱：チューリングマシンをめぐる冒険、上		東京大学出版会
213	9784130633642	精霊の箱：チューリングマシンをめぐる冒険、下		東京大学出版会
214	9784621302750	代数学		丸善出版
215	9784535798137	小数と対数の発見：日本評論社創業100年記念出版		日本評論社
216	9784000298728	線型代数入門	新装版	岩波書店
217	9784065169988	データサイエンスのための数学		講談社
218	9784410154621	大学教養線形代数		数研出版
219	9784410154638	大学教養線形代数		数研出版
220	9784410154898	大学教養線形代数の基礎		数研出版
221	9784410154904	チャート式シリーズ大学教養線形代数の基礎		数研出版
222	9784477033433	新微分積分Ⅰ	改訂版	大日本図書
223	9784489022869	大学1・2年生のためのすぐわかる線形代数		東京図書
224	9784535591974	線形代数		日本評論社
225	9784535788954	線形代数入門：計算で感わされない図形分野を通して学ぶ		日本評論社
226	9784535789678	文系学部のための線形代数と微分積分		日本評論社
227	9784595317446	線型代数学	新訂	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
228	9784595319624	入門線型代数	三訂版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
229	9784780605372	線形代数学講義	第2版	学術図書出版社

230	9784780609639	線形代数学	第2版	学術図書出版社
231	9784781913087	演習線形代数	新版	サイエンス社
232	9784781914145	新しく始める線形代数		サイエンス社
233	9784816371479	高校レベルからはじめる！やさしくわかる線形代数		ナツメ社
234	9784866152363	初めから学べると評判の大学基礎数学線形代数キャンパス・ゼミ	改訂1	マセマ
235	9784901092982	読むだけでわかる数学再入門 線形代数編		インデックス出版（日野）
236	9784903814148	大学1年生もバッチリ分かる線形代数入門		プレアデス出版
237	9784000292146	「数」を分析する		岩波書店
238	9784254111545	整数論基礎講義		朝倉書店
239	9784000298742	解析入門，上		岩波書店
240	9784000298759	解析入門，中		岩波書店
241	9784000298766	解析入門，下		岩波書店
242	9784595319006	解析入門	改訂新版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
243	9784065264393	新しい微積分，上	改訂第2版	講談社
244	9784065264409	新しい微積分，下	改訂第2版	講談社
245	9784315523119	文系のためのめっちゃやさしい微積分：東京大学の先生伝授		ニュートンプレス
246	9784320114708	例からまなぶ微分積分		共立出版
247	9784339061154	微積分学入門	改訂	コロナ社
248	9784407349429	新版微分積分1	改訂版	実教出版
249	9784407349443	新版微分積分2	改訂版	実教出版
250	9784410152290	大学教養微分積分		数研出版
251	9784410152306	大学教養微分積分		数研出版
252	9784410153587	大学教養微分積分の基礎		数研出版
253	9784489022852	大学1・2年生のためのすぐわかる微分積分		東京図書
254	9784780605266	微積分学		学術図書出版社
255	9784780609479	例題と演習で学ぶ微積分学	改訂版	学術図書出版社
256	9784864810685	多変数の微積分とベクトル解析		数理工学社(発売：サイエンス社)
257	9784489023330	大学1・2年生のためのすぐわかる微分方程式		東京図書
258	9784753600892	関数解析入門：線型作用素のスペクトル		内田老鶴圃
259	9784753601714	機械学習のための関数解析入門：ヒルベルト空間とカーネル法		内田老鶴圃
260	9784320114494	よくわかる！グラフ理論入門		共立出版
261	9784781913865	ヴィジュアルでやさしいグラフへの入門		サイエンス社
262	9784864810586	工学のためのグラフ理論：基礎から応用まで		数理工学社(発売：サイエンス社)
263	9784000298568	岩波データサイエンス，vol. 6		岩波書店
264	9784046020000	大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる		KADOKAWA
265	9784046041876	図解大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる		KADOKAWA
266	9784130629218	統計学		東京大学出版会
267	9784254128956	Pythonによる数理最適化入門		朝倉書店
268	9784274220128	挫折しない統計学入門：数学苦手意識を克服する		オーム社

269	9784274221736	データサイエンス入門：Excelで学ぶ統計データの 見方・使い方・集め方		オーム社
270	9784274222344	Pythonによる統計分析入門		オーム社
271	9784274227387	入門統計学：検定から多変量解析・実験計画法・ベイズ統計 学まで	第2版	オーム社
272	9784309248646	算数からはじめて一生使える確率・統計		河出書房新社
273	9784315524505	ベイズ統計：ベイズ統計のきほんが一緒にわかる入門書		ニュートンプレス
274	9784320113923	確率と統計：一から学ぶ数理統計学		共立出版
275	9784320114449	Pythonで理解を深める統計学		共立出版
276	9784422400334	ベイズ統計学		創元社
277	9784478100769	統計学が最強の学問である。ビジネス編		ダイヤモンド社
278	9784478104514	統計学が最強の学問である〔数学編〕：データ分析と機械学 習のための新しい教科書		ダイヤモンド社
279	9784535788183	現代統計学		日本評論社
280	9784785315672	経済・経営のための統計教室：データサイエンス入門		裳華房
281	9784802612494	データ分析のための数理モデル入門：本質をとらえた分析の ために		ソシム
282	9784815604745	楽しみながら学ぶベイズ統計		SBCクリエイティブ
283	9784817196842	目からウロコが多変量解析：データ分析の極意に迫る7つの 処方箋		日科技連出版社
284	9784320113152	Rで学ぶデータサイエンス 8	第2版	共立出版
285	9784563010171	スタンダード統計学基礎		培風館
286	9784817196224	目からウロコの統計学：データの溢れる世界を生き抜く15 の処方箋		日科技連出版社
287	9784000050159	Rによる時系列モデリング入門		岩波書店
288	9784000296717	サンプリングって何だろう：統計を使って全体を知る方法		岩波書店
289	9784320112551	時系列解析		共立出版
290	9784627818514	アルゴリズム理論の基礎		森北出版
291	9784873117799	デザインの伝え方：組織の合意を得るコミュニケーション術		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
292	9784326000494	未来技術の倫理：人工知能・ロボット・サイボーグ		勁草書房
293	9784764905894	デジタル・プラットフォーム解体新書：製造業のイノベー ションに向けて		近代科学社
294	9784000296823	予測の科学はどう変わる？：人工知能と地震・噴火・気象現 象		岩波書店
295	9784339028607	アクティブラーニングで学ぶ情報リテラシー		コロナ社
296	9784130638173	東大塾IoT講義		東京大学出版会
297	9784274219894	ネットワークセキュリティ		オーム社
298	9784627818118	パワー・オブ・ネットワーク：人々をつなぎ社会を動かす6 つの原則		森北出版
299	9784908327094	インターネットの基礎知識：IC3GS5リビングオンラ イン対応		オデッセイコミュニケーションズ(発売：JRC)
300	9784774195759	図解でわかるはじめてのデジタル画像処理：画像処理技術を 基礎から体系的に学べる	増補改訂版	技術評論社
301	9784274226151	コンピュータアーキテクチャ	改訂5版	オーム社
302	9784501556402	コンピュータとは何か？		東京電機大学出版局
303	9784501556501	コンピュータ工学の基礎		東京電機大学出版局
304	9784791771073	「人工知能」前夜：コンピュータと脳は似ているか		青土社
305	9784864810739	レクチャー・ヒューマンコンピュータインタラクション		数理工学社(発売：サイエンス社)
306	9784839965129	Excelでできるデータドリブン・マーケティング		マイナビ出版
307	9784762029868	マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分 析・解析法：多変量解析法と継続調査・時系列データの分析		学文社

308	9784762028250	データサイエンス／ＡＩ／ＩｏＴ時代におけるプロダクト・イノベーションの普及構造		学文社
309	9784759820676	アメリカン・ベースボール革命：データ・テクノロジーが野球の常識を変える		化学同人
310	9784798157771	最強囲碁ＡＩアルファ碁解体新書：深層学習、モンテカルロ木探索、強化学習から見たその仕組み	増補改訂版	翔泳社
311	9784320094635	信号、記号、そして言語へ：コミュニケーションが紡ぐ意味の体系		共立出版
312	9784771028159	共通善の経済学：人間性重視の社会経済学・二百年の伝統		晃洋書房
313	9784532198473	やさしい行動経済学		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
314	9784492315040	マンキューマクロ経済学， 1	第4版	東洋経済新報社
315	9784150505011	アリエリー教授の「行動経済学」入門		早川書房
316	9784792342630	マクロ経済学		成文堂
317	9784641165021	マクロ経済学	第2版	有斐閣
318	9784535806092	経済学入門		日本評論社
319	9784000266567	マクロ経済学	第4版	岩波書店
320	9784152096258	行動経済学の逆襲		早川書房
321	9784762026478	新ビジネス・エコノミクス		学文社
322	9784883842407	入門経済学	第3版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
323	9784623076727	ハンドブック経済学	改訂版	ミネルヴァ書房
324	9784641053847	マクロ経済学	新版	有斐閣
325	9784641220669	マクロ経済学・入門	第5版	有斐閣
326	9784532356880	Who Gets What and Why：マッチメイキングとマーケットデザインの新しい経済学		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
327	9784152097606	アリエリー教授の「行動経済学」入門 お金篇		早川書房
328	9784766425659	制度とは何か：社会科学のための制度論		慶應義塾大学出版会
329	9784492315125	アセモグル／レイプソン／リストマクロ経済学		東洋経済新報社
330	9784595319488	現代経済学		放送大学教育振興会（発売：ＮＨＫ出版）
331	9784532114053	やさしいマクロ経済学		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
332	9784502317910	ものがたりで学ぶ経済学入門		中央経済社（発売：中央経済グループパブリッシング）
333	9784492314906	クルーグマンマクロ経済学	第2版	東洋経済新報社
334	9784535559097	行動経済学の現在と未来		日本評論社
335	9784150505479	行動経済学の逆襲， 上		早川書房
336	9784150505486	行動経済学の逆襲， 下		早川書房
337	9784480099617	企業・市場・法		筑摩書房
338	9784903145686	ソシオ・エコノミックス	改装版	明月堂書店
339	9784883843084	入門マクロ経済学	第4版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
340	9784535559554	経済学を味わう：東大1、2年生に大人気の授業		日本評論社
341	9784480099785	複雑系経済学入門	増補	筑摩書房
342	9784757123670	ナッジで、人を動かす：行動経済学の時代に政策はどうあるべきか		ＮＴＴ出版
343	9784065217740	経済学の思考法：稀少性の経済から過剰性の経済へ		講談社
344	9784561860549	ロナルド・Ｈ・コースの経済学		白桃書房
345	9784883843183	実験経済学・行動経済学15講		新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
346	9784883843206	例題から学ぶ マクロ経済学の理論		新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）

347	9784409241363	情念の経済学：タルド経済心理学入門		人文書院
348	9784150505707	行動経済学：エッセンシャル版		早川書房
349	9784622089940	第三の支柱：コミュニティ再生の経済学		みすず書房
350	9784150505813	無料より安いものもある：お金の行動経済学		早川書房
351	9784906811311	新行動経済学読本：地域活性化への行動経済学の活用		明治大学出版会(発売：丸善出版)
352	9784762031298	市場競争のためのビジネス・エコノミクス		学文社
353	9784815810887	経済学のどこが問題なのか		名古屋大学出版会
354	9784833441292	ファンダムエコノミー入門：ＢＴＳから、クリエイターエコノミー、メタバースまで		黒鳥社(発売：プレジデント社)
355	9784560094471	経済学の壁：教科書の「前提」を問う		白水社
356	9784866936475	行動経済学人を動かす８８の原理		三恵社(発売：ＪＲＣ)
357	9784865783599	経済学の認識論：理論は歴史の娘である		藤原書店
358	9784762031823	景気把握のためのビジネス・エコノミクス		学文社
359	9784296000982	実践行動経済学 完全版		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
360	9784121027245	行動経済学の処方箋：働き方から日常生活の悩みまで		中央公論新社
361	9784910733616	感情の経済学, 1		学術研究出版
362	9784910733715	感情の経済学, 2		学術研究出版
363	9784326550920	強欲資本主義は死んだ：個人主義からコミュニティの時代へ		勁草書房
364	9784535540545	行動経済学		日本評論社
365	9784766428827	信頼の経済学：人類の繁栄を支えるメカニズム		慶應義塾大学出版会
366	9784535540507	次世代の実証経済学		日本評論社
367	9784296116492	世界最高峰の経済学教室		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
368	9784130430388	ケインズとその時代を読む：危機の時代の経済学ブックガイド		東京大学出版会
369	9784296113743	レジリエントな社会：危機から立ち直る力		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
370	9784478023228	反脆弱性：不確実な世界を生き延びる唯一の考え方, 下		ダイヤモンド社
371	9784478023211	反脆弱性：不確実な世界を生き延びる唯一の考え方, 上		ダイヤモンド社
372	9784326504527	経済学のための実験統計学		勁草書房
373	9784339028164	マルチエージェントのための行動科学：実験経済学からのアプローチ		コロナ社
374	9784296113736	使える！経済学：データ駆動社会で始まった大変革		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
375	9784062586399	ノーベル経済学賞：天才たちから専門家たちへ		講談社
376	9784563062576	経済学史		培風館
377	9784106037856	自由の思想史：市場とデモクラシーは擁護できるか		新潮社
378	9784480097071	経済思想入門		筑摩書房
379	9784623084371	現代経済学史の射程：パラダイムとウェルビーイング		ミネルヴァ書房
380	9784822288716	ポール・ローマーと経済成長の謎		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
381	9784779515514	テキストマイニングから読み解く経済学史		ナカニシヤ出版
382	9784272431038	現代に生きるカール・ポランニー：「大転換」の思想と理論		大月書店
383	9784560095126	ガルブレイス：異端派経済学者の肖像		白水社
384	9784797680669	今こそ読みたいガルブレイス		集英社インターナショナル(発売：集英社)
385	9784909237408	大洪水の前に：マルクスと惑星の物質代謝		堀之内出版

386	9784780719277	A I と資本主義：マルクス経済学ではこう考える		本の泉社
387	9784909237910	国家に抗するマルクス：「政治の他律性」について		堀之内出版
388	9784393611159	オーストリア学派：市場の秩序と起業家の創造精神		春秋社（千代田区）
389	9784532358549	シュンペーター経済発展の理論	初版	日経 B P M（日本経済新聞出版本部）
390	9784296000760	資本主義の先を予言した史上最高の経済学者シュンペーター		日経 B P（発売：日経 B P マーケティング）
391	9784768410080	投機は経済を安定させるのか？：ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を読み直す		現代書館
392	9784492314746	ダグラス・ノース制度原論		東洋経済新報社
393	9784818825925	J. R. コモンズの制度的経済学		日本経済評論社
394	9784130461184	インタンジブルズ・エコノミー：無形資産投資と日本の生産性向上		東京大学出版会
395	9784326504626	人工知能と経済		勁草書房
396	9784065171806	A I 時代の労働の哲学		講談社
397	9784865780871	作られた不平等：日本、中国、アメリカ、そしてヨーロッパ		藤原書店
398	9784480867339	リスク、不確実性、利潤		筑摩書房
399	9784866922454	入門 G D P 統計と経済波及効果分析	第 3 版	大学教育出版
400	9784766428957	現代日本の消費分析		慶應義塾大学出版会
401	9784641165151	経済史：いまを知り、未来を生きるために		有斐閣
402	9784757142329	暴力と社会秩序：制度の歴史学のために		N T T 出版
403	9784883842452	コア・テキスト経済史	増補版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
404	9784815809577	知識経済の形成：産業革命から情報化社会まで		名古屋大学出版会
405	9784502236419	ミクロ経済学の基礎	第 2 版	中央経済社（発売：中央経済グループパブリッシング）
406	9784492314821	クルーグマン ミクロ経済学	第 2 版	東洋経済新報社
407	9784883842490	演習ミクロ経済学	第 2 版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
408	9784883842421	読むミクロ経済学		新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
409	9784883842391	ミクロ経済学	新版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
410	9784492315194	マンキュー経済学. 1（ミクロ編）	第 4 版	東洋経済新報社
411	9784883843015	入門ミクロ経済学	第 3 版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
412	9784492315132	アセモグル／レイブソン／リスト ミクロ経済学		東洋経済新報社
413	9784641150850	ミクロ経済学の第一歩	新版	有斐閣
414	9784502431111	ビジネスを学ぶためのミクロ経済学入門		中央経済社（発売：中央経済グループパブリッシング）
415	9784532358600	メカニズムデザインで勝つ：ミクロ経済学のビジネス活用		日経 B P M（日本経済新聞出版本部）
416	9784762029035	ミクロ組織論		学文社
417	9784502213113	マクロとミクロの実証会計		中央経済社（発売：中央経済グループパブリッシング）
418	9784535558922	ゲーム理論はアート：社会のしくみを思いつづくための繊細な哲学		日本評論社
419	9784535806122	ゲーム理論		日本評論社
420	9784152098375	予測マシンの世紀：A I が駆動する新たな経済		早川書房
421	9784780606874	はじめて学ぶ経済系のデータ分析		学術図書出版社
422	9784641053854	計量経済学		有斐閣
423	9784866931418	経済分析のための構造推定アルゴリズム		三恵社（発売：J R C）
424	9784478109403	野口悠紀雄の経済データ分析講座：企業の利益が増えても、なぜ賃金は上がらないのか？		ダイヤモンド社

425	9784274225628	E x c e l と R ではじめるやさしい経済データ分析入門		オーム社
426	9784065209585	「意思決定」の科学：なぜ、それを選ぶのか		講談社
427	9784563010287	スタンダード経済データの統計分析		培風館
428	9784478105740	マンスキー データ分析と意思決定理論不確実な世界で政策の未来を予測する		ダイヤモンド社
429	9784254128994	P y t h o n による計量経済学入門		朝倉書店
430	9784489023507	P y t h o n による経済・経営分析のためのデータサイエンス：分析の基礎から因果推論まで		東京図書
431	9784780609011	はじめて学ぶ経済系のデータ分析	第3版	学術図書出版社
432	9784621306178	経済の数学解析：数理と経済		丸善出版
433	9784623087969	統計学		ミネルヴァ書房
434	9784478104323	経済は統計から学べ！		ダイヤモンド社
435	9784535540231	入門オルタナティブデータ：経済の今を読み解く		日本評論社
436	9784883843435	計量経済学	第2版	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
437	9784407352511	経済学をまなぶための微分積分		実教出版
438	9784320125193	経済経営のデータサイエンス		共立出版
439	9784883843503	ベイズ分析の理論と応用：R言語による経済データの分析		新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
440	9784326550876	ゲーム理論の見方・考え方		勁草書房
441	9784791774937	統計学を革命する：資本主義を支えるAIとアルゴリズム		青土社
442	9784254290295	計量経済学ハンドブック	新装版	朝倉書店
443	9784407352528	経済学をまなぶための線形代数		実教出版
444	9784296117352	多数派の専横を防ぐ意思決定理論とEBPM		日経BP（発売：日経BPマーケティング）
445	9784535806139	計量経済学のための統計学		日本評論社
446	9784489023941	P y t h o n ・ E x c e l ・ S Q L による経済・経営分析のためのデータ処理入門		東京図書
447	9784785315788	データサイエンスの基礎Rによる統計学独習		裳華房
448	9784000057042	実例で学ぶデータ科学推論の基礎		岩波書店
449	9784419065713	統計学入門		税務経理協会
450	9784274223068	E x c e l で学ぶやさしい統計学	第2版	オーム社
451	9784785315740	確率・統計		裳華房
452	9784794223647	異端の統計学ベイズ		草思社
453	9784798055879	図解入門最新データサイエンスがよ〜わかる本：基礎からビジネスへの応用までを俯瞰		秀和システム
454	9784621303610	いまさら聞けないP y t h o n でデータ分析：多変量解析、ベイズ統計分析（P y S t a n , P y M C）		丸善出版
455	9784595319648	統計学：その基本的な考え方	三訂版	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）
456	9784489023101	すぐわかる統計解析	改訂版	東京図書
457	9784065147931	今日から使える統計解析〔普及版〕：理論の基礎と実用の“勘どころ”		講談社
458	9784152098412	データは騙る：改竄・捏造・不正を見抜く統計学		早川書房
459	9784780607017	データサイエンス入門		学術図書出版社
460	9784254128987	P y t h o n によるベイズ統計学入門		朝倉書店
461	9784274224010	数式なしでわかるデータサイエンス：ビッグデータ時代に必要なデータリテラシー		オーム社
462	9784864180962	E x c e l による統計解析入門		日本教育訓練センター（発売：電気書院）
463	9784065170007	データサイエンスの基礎		講談社

464	9784781914558	統計的データ解析の基本		サイエンス社
465	9784817196798	シミュレーションのはなし：転ばぬ先の杖	改訂版	日科技連出版社
466	9784873118871	N u m P y によるデータ分析入門：配列操作、線形代数、機械学習のためのP y t h o n プログラミング		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
467	9784896412840	わかりやすいデータ解析入門：C ++ による演習	第 2 版	ムイスリ出版
468	9784274224409	J M P ではじめるデータサイエンス		オーム社
469	9784000298896	確率・統計	新装版	岩波書店
470	9784065178027	統計モデルと推測		講談社
471	9784791772407	世界を支配するベイズの定理：スパムメールの仕分けから人類の終焉までを予測する究極の方程式		青土社
472	9784320114296	数理統計学：統計的推論の基礎		共立出版
473	9784254122466	回帰分析	新装版	朝倉書店
474	9784768705278	初めて学ぶ統計学	新装版	現代数学社
475	9784254122435	E x c e l による統計入門	第 4 版	朝倉書店
476	9784254122558	瀕死の統計学を救え！：有意性検定から「仮説が正しい確率」へ		朝倉書店
477	9784883843077	コア・テキスト統計学	第 3 版	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
478	9784489023361	すぐわかる多変量解析	改訂版	東京図書
479	9784779514692	平均値の差の検定からの統計学入門：統計的仮説検定の理解から予測へ		ナカニシヤ出版
480	9784627082212	例題でよくわかるはじめての多変量解析		森北出版
481	9784839973575	つくりながら学ぶ！P y t h o n による因果分析：因果推論・因果探索の実践入門		マイナビ出版
482	9784764906136	相関係数		近代科学社
483	9784320114340	大規模計算時代の統計推論：原理と発展		共立出版
484	9784815601539	文系のための統計学の教室		S B クリエイティブ
485	9784621305058	確率・統計、 3		丸善出版
486	9784815810030	統計学を哲学する		名古屋大学出版会
487	9784780608601	現代数理統計学	新装改訂版	学術図書出版社
488	9784873119267	データサイエンスのための統計学入門	第 2 版	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
489	9784065186190	R で学ぶ統計的データ解析		講談社
490	9784802612906	分析者のためのデータ解釈学入門：データの本質をとらえる技術		ソシム
491	9784781914954	数理モデルとシミュレーション		サイエンス社
492	9784764906273	データサイエンスの作法：データを活かし切る科学のツボ		近代科学社
493	9784563010294	統計学リテラシー		培風館
494	9784297121273	絵と図でわかるデータサイエンス：難しい数式なしに考え方の基礎が学べる		技術評論社
495	9784320125186	データサイエンスのための確率統計		共立出版
496	9784563010225	確率・統計の基礎		培風館
497	9784407349528	問題解決のためのデータサイエンス入門		実教出版
498	9784791774197	データ視覚化の人類史：グラフの発明から時間と空間の可視化まで		青土社
499	9784621306536	わかりやすい統計学データサイエンス基礎		丸善出版
500	9784320124790	データ科学の基礎		共立出版
501	9784320112711	分散分析を超えて：実データに挑む		共立出版
502	9784780609370	データサイエンス演習	第 2 版	学術図書出版社

503	9784781915401	データ科学入門：データに基づく意思決定の基礎. 1		サイエンス社
504	9784910612027	線形代数から始める多変量解析－直交射影と固有値分解によるデータの分解－		プレアデス出版
505	9784296113453	統計で騙されない10の方法		日経BP(発売：日経BPマーケティング)
506	9784798172996	紙と鉛筆で身につけるデータサイエンティストの仮説思考		翔泳社
507	9784065285701	予測にいかす統計モデリングの基本：ベイズ統計入門から応用まで	改訂第2版	講談社
508	9784535540514	初歩からの多変量統計	新装版	日本評論社
509	9784163915968	因果推論の科学：「なぜ？」の問いにどう答えるか		文藝春秋
510	9784758121217	基礎から学ぶ統計学		羊土社
511	9784910612065	統計学の数理		プレアデス出版
512	9784768705964	入門！実践的データ分析		現代数学社
513	9784815615215	統計学×データ分析 基礎から体系的に学ぶデータサイエンティスト養成教室		SBクリエイティブ
514	9784274230028	Rによる実証分析：回帰分析から因果分析へ	第2版	オーム社
515	9784780611199	理系のためのデータサイエンス入門		学術図書出版社
516	9784820729594	データアナリティクス基礎		日本能率協会マネジメントセンター
517	9784254122916	インベンス・ルービン 統計的因果推論. 上		朝倉書店
518	9784254122923	インベンス・ルービン 統計的因果推論. 下		朝倉書店
519	9784794425355	初めて学ぶデータ分析の教科書		創成社
520	9784909022967	ベイズの誓い：ベイズ統計学はAIの夢を見る		聖学院大学出版会
521	9784774197531	統計思考の世界：曼荼羅で読み解くデータ解析の基礎		技術評論社
522	9784563010195	スタンダード文科系の統計学		培風館
523	9784254122275	Rで学ぶデータサイエンス		朝倉書店
524	9784254122305	多変量データ解析講義	新装版	朝倉書店
525	9784254122640	統計データ科学事典	新装版	朝倉書店
526	9784065222270	意思決定分析と予測の活用：基礎理論からPython実装まで		講談社
527	9784320125018	時系列解析：自己回帰型モデル・状態空間モデル・異常検知		共立出版
528	9784320112063	ノンパラメトリック統計		共立出版
529	9784254122473	時系列解析の実践. 1	新装版	朝倉書店
530	9784254122480	時系列解析の実践. 2	新装版	朝倉書店
531	9784781914824	時系列解析入門：線形システムから非線形システムへ	第2版	サイエンス社
532	9784320113541	時系列解析		共立出版
533	9784873119601	実践時系列解析：統計と機械学習による予測		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
534	9784627082519	時系列データ解析		森北出版
535	9784489024078	入門はじめての時系列分析	改訂版	東京図書
536	9784757123571	アライアンス戦略論	新版	NTT出版
537	9784561266358	企業提携の変容と市場創造：有機EL分野における有機的提携		白桃書房
538	9784561266204	アライアンス・イノベーション：大企業とベンチャー企業の提携：理論と実際		白桃書房
539	9784495377113	企業間アライアンスの理論と実証		同文館出版
540	9784502389900	組織間関係のダイナミズムと競争優位：バーチャル・プロジェクト・カンパニーのビジネスモデル		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
541	9784757121737	競争環境における戦略的提携：その理論と実践		NTT出版

542	9784502371509	企業間提携の戦略と組織		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
543	9784502318511	デジタル異業種連携戦略：IoT、AIで進化する共創のイノベーション		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
544	9784641165533	産業組織論：理論・戦略・政策を学ぶ		有斐閣
545	9784766427639	産業組織：理論と実証の接合		慶應義塾大学出版会
546	9784883355570	アライアンス思考：CVCによるスタートアップとの提携		日本ビジネス出版(発売：宣伝会議)
547	9784641151000	産業組織のエッセンス		有斐閣
548	9784535559615	企業の経済学：産業組織論入門		日本評論社
549	9784805111611	メガ・ベンチャーズ・イノベーション		千倉書房
550	9784496053450	中小企業のリバース・イノベーション		同友館
551	9784492502969	ベンチャー経営論		東洋経済新報社
552	9784805110881	中小企業の経済学		千倉書房
553	9784502351716	大学発ベンチャー創出のエコシステム		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
554	9784478110737	スタートアップとテクノロジーの世界地図		ダイヤモンド社
555	9784496055508	中小企業研究の継承と発展：日本中小企業学会40年間の軌跡		同友館
556	9784496055744	中小企業論：組織のライフサイクルとエコシステム		同友館
557	9784502421419	中小企業経営入門	第2版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
558	9784641221956	21世紀中小企業論：多様性と可能性を探る	第4版	有斐閣
559	9784130403108	日本の物価・資産価格：価格ダイナミクスの解明		東京大学出版会
560	9784254275834	ディープラーニング入門：Pythonではじめる金融データ解析		朝倉書店
561	9784046024473	ブロックチェーンプログラミングのためのコンピュータサイエンスがわかる本		KADOKAWA
562	9784865941630	ブロックチェーン仕組みと理論	増補改訂版	リックテレコム
563	9784766426137	フィンテックの経済学：先端金融技術の理論と実践		慶應義塾大学出版会
564	9784322134636	ファイナンス機械学習：金融市場分析を変える機械学習アルゴリズムの理論と実践		金融財政事情研究会
565	9784569850528	データエコノミー入門：激変するマネー、銀行、企業		PHP研究所
566	9784535540279	金融システムの経済学		日本評論社
567	9784320096523	データ駆動型ファイナンス：基礎理論からPython機械学習による応用		共立出版
568	9784322141856	Pythonとファイナンス事例で学ぶ機械学習		金融財政事情研究会
569	9784883842896	グラフィック金融論	第2版	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
570	9784873118901	Pythonによるファイナンス：データ駆動型アプローチに向けて	第2版	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
571	9784883843275	テキスト金融論	第2版	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
572	9784254129144	ファイナンスデータ分析		朝倉書店
573	9784254275889	Pythonによる金融テキストマイニング		朝倉書店
574	9784322141641	Pythonで学ぶビジネスデータの予測モデル		金融財政事情研究会
575	9784595324116	ファイナンス入門	三訂版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
576	9784532358341	ネクスト・ブロックチェーン：次世代産業創成のエコシステム		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
577	9784818824935	金融システムの不安定性と金融危機：日米英のバブルの発生と崩壊		日本経済評論社
578	9784794431974	日本の金融システム：日銀の異次元緩和策を越えて		創成社
579	9784121025418	平成金融史：バブル崩壊からアベノミクスまで		中央公論新社
580	9784480074157	日本金融百年史		筑摩書房

581	9784561267737	人間の仕事：意味と尊厳		白桃書房
582	9784582703658	労働の思想史：哲学者は働くことをどう考えてきたのか		平凡社
583	9784750349251	「働くこと」の哲学：ディーセント・ワークとは何か		明石書店
584	9784502366413	「働くこと」を思考する：労働経済学による問題解決へのアプローチ		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
585	9784535540293	キャリアと労働の経済学	第2版	日本評論社
586	9784883842711	労働経済学		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
587	9784492396544	労働経済		東洋経済新報社
588	9784763420275	クリエイティブであれ：新しい文化産業とジェンダー		花伝社(発売：共栄書房)
589	9784865280876	ブルシット・ジョブと現代思想		左右社
590	9784766427806	コロナ禍における個人と企業の変容：働き方・生活・格差と支援策		慶應義塾大学出版会
591	9784334962272	アマゾンの倉庫で絶望し、ウーバーの車で発狂した：潜入・最低賃金労働の現場		光文社
592	9784532322748	ブラック職場があなたを殺す		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
593	9784478106020	働くことのパーパス		ダイヤモンド社
594	9784909237774	オートメーションと労働の未来		堀之内出版
595	9784130461382	日本的雇用システムをつくる1945-1995：オーラルヒストリーによる接近		東京大学出版会
596	9784535559165	雇用システムの再構築に向けて：日本の働き方をいかに変えるか		日本評論社
597	9784842917887	日本的雇用の経営学		八千代出版
598	9784641165298	雇用システム論		有斐閣
599	9784502292415	非正社員改革：同一労働同一賃金によって格差はなくなる		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
600	9784120051524	雇用ビッグデータが地方を変える：47都道府県の傾向と対策		中央公論新社
601	9784845118243	メンバーシップ型雇用とは何か		旬報社
602	9784334046576	会社のなかの「仕事」社会のなかの「仕事」：資本主義経済下の職業の考え方		光文社
603	9784771034358	企業で働く個人の主体的なキャリア形成を支える学習環境：職場、実践共同体、越境		晃洋書房
604	9784623082643	プロフェッショナル労働市場：スキル形成・賃金・転職の実態分析		ミネルヴァ書房
605	9784762830525	転職の意味の探究：質的研究によるキャリアモデルの構成		北大路書房
606	9784502369315	ミドル&シニアのキャリア発達：知識労働者にみる転機と変化		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
607	9784414414714	キャリアカウンセリング：積極的関わりによる新たな展開		誠信書房
608	9784502461811	キャリア開発論：自律性と多様性に向き合う	第2版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
609	9784830950780	キャリア論研究	補訂版	文眞堂
610	9784641165694	「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン		有斐閣
611	9784779517006	VUCA時代をよりよく生きるためのキャリア形成とコミュニケーションスキル		ナカニシヤ出版
612	9784766134865	失われゆく仕事の図鑑		グラフィック社
613	9784883725953	個人と組織の未来を創るパラレルキャリア		日本生産性本部生産性労働情報センター
614	9784408416823	キャリア教育の射程		実業之日本社
615	9784875632702	キャリアデザイン概論	5訂版	雇用問題研究会
616	9784532321895	100年成長企業のマネジメント：3Mに学ぶ戦略駆動力の経営		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
617	9784532198404	全員経営：ハイパフォーマンスを生む現場13のケーススタディ		日経BPM（日本経済新聞出版本部）(発売：日経BPMマーケティング)
618	9784830949494	想定外のマネジメント：高信頼性組織とは何か	第3版	文眞堂
619	9784502222511	アメーバ経営が組織の結束力を高める：ケースからわかる組織変革成功のカギ		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)

620	9784502213014	アメーバ経営の進化：理論と実践		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
621	9784820120483	変革のマネジメント：組織と人をめぐる理論・政策・実践	新版	生産性出版
622	9784621303603	マネー・イン・ザ・グレー：ビジネスの難問を解く5つの質問		丸善出版
623	9784883842919	コア・テキスト経営管理	第2版	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
624	9784502327117	映画に学ぶ経営管理論	第3版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
625	9784532323288	経営改革大全：企業を壊す100の誤解		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
626	9784296106929	ケーススタディーで学ぶ実践企業のSDGs		日経BP(発売：日経Bマーケティング)
627	9784492534298	OODA Management：現場判断で成果をあげる次世代型組織のつくり方		東洋経済新報社
628	9784492522271	KPI大全：重要経営指標100の読み方&使い方		東洋経済新報社
629	9784502381515	失敗と成功の経営改革		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
630	9784492534366	パーパス経営：30年先の視点から現在を捉える		東洋経済新報社
631	9784501633509	センス&レスポンド：傾聴と創造による成功する組織の共創メカニズム		東京電機大学出版局
632	9784502432118	エビデンスから考えるマネジメント入門		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
633	9784561267799	制度複雑性のマネジメント：論理の錯綜と組織の対応		白桃書房
634	9784561267744	ジョブ・クラフティング：仕事の自律的再創造に向けた理論的・実践的アプローチ		白桃書房
635	9784830952197	サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革		文眞堂
636	9784296117802	企業価値経営	第2版	日経BP(発売：日経Bマーケティング)
637	9784866922225	プロジェクトマネジメントの教科書		大学教育出版
638	9784805112915	多様な組織から見る経営管理論		千倉書房
639	9784532199944	デザイン思考の授業：世界のトップデザインスクールが教える		日経BPM（日本経済新聞出版本部）(発売：日経Bマーケティング)
640	9784862573544	幸福学×経営学：次世代日本型組織が世界を変える		内外出版社
641	9784641164703	経営の再生：戦略の時代・組織の時代	第4版	有斐閣
642	9784495390259	組織間信頼の形成と維持		同文館出版
643	9784502413711	法人と組織と資源の管理：経営学省察		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
644	9784866922201	組織倫理論の可能性：経営の解釈・実践枠組み探究への新たな地平		大学教育出版
645	9784000248341	「学びほぐし」が会社を再生する：企業とファンドの組織変革物語		岩波書店
646	9784478106648	リーダーシップの教科書：ハーバード・ビジネス・レビューリーダーシップ論文ベスト10		ダイヤモンド社
647	9784862762566	〔新訳〕最前線のリーダーシップ：何が生死を分けるのか		英治出版
648	9784862762306	対話型組織開発：その理論的系譜と実践		英治出版
649	9784757123700	組織行動：理論と実践		NTT出版
650	9784532198558	悪いヤツほど出世する		日経BPM（日本経済新聞出版本部）(発売：日経Bマーケティング)
651	9784484182032	リーダーシップからフォローシップへ：カリスマリーダー不要の組織づくりとは	新版	CCCメディアハウス
652	9784561267195	組織の環境と組織間関係		白桃書房
653	9784297102579	〔イラスト解説〕ティール組織：新しい働き方のスタイル		技術評論社
654	9784862762610	組織の壁を越える：「バウンダリー・スパニング」6つの実践		英治出版
655	9784641165359	組織アイデンティティの機能：環境変化への対応における役割		有斐閣
656	9784478106945	チームワークの教科書：ハーバード・ビジネス・レビューチームワーク論文ベスト10		ダイヤモンド社
657	9784502295614	組織行動論		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
658	9784478104989	オーセンティック・リーダーシップ		ダイヤモンド社

659	9784762029028	マクロ組織論		学文社
660	9784093886901	幸せな職場の経営学：「働きたくてたまらないチーム」の作り方		小学館
661	9784561267324	レジリエンスと経営戦略：レジリエンス研究の系譜と経営学的意義		白桃書房
662	9784502322310	なぜ組織は個を活かせないのか		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
663	9784883843022	コア・テキスト組織学習		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
664	9784641165519	組織学の生成と展開		有斐閣
665	9784502326615	経営組織		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
666	9784641165502	組織の経済学		有斐閣
667	9784502333712	組織変革のマネジメント：理論と現状	第2版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
668	9784569845579	サーベイフィードバック入門：「データと対話」で職場を変える技術／これからの組織		PHP研究所
669	9784862762863	両利きの組織をつくる：大企業病を打破する「攻めと守りの経営」		英治出版
670	9784492046616	Unlocking Creativity：チームの創造力を解き放つ最強の戦略		東洋経済新報社
671	9784762029042	組織のメソドロジー		学文社
672	9784502336416	管理職の役割		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
673	9784820728245	心理的安全性のつくりかた：「心理的柔軟性」が困難を乗り越えるチームに変える		日本能率協会マネジメントセンター
674	9784641165663	組織行動論の考え方・使い方：良質のエビデンスを手にするために		有斐閣
675	9784830950995	組織設計と個人行動：「H. ミンツバーグ組織設計論」と「組織行動論」	増補版	文真堂
676	9784478107997	これからのマネジャーが大切にすべきこと：42のストーリーで学ぶ思考と行動		ダイヤモンド社
677	9784820728740	チームワーキング：ケースとデータで学ぶ「最強のチーム」のつくり方		日本能率協会マネジメントセンター
678	9784883843220	グラフィック経営組織論		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
679	9784478113394	リーダーシップの教科書 2：ハーバード・ビジネス・レビューリーダーシップ論文ベスト11		ダイヤモンド社
680	9784296111527	多様性って何ですか？ D&I、ジェンダー平等入門		日経BP(発売：日経BPマーケティング)
681	9784532324506	困難な組織を動かす人はどこが違うのか？：Positive Leadership		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
682	9784502391415	職場の経営学：ミドル・マネジメントのための実践的ヒント		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
683	9784779516191	組織マネジメントの社会哲学：ビジネスにおける合理性を問い直す		ナカニシヤ出版
684	9784502418617	リーダーシップの理論：経験と勘を活かす武器を身につける		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
685	9784296113248	ビジネスの名著を読む〔リーダーシップ編〕		日経BP(発売：日経BPマーケティング)
686	9784830951688	組織のメタファー		文真堂
687	9784296114344	職場のウェルビーイングを高める：1億人のデータが導く「しなやかなチーム」の共通項		日経BP(発売：日経BPマーケティング)
688	9784495390655	企業家的ミドルの探索：越境するリーダーの役割と育成		同文館出版
689	9784762031861	自分事化の組織論：主体的に考え行動するためのストーリーとロジック		学文社
690	9784478114681	CHANGE 組織はなぜ変わらないのか		ダイヤモンド社
691	9784561267683	組織論レビュー、3		白桃書房
692	9784561267690	組織論レビュー、4		白桃書房
693	9784830951923	経営組織論のフロンティア		文真堂
694	9784561267768	個人と組織不適合のダイナミクス：適合と不適合が牽引する外部環境適応		白桃書房
695	9784502452918	組織変革論		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
696	9784762032301	心理的エンパワーメントと組織の再活性化		学文社
697	9784382158351	心理的安全性がつくりだす組織の未来：アメリカ発の心理的安全性を日本流に転換せよ		産業能率大学出版部

698	9784623093519	キャリア心理学から読み解く女性とリーダーシップ		ミネルヴァ書房
699	9784502459917	チームビルディング：働きがいのある最高のチーム作り		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
700	9784492534021	経営戦略原論		東洋経済新報社
701	9784830949135	自分で企業をつくり、育てるための経営学入門：起業戦略を考える		文真堂
702	9784861868092	アントレプレナーシップと戦略経営：ビジネススクールでの実践		ふくろう出版
703	9784502273018	ダイナミック・ケイパビリティの戦略経営論		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
704	9784502325014	経営戦略		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
705	9784492534458	ジョイント・ベンチャー戦略大全：設計・交渉・法務のすべて	改訂版	東洋経済新報社
706	9784532134891	現代コーポレートガバナンス：戦略・制度・市場		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
707	9784492534342	株式会社規範のコベルニクスの転回：脱・株主ファーストの生存戦略		東洋経済新報社
708	9784478100035	プラットフォーム・レボリューション：未知の巨大なライバルとの競争に勝つために		ダイヤモンド社
709	9784478104415	競争戦略論. 2	新版	ダイヤモンド社
710	9784478008423	競争戦略論. 1	新版	ダイヤモンド社
711	9784492534038	市場首位の目指し方		東洋経済新報社
712	9784822255732	「イノベーターのジレンマ」の経済学的説明		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
713	9784478100356	ブルー・オーシャン・シフト		ダイヤモンド社
714	9784830949883	統合思考とＥＳＧ投資：長期的な企業価値創出メカニズムを求めて		文真堂
715	9784842917238	ケースで読み解く経営戦略論		八千代出版
716	9784532321932	なぜ戦略の落とし穴にはまるのか		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
717	9784478102510	ブルー・オーシャン戦略論文集		ダイヤモンド社
718	9784805111178	コグニティブ競争戦略：経営者の認識と業界内部の構造変化のメカニズム		千倉書房
719	9784106038044	世界史を創ったビジネスモデル		新潮社
720	9784502218217	日本企業の戦略とガバナンス：「選択と集中」による多角化の実証分析		中央経済グループパブリッシング
721	9784641165014	プラットフォーム企業のグローバル戦略：オープン標準の戦略的活用とビジネス・エコシステム		有斐閣
722	9784274222764	7日間集中講義！Excel 回帰分析入門：ツールで拡がるデータ解析＆要因分析		オーム社
723	9784532198787	ゲーム・チェンジャーの競争戦略：ルール、相手、土俵を変える		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）(発売：日経ＢＰマーケティング)
724	9784492534052	企業変革の教科書		東洋経済新報社
725	9784492534090	OODA LOOP：次世代の最強組織に進化する意思決定スキル		東洋経済新報社
726	9784495209216	バックキャスト思考とSDGs／ESG投資		同文館出版
727	9784478107577	意思決定の教科書：ハーバード・ビジネス・レビュー意思決定論文ベスト10		ダイヤモンド社
728	9784502251610	グラント現代戦略分析	第2版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
729	9784830950308	経営戦略の課題と解明		文真堂
730	9784478107584	企業変革の教科書：ハーバード・ビジネス・レビュー企業変革論文ベスト10		ダイヤモンド社
731	9784641165472	戦略硬直化のスパイラル：どうして企業は変われなくなるのか		有斐閣
732	9784274224249	よりよくわかるプロジェクトマネジメント		オーム社
733	9784788516526	デザインマネジメント論：ビジネスにおけるデザインの意義と役割		新曜社
734	9784784541454	プラットフォーム新時代：ブロックチェーンか、協同組合か		社会評論社
735	9784492534175	ゼロからつくるビジネスモデル		東洋経済新報社
736	9784822288600	ビジョナリー・カンパニー弾み車の法則		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)

737	9784641165595	ビジネスに役立つ経営戦略論：企業の戦略分析入門		有斐閣
738	9784492522264	一橋MBA戦略分析ケースブック 事業創造編		東洋経済新報社
739	9784883843152	グラフィック経営統計		新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）
740	9784532323561	サーキュラー・エコノミー・ハンドブック：競争優位を実現する		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
741	9784532323646	ニューノーマルカンパニー：変革継続力の経営		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
742	9784492534311	VUCA時代のグローバル戦略		東洋経済新報社
743	9784478109144	ビジネスモデルの教科書：ハーバード・ビジネス・レビュー ビジネスモデル論文ベスト11		ダイヤモンド社
744	9784502368011	7つの問い：戦略実行のエッセンス		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
745	9784492503294	経営学のための統計学・データ分析		東洋経済新報社
746	9784532119430	ビジュアルビジネスモデルがわかる		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
747	9784822288990	世界最先端8社の大戦略：「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
748	9784065251614	経営・商学のための統計学入門：直感的な例題で学ぶ		講談社
749	9784502395017	ビジネスモデル創造企業		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
750	9784775940198	戦略経営論：競争力とグローバリゼーション	第3版	パンローリング
751	9784873119557	AI技術を活かすためのスキル：データをビジネスの意思決定に繋げるために		オライリー・ジャパン(発売：オーム社)
752	9784478115114	データ分析・AIを実務に活かすデータドリブン思考		ダイヤモンド社
753	9784828309286	ムーンショット・リーダーシップと未来を動かす経営戦略：ニューノーマル時代、飛躍する組織づくり		ビジネス教育出版社
754	9784296113170	なぜ戦略の落とし穴にはまるのか		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
755	9784296113255	ビジネスの名著を読む〔戦略・マーケティング編〕		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
756	9784492534502	企業成長の仕込み方		東洋経済新報社
757	9784641165977	企業戦略論：構造をデザインする		有斐閣
758	9784830951565	学史から学ぶ経営戦略		文眞堂
759	9784492534540	エコシステム・ディスラプション：業界なき時代の競争戦略		東洋経済新報社
760	9784296000586	ビジネススクール意思決定入門		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
761	9784296115556	ウェルビーイング・マネジメント：4つの指標で幸せな組織をつくる		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
762	9784495390693	デジタル時代のエコシステム経営：共創・共栄する仕組みづくりの論理		同文館出版
763	9784478116449	ビヨンド・デジタル：企業変革の7つの必須要件		ダイヤモンド社
764	9784846022013	経営は5つの視点の因果関係で考える：強い組織をつくる経営ツールの使い方		桜美林大学出版会(発売：論創社)
765	9784908327155	ビジネス統計のための基礎理論		オデッセイコミュニケーションズ(発売：JRC)
766	9784495390679	経営戦略ハンドブック：キーワードからみる		同文館出版
767	9784495200626	BSGによる戦略の策定と実行：事例で見るインタンジブルズのマネジメントと統合報告		同文館出版
768	9784561267720	共創創造：多角的視点取得が組織にもたらすダイナミズム		白桃書房
769	9784805112083	日本企業の国際合併行動：トロイの木馬仮説の実証分析	増補版	千倉書房
770	9784502225116	企業統治		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
771	9784296100033	ESG経営を強くするコーポレートガバナンスの実践		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
772	9784623083992	よくわかるコーポレート・ガバナンス		ミネルヴァ書房
773	9784495390297	ファミリービジネス：MBA講座		同文館出版
774	9784502340819	日本企業のコーポレート・ガバナンス：エージェンシー問題の克服と企業価値向上		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
775	9784492315323	株式会社の世界史：「病理」と「戦争」の500年		東洋経済新報社

776	9784130403061	企業のアーキテクチャー：コーポレートガバナンス改革のゆくえ		東京大学出版会
777	9784502438219	データ分析で読み解く日本のコーポレート・ガバナンス史		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
778	9784830951954	コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティ：会社の目的を考える		文眞堂
779	9784495368746	理論とケースで学ぶ国際ビジネス	第4版	同文館出版
780	9784830949180	グローバル企業：国際化・グローバル化の歴史的展望		文眞堂
781	9784762026836	多国籍企業の理論と戦略		学文社
782	9784595319501	国際経営	改訂新版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
783	9784419066604	グループ経営入門：グローバルな成長のための本社の仕事	第4版	税務経理協会
784	9784641221727	国際経営	第5版	有斐閣
785	9784830949401	価値共創時代の戦略的パートナーシップ		文眞堂
786	9784502367311	NPOと企業のパートナーシップの形成と実行：センスメーカーからの分析		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
787	9784303727239	デザイン3.0の教科書：誰もがデザインする時代		海文堂出版
788	9784502273216	セブンイレブンとヤマト運輸のIT戦略分析：業界リーダーが持続的競争力をつくるメカニズム		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
789	9784561267058	新テキストマイニング入門：経営研究での「非構造化データ」の扱い方		白桃書房
790	9784839964115	Excelからはじめるビッグデータ分析		マイナビ出版
791	9784502225215	技術経営		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
792	9784864876650	ビジネスデータ分析入門：office 365対応版		三恵社(発売：JRC)
793	9784502183416	ビッグデータ分析を経営に活かす		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
794	9784502174711	IoT時代のプラットフォーム競争戦略：ネットワーク効果のレバレッジ		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
795	9784532320843	イノベーターになる：人と組織を「革新者」にする方法		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
796	9784561247234	ビジネス・データマイニング入門	増補改訂版	白桃書房
797	9784785771423	データ利活用のための政策と戦略：より良きデータ活用社会のために		商事法務
798	9784502318115	人工知能を活かす経営戦略としてのテキストマイニング		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
799	9784532323370	共感経営：「物語り戦略」で輝く現場		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
800	9784478110782	信頼とデジタル：顧客価値をいかに再創造するか		ダイヤモンド社
801	9784905318736	IT人材白書 2020		情報処理推進機構
802	9784496054952	基礎から学ぶデータサイエンス講座：データ分析をビジネスで使う！		同友館
803	9784502359910	デジタル戦略の教科書		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
804	9784561267461	DX戦略立案書：CC-DIVフレームワークでつかむデジタル経営変革		白桃書房
805	9784532323844	アート思考のものづくり		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
806	9784532323660	AI経営のリスクマネジメント		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
807	9784492396599	なぜ、DXは失敗するのか？：「破壊的な変革」を成功に導く5段階モデル		東洋経済新報社
808	9784254129113	データサイエンス入門		朝倉書店
809	9784762030758	デジタル経営学入門 IT経営、eビジネス、マーケティング編：AI・DX時代の羅針盤		学文社
810	9784492961926	戦略論とDXの交点：DXの核心を経営理論から読み解く		東洋経済新報社
811	9784798171371	DXを成功に導くデータマネジメント：データ資産価値向上と問題解決のための実務プロセス75		翔泳社
812	9784785729257	デジタルトランスフォーメーションハンドブック		商事法務
813	9784502410918	1からのデジタル経営		碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
814	9784492522295	イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学		東洋経済新報社

815	9784798067636	データ分析プロジェクト実践トレーニング		秀和システム
816	9784297129460	事業分析・データ設計のためのモデル作成技術入門		技術評論社
817	9784798174532	世界標準のデータ戦略完全ガイド：データセンスを磨く事例から、データの種類と仕組み、戦略策定のステップまで		翔泳社
818	9784496056147	D X プロセスガイドライン		同友館
819	9784296114948	ビジュアルデータサイエンティスト基本スキル 8 4		日経 B P (発売：日経 B P マーケティング)
820	9784492962114	データドリブン経営の不都合な真実		東洋経済新報社
821	9784297133146	評価指標入門 データサイエンスとビジネスをつなぐ架け橋		技術評論社
822	9784502452512	D X 時代の日本企業の戦い方：京大で学ぶデジタル社会と資本市場		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
823	9784794426116	デジタル&デザイン・トランスフォーメーション		創成社
824	9784535789203	A I 人材にいま一番必要なこと：すべての人が知るべき、A I の本質と活用術		日本評論社
825	9784535559141	イノベーションと技術変化の経済学		日本評論社
826	9784065307847	資本主義の本質について：イノベーションと余剰経済		講談社
827	9784805112274	共感が未来をつくる：ソーシャルイノベーションの実践知		千倉書房
828	9784641165526	イノベーションの歴史：日本の革新的企業家群像		有斐閣
829	9784830949982	ソーシャル・イノベーションを理論化する：切り拓かれる社会企業家の新たな実践		文眞堂
830	9784779514838	つながりが生み出すイノベーション：サードセクターと創発する地域		ナカニシヤ出版
831	9784296115914	イノベーション・マネジメント入門	新装版	日経 B P (発売：日経 B P マーケティング)
832	9784595324093	イノベーション・マネジメント		放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
833	9784798166384	日本のイノベーションのジレンマ：破壊的イノベーターになるための 7 つのステップ	第 2 版	翔泳社
834	9784502369612	ビジネスモデル・イノベーションのケーススタディ		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
835	9784478113219	イノベーション創造戦略：組織の未来を創り出す「三つの箱の解決法」		ダイヤモンド社
836	9784478106334	イノベーションの教科書：ハーバード・ビジネス・レビューイノベーション論文ベスト10		ダイヤモンド社
837	9784806530176	オープンイノベーション白書	第 2 版	経済産業調査会
838	9784817196255	よくわかるオープンイノベーションアクセラレータ入門		日科技連出版社
839	9784297105273	デジタル時代のイノベーション戦略		技術評論社
840	9784830950414	イノベーションと革新的マーケティングの戦略		文眞堂
841	9784561267201	進化的イノベーションのダイナミクス：変革期を克服する組織能力マネジメント		白桃書房
842	9784492522257	イノベーション全書		東洋経済新報社
843	9784532323813	リ・イノベーション視点転換の経営：知識・資源の再起動		日経 B P M (日本経済新聞出版本部)
844	9784561267485	非連続イノベーションの戦略的マネジメント	改訂版	白桃書房
845	9784502393518	イノベーション・マネジメント		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
846	9784798167473	イノベーションの D N A : 破壊的イノベーターの 5 つのスキル	新版	翔泳社
847	9784815810467	イノベーション概念の現代史		名古屋大学出版会
848	9784883843374	イノベーション入門：基礎から実践まで		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
849	9784641166028	イノベーション		有斐閣
850	9784296116348	イノベーションの考え方		日経 B P (発売：日経 B P マーケティング)
851	9784254275827	F i n T e c h イノベーション入門		朝倉書店
852	9784495390341	企業成長のデザイン経営：知的資産の創造的利用、イノベーションと事業性評価		同文館出版
853	9784502436710	イノベーション・エコシステムの誕生：日本における発見と政策課題		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)

854	9784561267362	あるもの探しのイノベーション戦略：効率的な経営資源の組み合わせで成長する		白桃書房
855	9784641165793	日本の企業間取引：市場性と組織性の歴史構造		有斐閣
856	9784492534113	イノベーションの長期メカニズム：逆浸透膜の技術開発史		東洋経済新報社
857	9784502268915	企業経営と環境評価		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
858	9784641165571	イノベーションを生む“改善”：自動車工場の改善活動と全社の組織設計		有斐閣
859	9784561662419	イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流		白桃書房
860	9784771037274	アメリカ産業イノベーション論		晃洋書房
861	9784641165304	消費者視点の小売イノベーション：オムニ・チャネル時代の食品スーパー		有斐閣
862	9784561267157	フリーイノベーション		白桃書房
863	9784793004742	経済情報リテラシー		泉文堂
864	9784641221789	現代経営情報論		有斐閣
865	9784883843312	コア・テキスト経営情報論		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
866	9784595319518	経営情報学入門		放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
867	9784502350917	入門ガイダンス情報のマネジメント：不確実性への意思決定アプローチ	第2版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
868	9784561257431	現代組織の情報セキュリティ・マネジメント：その戦略と導入・策定・運用	改訂版	白桃書房
869	9784805112304	経営情報戦略入門：文理融合へのいざない		千倉書房
870	9784532324469	情報資源の経営戦略：SNS時代の競争優位		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
871	9784595324109	経営情報学入門	新訂	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
872	9784641222083	経営情報学：理論と現象をつなぐ論理		有斐閣
873	9784641221994	財務会計・入門：企業活動を描き出す会計情報とその活用法	第15版	有斐閣
874	9784641222144	財務会計・入門：企業活動を描き出す会計情報とその活用法	第16版	有斐閣
875	9784883355082	話題を生み出す「しくみ」のつくり方：情報拡散構造から読み解くヒットのルール		宣伝会議
876	9784532113988	ファシリテーション入門	第2版	日経BPM（日本経済新聞出版本部）
877	9784641150478	人事管理：人と企業、ともに生きるために		有斐閣
878	9784502266317	人事のためのデータサイエンス：ゼロからの統計解析入門		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
879	9784830949791	人的資源管理の力		文真堂
880	9784818824881	学歴と格差の経営史：新しい歴史像を求めて		日本経済評論社
881	9784502249518	多様化する雇用形態の人事管理：人材ポートフォリオの実証分析		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
882	9784845292738	Excelでできる戦略人事のデータ分析入門		労務行政
883	9784830950216	戦略的人的資源管理の理論と実証：人材マネジメントは企業業績を高めるか		文真堂
884	9784820727330	データ・ドリブン人事戦略：データ主導の人事機能を組織経営に活かす		日本能率協会マネジメントセンター
885	9784495390280	日本の人事システム：その伝統と革新		同文館出版
886	9784502316913	人的資源管理論：理論と制度	第3版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
887	9784641221444	新しい人事労務管理	第6版	有斐閣
888	9784561217398	職場の現象学：「共に働くこと」の意味を問い直す		白桃書房
889	9784820728023	ピープルアナリティクスの教科書：組織・人事データの実践的活用法		日本能率協会マネジメントセンター
890	9784502354212	日本企業のタレントマネジメント：適者開発日本型人事管理への変革		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
891	9784492534250	デジタル時代の人材マネジメント：組織の構築から人材の選抜・評価・処遇まで		東洋経済新報社
892	9784478109151	人材育成・人事の教科書：ハーバード・ビジネス・レビューHR論文ベスト11		ダイヤモンド社

893	9784492557952	コンフリクト・マネジメントの教科書：職場での対立を創造的に解決する		東洋経済新報社
894	9784502365911	働き方改革の基本		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
895	9784478111512	デザイン思考の教科書：ハーバード・ビジネス・レビューデザインシンキング論		ダイヤモンド社
896	9784863263062	データ主導の人材開発・組織開発マニュアル：「社員意識調査」と「多面評価」の徹底活用を中心に		産労総合研究所出版部経営書院
897	9784502382611	人事データ活用の実践ハンドブック		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
898	9784502383717	2030年の人事管理		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
899	9784130402972	中小企業の人材開発		東京大学出版会
900	9784532322090	全員戦力化：戦略人材不足と組織力開発		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
901	9784910132136	人的資源管理論		博英社
902	9784335450662	人事のためのジョブ・クラフティング入門：「個人」と「組織」のエンゲージメントを高める新メソッド		弘文堂
903	9784502407017	1からの人的資源管理		碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
904	9784502414114	ジョブ型人事で人を育てる：人的資本経営の実践書		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
905	9784502409813	多様な人材のマネジメント		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
906	9784595141775	人的資源管理	改訂新版	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)
907	9784532135287	人事管理入門：マネジメント・テキスト	新装版	日経BPM（日本経済新聞出版本部）
908	9784502344510	人事労務DXデータによる働き方改革2.0		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
909	9784800590244	経営戦略としての人的資本開示		日本能率協会マネジメントセンター
910	9784419068660	現代の人事の最新課題：人的資本・健康経営・メタワース・リベラルアーツ		税務経理協会
911	9784561267584	リモートワークを科学する：データで示す日本企業の課題と対策. 1		白桃書房
912	9784561267591	リモートワークを科学する：日本企業のケースから読み解く本質. 2		白桃書房
913	9784502433511	カゴメの人事改革：戦略人事とサステナブル人事による人的資本経営		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
914	9784762832055	はじめてのコーチングとファシリテーション：人と組織を活かす心理学		北大路書房
915	9784846022051	なぜ社員は辞めてしまうのか：人的資源管理の理論と実証		論創社
916	9784166613830	男性中心企業の終焉		文藝春秋
917	9784152101914	ピボット思考：ビジネスモデルを破壊し、創出する		早川書房
918	9784874249260	『下町ロケット』で学ぶ！12の社会人基礎力		くろしお出版
919	9784798175478	デザインシンキング・ツールボックス 最強のイノベーション・メソッド48		翔泳社
920	9784883843640	グラフィック ヒューマン・リソース・マネジメント		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
921	9784296001385	4段階で実現する 心理的安全性		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
922	9784296117130	人材投資のジレンマ		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
923	9784793004735	はじめての人事管理：ライブ講義	第3版	泉文堂
924	9784502457012	揺さぶる経営学：LGBTQから問い直す企業の生産性		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
925	9784296117680	日本の会社のための人事の経済学		日経BP(発売：日経BPMマーケティング)
926	9784845234011	「人的資本経営」戦略		労務行政
927	9784495390754	人材マネジメント論Lite：ベーシックテキスト		同文館出版
928	9784419069285	DXと人的資本		税務経理協会
929	9784130421553	ワークプレイス・パーソナリティ論：人的資源管理の新視点と実証		東京大学出版会
930	9784771037281	ダイバーシティ・マネジメントと人事労務管理		晃洋書房
931	9784502457616	日本の人事労務研究		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)

932	9784478117798	人材開発・組織開発コンサルティング：人と組織の「課題解決」入門		ダイヤモンド社
933	9784502263613	入門ビジネス & ファイナンス		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
934	9784883842926	グラフィック経営財務		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
935	9784532135249	ゼミナールコーポレートファイナンス		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
936	9784502426315	テキスト財務管理論	第 6 版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
937	9784641222137	新・現代の財務管理		有斐閣
938	9784502407819	事業ポートフォリオマネジメント入門：資本コスト経営の理論と実践		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
939	9784627854116	失敗しないデータ分析・AIのビジネス導入：プロジェクト進行から組織づくりまで		森北出版
940	9784532113865	ビジネススクールで教える経営分析		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
941	9784794425331	企業評価の総合的方法		創成社
942	9784495193034	財務諸表分析	第 3 版	同文館出版
943	9784502342417	財務諸表分析	第 8 版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
944	9784495210144	理論とケースで学ぶ財務分析		同文館出版
945	9784805112168	財務諸表と企業分析入門	改訂版	千倉書房
946	9784478112878	企業価値評価：バリュエーションの理論と実践, 上	第 7 版	ダイヤモンド社
947	9784478112885	企業価値評価：バリュエーションの理論と実践, 下	第 7 版	ダイヤモンド社
948	9784433743628	管理会計でわかる！上手な「値上げ」の仕方・考え方		清文社
949	9784296115280	SDGs ファイナンス		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
950	9784478104408	マーケティングの教科書：ハーバード・ビジネス・レビュー戦略マーケティング論		ダイヤモンド社
951	9784274221019	マーケティングのための統計分析		オーム社
952	9784492557792	デジタルマーケティングの教科書：5つの進化とフレームワーク		東洋経済新報社
953	9784495390051	ネットビジネス・ケースブック		同文館出版
954	9784794425096	マーケティング戦略論：戦略的思考の展開		創成社
955	9784805111055	技術者のためのマーケティング：顧客価値の構想と戦略		千倉書房
956	9784478039632	データ・ドリブン・マーケティング：最低限知っておくべき15の指標		ダイヤモンド社
957	9784492522202	市場戦略の読み解き方：一橋MBA戦略ケースブックvol. 2		東洋経済新報社
958	9784274219689	Rによるデータ駆動マーケティング		オーム社
959	9784495648411	日本企業は次に何を学ぶべきか		同文館出版
960	9784822251765	シェアリングエコノミー：Airbnb、Uberに続くユーザー主導の新ビジネスの全貌		日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティング)
961	9784883353736	デジタルで変わるマーケティング基礎		宣伝会議
962	9784502200212	1からのマーケティング・デザイン		碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
963	9784041041420	確率思考の戦略論：USJでも実証された数学マーケティングの力		KADOKAWA
964	9784805110959	はじめてのマーケティング		千倉書房
965	9784140816998	シェア：〈共有〉からビジネスを生み出す新戦略	ペーパーバック版	NHK出版
966	9784140816981	フリー：〈無料〉からお金を生み出す新戦略	ペーパーバック版	NHK出版
967	9784641164680	競争を味方につけるマーケティング：脱コモディティ化のための新発想		有斐閣
968	9784532320065	店頭マーケティングのためのPOS・ID-POSデータ分析		日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）
969	9784817196637	データ解析による実践マーケティング		日科技連出版社
970	9784502300615	顧客価値を創造するコト・マーケティング：ビジョンで紡ぐ共創関係		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)

971	9784492534120	「つながり」の創りかた：新時代の収益化戦略 リカーリングモデル		東洋経済新報社
972	9784495643720	ベーシック・マーケティング	第2版	同文館出版
973	9784334044275	なぜ女はメルカリに、男はヤフオクに惹かれるのか？：アマゾンに勝つ！日本企業のすごいマーケティング		光文社
974	9784502317811	デジタル社会のマーケティング		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
975	9784502327711	1からのマーケティング	第4版	碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
976	9784535559448	メガマーケティングによる市場創造戦略：携帯音楽配信サービスの誕生		日本評論社
977	9784532114183	サブスクリプション経営		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
978	9784339029086	実データで体験するビッグデータ活用マーケティング・サイエンス：はじめてでもわかる「R」によるデータ分析		コロナ社
979	9784495650056	ケースで学ぶ価値共創マーケティングの展開：新たなビジネス領域への挑戦		同文館出版
980	9784788909007	ブランド・アーキタイプ戦略：驚異的価値を生み出す心理学的アプローチ		実務教育出版
981	9784641165724	ブランド・インキュベーション戦略：第三の力を活かしたブランド価値協創 ブランドは、こうして生まれ育っていた		有斐閣
982	9784883843190	グラフィックマーケティング		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
983	9784817197337	技術者のマーケティング強化書：これだけは知っておきたいマーケティングの基本常識60		日科技連出版社
984	9784621306055	DX時代のサービスデザイン：「意味」の力で新たなビジネスを作り出す		丸善出版
985	9784274227240	AI・データ分析モデルのレシピ		オーム社
986	9784805112342	事例ベース意思決定（CBDT）によるマーケティング		千倉書房
987	9784254129137	マーケティングデータ分析		朝倉書店
988	9784315524703	レコメンデーション・エンジン		ニュートンプレス
989	9784502421617	1からのマーケティング分析	第2版	碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
990	9784883355457	顧客起点のマーケティングDX		宣伝会議
991	9784778317904	欲望で捉えるデジタルマーケティング史		太田出版
992	9784502431418	進化するブランド：オートバイエシスと中動態の世界		碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
993	9784641166035	入門・マーケティング戦略	新版	有斐閣
994	9784621307472	コトラー&ケラー&チェルネフマーケティング・マネジメント	原書16版	丸善出版
995	9784535806153	マーケティング		日本評論社
996	9784641177321	マーケティングをつかむ	第3版	有斐閣
997	9784883843671	Rによるマーケティング・データ分析：基礎から応用まで		新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)
998	9784414306385	オンライン・インフルエンス：ビジネスを加速させる行動科学		誠信書房
999	9784780610512	実践マーケティングデータサイエンス：ショッパー行動の探索的データ解析と機械学習モデル構築		学術図書出版社
1000	9784753103713	価値論：人類学からの総合的視座の構築		以文社
1001	9784532358051	日本経済のマーケットデザイン		日経BPM（日本経済新聞出版本部）
1002	9784492315224	ラディカル・マーケット脱・私有財産の世紀		東洋経済新報社
1003	9784502328718	マーケットデザイン：オークションとマッチングの理論・実践		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1004	9784794425683	eビジネスの教科書	第八版	創成社
1005	9784805111703	流通モード進化論		千倉書房
1006	9784535559516	入門・現代流通論		日本評論社
1007	9784641221710	ベーシック流通と商業：現実から学ぶ理論と仕組み	第3版	有斐閣
1008	9784641151031	はじめての流通	新版	有斐閣
1009	9784641184626	新しい流通論		有斐閣

1010	9784495647520	ベーシック流通論	第 2 版	同文館出版
1011	9784502286216	組織を創るマネジメント・コントロール		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1012	9784495161477	管理会計	第 7 版	同文館出版
1013	9784502303418	基礎管理会計		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1014	9784502321818	管理会計の再構築：本質的機能とメゾ管理会計への展開		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1015	9784502331213	1 からの管理会計		碩学舎(発売：中央経済グループパブリッシング)
1016	9784502354113	進化する生産管理会計		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1017	9784274226113	E x c e l で学ぶ管理会計		オーム社
1018	9784502420016	実務に活かす管理会計のエビデンス		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1019	9784502427510	組織間マネジメント・コントロール論：取引関係の構築・維持と管理会計		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1020	9784502439018	エッセンシャル管理会計	第 4 版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1021	9784532113957	会計学入門	第 5 版	日経 B P M（日本経済新聞出版本部）
1022	9784822255657	ビジネススクールで教えている会計思考 7 7 の常識		日経 B P (発売：日経 B P マーケティング)
1023	9784167910600	帳簿の世界史		文藝春秋
1024	9784419065089	会計の歴史	改訂版	税務経理協会
1025	9784793006197	会計学の考え方		泉文堂
1026	9784495135799	会計学基礎論	第 6 版	同文館出版
1027	9784502371516	1 からの会計	第 2 版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1028	9784502398315	起業ストーリーで学ぶ会計		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1029	9784502422416	テキスト会計学講義	第 2 版	中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1030	9784641221970	はじめて出会う会計学	第 3 版	有斐閣
1031	9784495203238	スタートアップ会計学	第 3 版	同文館出版
1032	9784480074751	会計と経営の七〇〇年史：五つの発明による興奮と狂乱		筑摩書房
1033	9784478116722	グロービス MBA アカウンティング	改訂 4 版	ダイヤモンド社
1034	9784561352280	ケースでまなぶ財務会計：新聞記事のケースを通して財務会計の基礎をまなぶ	第 9 版	白桃書房
1035	9784296117239	財務諸表の見方	第 1 4 版	日経 B P (発売：日経 B P マーケティング)
1036	9784502439117	日本の会計基準, 1		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1037	9784502439216	日本の会計基準, 2		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)
1038	9784502439315	日本の会計基準, 3		中央経済社(発売：中央経済グループパブリッシング)

電子図書（内国書）

	ISBN	書名	出版社名
1	9784818825635	A I の基本：人工知能のしくみと活用	日本経済評論社
2	9784492396513	A I × 地方創生：データで読み解く地方の未来	東洋経済新報社
3	9784762830471	言葉と数式で理解する多変量解析入門	北大路書房
4	9784627849129	はじめての情報理論	森北出版
5	9784798158228	事例で学ぶ！あたらしいデータサイエンスの教科書	翔泳社
6	9784254129113	データサイエンス入門	朝倉書店
7	9784780607307	データサイエンス入門	学術図書出版社
8	9784274218026	進化計算と深層学習：創発する知能	オーム社

9	9784274221002	Rによるやさしいテキストマイニング [機械学習編]	オーム社
10	9784798169460	Python	翔泳社
11	9784798164960	Python 2年生 データ分析のしくみ	翔泳社
12	9784274226984	Python コンピュータシミュレーション入門	オーム社
13	9784274228988	Python 意思決定の数理解入門	オーム社
14	9784274228988	Python 意思決定の数理解入門	オーム社
15	9784798166575	Python3年生 機械学習のしくみ	翔泳社
16	9784254122589	Pythonインタラクティブ・データビジュアライゼーション入門	朝倉書店
17	9784798163239	Pythonではじめるアルゴリズム入門	翔泳社
18	9784274225963	Pythonで学ぶ はじめてのAIプログラミング	オーム社
19	9784798171944	Pythonで学ぶあたらしい統計学の教科書 第2版	翔泳社
20	9784295011194	Pythonで学ぶアルゴリズムの教科書	インプレス
21	9784295012276	Pythonで学ぶ音声合成	インプレス
22	9784295011385	Pythonで学ぶ音声認識	インプレス
23	9784295015994	Pythonで学ぶ画像認識	インプレス
24	9784339029079	Pythonによるアルゴリズムとデータ構造の基礎	コロナ社
25	9784254129014	Pythonによるマクロ経済予測入門	朝倉書店
26	9784254275889	Pythonによる金融テキストマイニング	朝倉書店
27	9784254128994	Pythonによる計量経済学入門	朝倉書店
28	9784798163970	データ分析者のためのPythonデータビジュアライゼーション入門	翔泳社
29	9784938927998	よくわかる Python入門	FOM出版
30	9784320124936	アジャイルリーダーシップ	共立出版
31	9784274230431	実践スクラム	オーム社
32	9784764906204	機械学習	近代科学社
33	9784274228810	入門 ディープラーニング	オーム社
34	9784295408154	データドリブンマーケティングがうまくいく仕組み	クロスメディア・パブリッシング
35	9784641177321	マーケティングをつかむ 第3版	有斐閣
36	9784641166035	入門・マーケティング戦略 新版	有斐閣
37	9784492962114	データドリブン経営の不都合な真実	東洋経済新報社
38	9784641166028	イノベーション	有斐閣
39	9784502436710	イノベーション・エコシステムの誕生	中央経済社
40	9784764906044	AI事典 第3版	近代科学社
41	9784274230363	メタパースの教科書	オーム社
42	9784339029284	基礎から学ぶ推薦システム	コロナ社
43	9784274222375	実戦データマイニング	オーム社
44	9784764904897	人工知能とは	近代科学社
45	9784621307465	わかりやすい統計学	丸善出版
46	9784422400679	データサイエンス	創元社

外国書

	ISBN	書名	書名和訳	版
1	9780262535106	The Essential Tversky (The Essential Tversky)	行動経済学の元祖トヴェルスキー重要論文集（カーネマン後書）	
2	9780198835608	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume I: Behavioral Economics of Risk, Uncertainty, and Ambiguity	行動経済学入門：分析の基礎（第1巻）リスクと不確実性下の意思決定	
3	9780198837435	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume II: Other-Regarding Preferences	行動経済学入門：分析の基礎（第2巻）社会的選好	
4	9780198837442	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume III: Behavioral Time Discounting	行動経済学入門：分析の基礎（第3巻）異時点間選択	
5	9780198847250	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume IV: Behavioral Game Theory	行動経済学入門：分析の基礎（第4巻）ゲーム理論	
6	9780198853671	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume V: Bounded Rationality	行動経済学入門：分析の基礎（第5巻）限定合理性	
7	9780198853688	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume VI: Behavioral Models of Learning	行動経済学入門：分析の基礎（第6巻）学習モデル	
8	9780198861959	The Foundations of Behavioral Economic Analysis : Volume VII: Further Topics in Behavioral Economics	行動経済学入門：分析の基礎（第7巻）行動経済学のトピックス	
9	9780444633743	Handbook of Behavioral Economics - Foundations and Applications 1 (Handbook of Behavioral Economics)	行動経済学ハンドブック：基礎と応用（第1巻）	
10	9780444633750	Handbook of Behavioral Economics - Foundations and Applications 2 (Handbook of Behavioral Economics)	行動経済学ハンドブック：基礎と応用（第2巻）	
11	9781473756540	Multivariate Data Analysis	多変量データ解析（第8版・テキスト）	8TH
12	9781119693413	Smarter Data Science : Succeeding with Enterprise-Grade Data and AI Projects	ビジネスで成功するためのデータサイエンス・AIプロジェクト入門	
13	9781119758334	Data Analytics for Organisational Development : Unleashing the Potential of Your Data	組織開発のためのデータ解析	
14	9780198779575	Big Data: a Very Short Introduction (Very Short Introductions)	VSIビッグデータ	
15	9780198785705	Teaching Statistics : A Bag of Tricks	統計学教授法（第2版）	2ND
16	9780262535434	Data Science (The Mit Press Essential Knowledge series)	『データサイエンス』（原書）（MITエッセンシャル・ナレッジ・シリーズ）	
17	9780387848570	The Elements of Statistical Learning : Data Mining, Inference, and Prediction (Springer Series in Statistics)	『統計的学習の基礎：データマイニング・推論・予測』（第2版）原書	2ND
18	9780415842365	Applied Multivariate Statistical Concepts	応用多変量統計学の概念（テキスト）	
19	9780470387375	Nonparametric Statistical Methods (Wiley Series in Probability and Statistics)	ノンパラメトリック統計法（第3版）	3RD
20	9780470526798	Statistical Analysis with Missing Data (Wiley Series in Probability and Statistics)	欠損データによる統計学的解析（第3版）	3RD
21	9780521766999	The Cambridge Dictionary of Statistics	ケンブリッジ統計学辞典（第4版）	4TH
22	9781107028289	Predictive Statistics : Analysis and Inference beyond Models (Cambridge Series in Statistical and Probabilistic Mathematics)	予測統計学：モデルを超える解析と推論	
23	9781108407120	Topics at the Frontier of Statistics and Network Analysis : (Re)Visiting the Foundations (Semstat Elements)	統計学とネットワーク解析の未踏論点	
24	9781119561071	Computational Statistics in Data Science	データサイエンスのための計算統計学ハンドブック	
25	9781498728966	Multivariate Statistical Methods : A Primer, Fourth Edition	多変量統計学の手法（テキスト・第4版）	4TH
26	9781584886587	Longitudinal Data Analysis (Chapman & Hall/crc Handbooks of Modern Statistical Methods)	縦断的データ分析	
27	9781316516782	Mathematical Aspects of Deep Learning	深層学習の数学的側面	
28	9783030403461	Linear Algebra and Optimization for Machine Learning : A Textbook	機械学習のための線形代数と最適化（テキスト）	
29	9780262035613	Deep Learning (Adaptive Computation and Machine Learning series)	『深層学習』（原書）	
30	9780262039246	Reinforcement Learning : An Introduction (Adaptive Computation and Machine Learning series)	『強化学習』（原書）第2版	2ND
31	9781119403081	Cultural Algorithms : Tools to Model Complex Dynamic Social Systems (IEEE Press Series on Computational Intelligence)	文化的アルゴリズム：複雑動態社会システムのモデル化ツール	
32	9781119654742	Machine Learning and Big Data : Concepts, Algorithms, Tools and Applications	機械学習とビッグデータ・概念・アルゴリズム・ツール・応用	
33	9781786306944	Societal Responsibility of Artificial Intelligence : Towards an Ethical and Eco-Responsible AI	人工知能の社会的責任	
34	9781119566250	Data Science Strategy for Dummies	誰でもわかるビジネス戦略のためのデータサイエンス	

35	9781119597841	Modern Big Data Architectures : A Multi-Agent Systems Perspective	ビッグデータのアーキテクチャ	
36	9781119821182	Data Conscience : Algorithmic Siege on our Humanity	データサイエンスの良心	
37	9781492041139	Data Science from Scratch : First Principles with Python	『ゼロからはじめるデータサイエンスーP y t h o nで学ぶ基本と実践』 (原書)	2ND
38	9781786305558	Big Data : An Art of Decision Making	ビッグデータ : 意思決定の技術	
39	9789811951534	Data Science in Societal Applications : Concepts and Implications (Studies in Big Data)	データサイエンスの社会的応用	
40	9780367463083	The Routledge Companion to Marketing and Society (Routledge Companions in Marketing, Advertising and Communication)	ラウトレッジ版 マーケティングと社会必携	
41	9780367476632	The Routledge Companion to Corporate Branding (Routledge Companions in Marketing, Advertising and	ラウトレッジ版 企業ブランディング必携	
42	9783031182143	Visualizing Marketing : From Abstract to Intuitive (Palgrave Studies in Marketing, Organizations and Society)	可視化するマーケティング : 抽象から直観へ (第2版)	2ND
43	9783030669157	Marketing Management : Past, Present and Future (Springer Texts in Business and Economics)	マーケティング管理 (第4版)	4TH
44	9781071851647	Social Marketing : Behavior Change for Good	P. コトラー (共) 著/ソーシャル・マーケティング (第7版)	7TH
45	9783658412968	Effectiveness of Influencer Marketing	インフルエンサー・マーケティングの有効性	
46	9780367426866	Essentials of Consumer Behavior : An Applied Approach	消費者行動の基礎 (第2版)	2ND
47	9781529781212	Marketing Communications	マーケティング・コミュニケーション (第4版)	4TH
48	9781529754056	Consumer Behaviour	消費者行動 (第5版)	5TH
49	9780367444754	Digital Marketing Excellence : Planning, Optimizing and Integrating Online Marketing	優れたデジタル・マーケティング (第6版)	6TH
50	9781352013191	Marketing Analytics : Based on First Principles	マーケティング・アナリティクス	
51	9781529720129	Brand Management : Co-creating Meaningful Brands	ブランド管理 : 意義あるブランド共創 (第2版)	2ND
52	9781446256152	Marketing Research : A Managerial Approach	マーケティング調査入門 : 経営的アプローチ	
53	9780367555351	Contemporary Issues in Digital Marketing	デジタル・マーケティングの今日的論点	
54	9780367771331	Behavioural Research for Marketing : A Practitioner's Handbook	マーケティングのための行動科学 : 実務家向けハンドブック	
55	9780300248036	The Voice Catchers : How Marketers Listen in to Exploit Your Feelings, Your Privacy, and Your Wallet	音声認識によるマーケティングと新たな監視の時代	
56	9781119668510	Marketing 5.0 : Technology for Humanity	『コトラーのマーケティング5.0 : デジタル・テクノロジー時代の革新戦略』 (原書)	
57	9781839106743	Handbook of Research on Artificial Intelligence, Innovation and Entrepreneurship (Research Handbooks in Business and Management series)	人工知能、イノベーションと起業 : 研究ハンドブック	
58	9781799850151	Handbook of Research on Management and Strategies for Digital Enterprise Transformation	デジタル企業への変革のための管理戦略 : 研究ハンドブック	
59	9781800611320	Artificial Intelligence and Innovation Management (Series on Technology Management)	人工知能とイノベーション管理	
60	9783030782368	Introduction to Digital Economics : Foundations, Business Models and Case Studies	デジタル経済学入門 (第2版)	2ND
61	9781529620917	Foundations of Programming, Statistics, and Machine Learning for Business Analytics	ビジネス・アナリティクスのためのプログラミング、統計、機械学習の基礎	
62	9781529796117	Business Analytics : Combining data, analysis and judgement to inform decisions	ビジネス・アナリティクス	
63	9781032196329	Data Science and Analytics Strategy : An Emergent Design Approach (Chapman & Hall/crc Data Science Series)	データサイエンスとアナリティクス戦略	
64	9781032017242	Big Data for Big Decisions : Building a Data-Driven Organization	ビッグな意思決定のためのビッグデータ : データ駆動組織の構築	
65	9789811260452	Digital Transformation Demystified (Digital Transformation: Accelerating Organizational Intelligence)	D X の本題	
66	9781032280769	The Discipline of Data : What Non-Technical Executives Don't Know about Data and Why It's Urgent They Find Out	リーダーが知るべきデータの意味	
67	9781398602663	Platform Strategy : Transform Your Business with AI, Platforms and Human Intelligence	プラットフォーム戦略による事業変革	
68	9781398602588	Data Strategy : How to Profit from a World of Big Data, Analytics and Artificial Intelligence	データ戦略 (第2版)	2ND

69	9781789667554	Getting to Nimble : How to Transform Your Company into a Digital Leader	デジタル企業への変革	
70	9781647822163	HBR's 10 Must Reads on Leading Digital Transformation (Hbr's 10 Must Reads)	ハーバード・ビジネス・レビュー 10 の必読文献 : D X	
71	9781647821753	The Year in Tech, 2022 : The Insights You Need from Harvard Business Review (Hbr Insights Series)	ハーバード・ビジネス・レビューからの知見 : テクノロジー この 1 年 (2022年版)	
72	9780262542760	Designed for Digital : How to Architect Your Business for Sustained Success (Management on the Cutting Edge)	デジタル企業への変革デザイン	
73	9780367695095	Organizational Behavior Today	現代の組織行動	
74	9781119756835	Reframing Organizations : Artistry, Choice, and Leadership	組織論の再編成 : 多角的考察 (第 7 版)	7TH
75	9780367713638	Organization Theory : A Research Overview (State of the Art in Business Research)	組織論の研究見取図	
76	9781119815846	Change : How Organizations Achieve Hard-to-Imagine Results in Uncertain and Volatile Times	J. P. コッター (共) 著 / 組織変革 : 不確実・不安定な時代に求められる劇的な手法	
77	9781032516967	Making Sense of Stakeholder Management (Routledge-giappichelli Studies in Business and Management)	ステークホルダー管理を理解する	
78	9780192845399	Strategy : Theory, Practice, Implementation	経営戦略テキスト (第 2 版)	2ND
79	9781032041872	Business Innovation : A Case Study Approach	ビジネス・イノベーション : 事例研究アプローチ	
80	9780367490881	Rethinking Leadership : A Critique of Contemporary Theories	パンデミック時代のリーダーシップ理論再考	
81	9781529734959	Managing Change, Creativity and Innovation	変化、創造性とイノベーションの管理 (第 4 版)	4TH
82	9781119889090	Strategic Management (International Adaptation)	戦略的経営 (国際版テキスト・第 4 版)	4TH
83	9781009114929	Corporate Sustainability : Managing Responsible Business in a Globalised World	企業の持続可能性 (第 2 版)	2ND
84	9781529793604	Organizational Leadership	組織的リーダーシップ (第 2 版)	2ND
85	9781035315505	Handbook of Research on Creativity and Innovation (Research Handbooks in Business and Management series)	創造性とイノベーション : 研究ハンドブック	
86	9781032402390	The Routledge Companion to Leadership (Routledge Companions in Business, Management and Marketing)	ラウトレッジ版 リーダーシップ必携	
87	9781032172804	The Routledge Companion to Inclusive Leadership (Routledge Companions in Business, Management and Marketing)	ラウトレッジ版 包括的リーダーシップ必携	
88	9781265028244	Crafting & Executing Strategy : The Quest for Competitive Advantage - Concepts and Cases (ISE)	戦略の策定と実行 : 概念と事例 (第 2 3 版・テキスト)	23RD
89	9781032476056	The Routledge Companion to Coopetition Strategies (Routledge Companions in Business, Management and Marketing)	ラウトレッジ版 コーペティション戦略必携	
90	9781398604827	Advancing Strategy through Behavioural Psychology : Create Competitive Advantage in Relentlessly Changing	行動心理学に基づく経営戦略	
91	9789811268410	Doing Well and Doing Good: Human-centered Digital Transformation Leadership (Digital Transformation: Accelerating Organizational Intelligence)	人間本位のDXリーダーシップ	
92	9781647823412	HBR at 100 : The Most Influential and Innovative Articles from Harvard Business Review's First Century	ハーバード・ビジネス・レビュー創刊100周年記念 : 重要論文選集	
93	9781119819707	The Partnership Economy : How Modern Businesses Find New Customers, Grow Revenue, and Deliver Exceptional Experiences	企業提携の新時代	
94	9780367775124	Management : The Basics (The Basics)	経営学の基本 (第 2 版)	2ND
95	9783030599614	The Economics of Digital Transformation : Approaching Non-Stable and Uncertain Digitalized Production Systems (Studies on Entrepreneurship, Structural Change and Industrial Dynamics)	デジタル化の経済学	

CUP (電子図書 外国書)

no	eISBN	Title	Product Type	Edition
1	9781108348973	Bayesian Optimization	BOOK	
2	9781009025096	Mathematical Aspects of Deep Learning	BOOK	
3	9781108773157	Exponential Families in Theory and Practice	BOOK	
4	9781009272230	Data Science in Context	BOOK	

5	9781108779197	Principles of Statistical Analysis	BOOK	
6	9781009128490	Random Matrix Methods for Machine Learning	BOOK	
7	9781316681411	Probabilistic Numerics	BOOK	
8	9781009053730	The Fundamentals of Heavy Tails	BOOK	
9	9781009023405	The Principles of Deep Learning Theory	BOOK	
10	9781009003933	Mathematical Pictures at a Data Science Exhibition	BOOK	
11	9781108528825	Statistical Hypothesis Testing in Context	BOOK	
12	9781009004282	Optimization for Data Analysis	BOOK	
13	9781009003971	Personalized Machine Learning	BOOK	
14	9781108975704	Topological Data Analysis with Applications	BOOK	
15	9781108938051	Machine Learning Fundamentals	BOOK	
16	9781108860604	Machine Learning with Neural Networks	BOOK	
17	9781108924184	Deep Learning on Graphs	BOOK	
18	9781108955652	Deep Learning in Science	BOOK	
19	9781108616799	Information-Theoretic Methods in Data Science	BOOK	
20	9781108768900	A First Course in Random Matrix Theory	BOOK	
21	9781108639286	Sentiment Analysis	BOOK	2nd Edition
22	9781108653985	Trustworthy Online Controlled Experiments	BOOK	
23	9781139061773	Transfer Learning	BOOK	
24	9781108755528	Foundations of Data Science	BOOK	
25	9781139879354	Variational Bayesian Learning Theory	BOOK	
26	9781108591942	Python by Example	BOOK	
27	9781107338548	Adversarial Machine Learning	BOOK	
28	9781108646185	Computational Bayesian Statistics	BOOK	
29	9781108380690	Data-Driven Science and Engineering	BOOK	
30	9781108627771	High-Dimensional Statistics	BOOK	
31	9781108231596	High-Dimensional Probability	BOOK	
32	9781316882177	Algorithmic Aspects of Machine Learning	BOOK	
33	9781107286184	Statistical Inference as Severe Testing	BOOK	
34	9781139236003	Predictive Statistics	BOOK	
35	9781108528986	Probability on Graphs	BOOK	2nd Edition
36	9781108120241	Python for Scientists	BOOK	2nd Edition
37	9781139029834	Fundamentals of Nonparametric Bayesian Inference	BOOK	
38	9781316576533	Computer Age Statistical Inference	BOOK	
39	9781316335307	Data Management Essentials Using SAS and JMP	BOOK	
40	9781139565868	Statistical Methods for Recommender Systems	BOOK	
41	9781107337862	Mathematical Foundations of Infinite-Dimensional Statistical Models	BOOK	
42	9781139025751	Causal Inference for Statistics, Social, and Biomedical Sciences	BOOK	
43	9781107587991	Counterfactuals and Causal Inference	BOOK	2nd Edition

44	9781107298019	Understanding Machine Learning	BOOK		
45	9781139344203	Bayesian Filtering and Smoothing	BOOK		
46	9780511973000	Machine Learning	BOOK		
学術雑誌（電子ジャーナル）					
	ISSN	誌名	購読形態	出版社名	刊行頻度
1	1537-2731	American Statistician	OJ	Taylor & Francis Limited	QUARTERLY
2	1530-8898	Journal of Cognitive Neuroscience	OJ	The M.I.T. Press	MONTHLY
3	2694-4030	INFORMS Journal on Data Science	OJ	Informa	2N

必修科目比較表

データサイエンス学部					社会情報学部							
データサイエンス学科					社会情報学科							
					社会生活情報学専攻			情報デザイン専攻				
専門教育科目	入門科目	統計・情報系科目群	数理・統計分野科目	線形代数学Ⅰ	学部共通科目	コンピュータの基礎		学部共通科目	コンピュータの基礎			
			統計分野科目	微積分学Ⅰ		情報処理実習A			情報処理実習A			
			統計分野科目	統計学入門		情報処理実習B			情報処理実習B			
			情報分野科目	情報処理入門		基礎社会学			基礎社会学			
				コンピュータの基礎	情報基礎数学		情報基礎数学					
				プログラミングⅠ								
		ビジネス系科目群	経済分野科目	経済学入門	専門教育科目	経営学入門		専門教育科目	基礎情報	情報処理原論		
			経営分野科目	経営学入門		基礎経済学				情報数学A		
	データサイエンス科目	データサイエンス入門		社会生活情報基礎演習Ⅰ		システムコア（システム）	情報システム論及び実習Ⅰ					
				社会生活情報基礎演習Ⅱ			情報システム論及び実習Ⅱ					
	演習科目	入門演習Ⅰ		プログラミングの基礎			システムコア（プログラミング）		プログラミング入門			
		入門演習Ⅱ		プログラミング基礎演習					プログラミングの基礎			
	データサイエンス科目	データサイエンス倫理		社会情報学ゼミナールⅠ					プログラミング基礎演習			
				社会情報学ゼミナールⅡ					プログラミング論及び演習			
	基礎科目	演習科目	基礎演習Ⅰ				社会情報学ゼミナールⅢ		デザインコア	デザイン論及び演習Ⅰ		
			基礎演習Ⅱ				社会情報学ゼミナールⅣ			デザイン論及び演習Ⅱ		
		発展科目	演習科目	専門演習Ⅰ				総合学習		情報デザイン基礎演習		
				専門演習Ⅱ						クリエイティブ思考法		
				専門演習Ⅲ						社会情報学ゼミナールⅠ		
専門演習Ⅳ				社会情報学ゼミナールⅡ								
卒業研究				社会情報学ゼミナールⅢ								
		社会情報学ゼミナールⅣ										
		卒業研究										

19科目					15科目					22科目				
------	--	--	--	--	------	--	--	--	--	------	--	--	--	--

※社会生活情報学専攻、情報デザイン専攻は令和6年度のカリキュラムに基づく。

※全学共通科目は除く。

1. (書類の題名)

進路統計2023 2023.3 卒 (一部抜粋) (【資料15】)

2. (その他の説明)

「進路統計2023 2023.3 卒」の産業分類別就職者数に関するページを添付した。

データサイエンスを学ぶ上で必要な数学に関する対応表
(高校での学習、一般選抜、入学前学習、リメディアル教育、正課授業)

DSに必要な数学

高校・入学前						入学後		データサイエンスで 必要な数学※2	
高校での学習			一般選抜出題範囲		一般選抜調査書 配点対象	入学前学習	リメディアル 科目		正課授業科目
科目名	項目	必修科目	A方式	B方式※1	教科「数学」を 得点化	DVD等の教材で学習	「基礎数学」		授業範囲
数学Ⅰ	(1)数と式	○	○	①、②	○	○	○		3分野の基礎
	(2)図形と計量	○	○	①、②	○	○	○		3分野の基礎
	(3)二次関数	○	○	①、②	○	○	○		微積分学
	(4)データの分析	○	○	①、②	○	○	○	○	確率論・統計学
数学Ⅱ	(1)いろいろな式		○	③	○	○	○		3分野の基礎
	(2)図形と方程式		○	③	○				
	(3)指数関数・対数関数		○	③	○	○	○		微積分学
	(4)三角関数		○	③	○	○	○		微積分学
	(5)微分・積分の考え		○	③	○	○	○	○	微積分学
数学Ⅲ	(1)極限				○				
	(2)微分法				○	○	○	○	微積分学
	(3)積分法				○	○	○	○	微積分学
数学A	(1)図形の性質		○	②	○				
	(2)場合の数と確率		○	②	○	○	○	○	確率論・統計学
	(3)数学と人間の活動			②	○				
数学B	(1)数列			③	○				
	(2)統計的な推測			③	○	○	○	○	確率論・統計学
	(3)数学と社会生活				○				
数学C	(1)ベクトル			③	○	○	○		線形代数学
	(2)平面上の曲線と複素数 平面			③	○				
	(3)数学的な表現の工夫				○	○	○	○	3分野の基礎

※1 一般選抜B方式欄の①は「数学Ⅰ」選択者、②は「数学Ⅰ、数学A」選択者、③は「数学Ⅱ、数学B、数学C」選択者のそれぞれの出題範囲

※2 「3分野の基礎」とは、「微積分学」、「線形代数学」、「確率論・統計学」の基礎として必要な事項を示す

上記の他、他大学の数理・データサイエンス関連学部学生・大学院生に相談できる「**数学カフェ**」（週2回程度開設）や生成AIを活用した質問対応システムなどの導入により個別学習を可能とする。

基礎数学の授業内容(案)

基礎数学 各回講義項目

はじめに

1. データサイエンスのための大学数学とは

数学基礎

2. 関数とは: 一次関数と二次関数
3. 指数関数と対数関数
4. 三角関数

微積分学とのつながり

5. 微分法①
6. 微分法②
7. 積分法①
8. 積分法②

線形代数とのつながり

9. ベクトル

確率・統計学とのつながり

10. 場合の数と確率
11. 期待値
12. データのまとめ方(ヒストグラム, 平均, 標準偏差, 四分位数, 箱ひげ図)
13. 相関係数
14. 統計的な推測

高校数学から大学数学への橋渡し

15. 行列と変換